

長ノ職ニ在リ從テ右選舉事務ニ關係アル吏員ナリシカ

(一) 昭和十一年二月十八日頃前記長崎日日新聞社内ニ於テ被告人松浦官ト先之同月三日頃自己カ前記候補者本田英作(當時同候補自ラ選舉事務長タリ)ヨリ選舉運動費用概算前渡トシテ交付ヲ受ケタル金二百圓ノ精算ヲ爲スニ當リ其ノ支出剩餘金七十九圓十四錢ニ付右官ニ對シ自己カ同候補ノ爲選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬トシテ之カ返還債務ヲ免除シ吳レ度キ旨申込ミ斯クテ翌十九日頃右長崎日日新聞社内ニ於テ官ヨリ同人カ被告人ヨリ右支出剩餘金ノ返還ヲ受ケタル旨ノ虚偽ノ受取證ノ交付ヲ受ケテ右申込ミニ對スル承諾ヲ與ヘラレ因テ財産上ノ利益ノ供與ヲ受ケ

(二) 同月二十五日被告人朝日豐次郎ヨリ同人カ右候補者本田英作ノ爲選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬トシテ同候補ニ對シ金五十圓供與ノ要求方ヲ傳達セラレ度キ旨依頼セララルヤ之ニ應シ同日長崎市爐粕町ノ自宅ヨリ電話ヲ以テ右本田英作ニ其ノ旨ヲ通シ以テ被告人朝日豐次郎ノ右要求ヲ周旋シ

第四 被告人朝日豐次郎ハ

(一) 昭和十一年二月二十四日頃前記候補者本田英作方ニ於テ被告人松浦官ト豫テ自己カ選舉事務長ヲ兼任シ居タル同候補及其ノ後任選舉事務長タル右官ヨリ選舉運動費用概算前渡トシテ交付ヲ受ケ居タル合計金三百圓ノ精算ヲ爲スニ當リ其ノ支出剩餘金百六十八圓四十一錢ニ付右官ニ對シ精算書ヲ提出シタルノミニテ該剩餘金ノ返還ヲ爲サス其ノ儘本田方ヲ立出テ以テ暗ニ自己カ同候補ノ爲選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬トシテ右剩餘金ノ返還債務ヲ免除セラレ度キ旨ノ要求ヲ爲シ

(二) 同月二十五日被告人松本勝ニ對シ自己カ右候補者本田英作ノ爲選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬トシテ同候補ニ金五十圓供與ノ要求方ヲ傳達セラレ度キ旨依頼シ斯クテ同日右勝ヲシテ長崎爐粕町ノ同人方ヨリ電話ヲ以テ本

田英作ニ其ノ旨ヲ通セシメ以テ右勝ヲ介シ本田英作ニ對シテ金五十圓ノ運動報酬ノ供與方ヲ要求シ

第五 被告人中島司馬ハ昭和十一年二月二十四日頃前記候補者本田英作方ニ於テ同候補ト豫テ自己カ同候補ヨリ直接ニ若クハ選舉事務長松浦官等ヲ介シテ交付ヲ受ケ居タル選舉運動費用概算前渡金合計四百七十五圓ノ精算ヲ爲スニ當リ其ノ支出剩餘金約四十八圓ニ付同候補ニ對シ自己カ同候補ノ爲選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬トシテ之カ返還債務ヲ免除シ吳レ度キ旨申込ミ即時之カ承諾ヲ得テ財産上ノ利益ノ供與ヲ受ケ

第六 被告人中尾堅ハ昭和十一年二月二十二日頃前記長崎日日新聞社内ニ於テ被告人松浦官ト豫テ選舉事務長タル同人及其ノ前任選舉事務長ヨリ選舉運動費用概算前渡トシテ交付ヲ受ケ居タル合計金百圓ノ精算ヲ爲スニ當リ其ノ支出剩餘金二十八圓十錢ニ付右官ニ對シ之カ精算書ヲ提出シタルノミニテ該剩餘金ノ返還ヲ爲サス以テ暗ニ自己カ前記候補者本田英作ノ爲選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬トシテ右剩餘金ノ返還債務ヲ免除セラレ度キ旨申込ミ斯クテ同月二十八日頃官ヨリ同人カ被告人ヨリ右剩餘金ノ返還ヲ受ケタル旨ノ虚偽ノ受取證ノ送付ヲ受ケテ右申込ニ對スル承諾ヲ得以テ財産上ノ利益ノ供與ヲ受ケ

第七 被告人淺田眞仙ハ昭和十一年二月十四日頃前記長崎日日新聞社内ニ於テ被告人松浦官ヨリ自己カ前記候補者本田英作ノ爲演說ニ依ル選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金三十圓ノ供與ヲ受ケ

タルモノシテ被告人本田英作同松浦官同松本勝同朝日豐次郎ノ右各所爲ハ夫々犯意ノ繼續ニ係ルモノトス法律ニ照スニ被告人本田英作ノ判示所爲ハ衆議院議員選舉法第十二條第一項第三號刑法第五十五條ニ該當スルニ依リ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ所定金額内ニ於テ同被告人ヲ罰金五百圓ニ處シ被告人松浦官ノ判示所爲中金員ノ供與ヲ受ケタル點ハ同選舉法第十二條第一項第四號ニ金員ヲ供與シタル點ハ同選舉法第十二條第一項第一號ニ債務ノ免除ニ依ル利益供與ノ點ハ各同選舉法第十二條第一項第三號ニ夫々該當スルトコロ以上ハ犯意ノ繼續ニ係ルヲ以テ

議員候補者ト選舉運動費用ノ支出剩餘金返還義務免除

刑法第五十五條ニ則リ結局同選舉法第十二條第一項ノ罪ノ一罪ト爲シ依テ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ同被告人ヲ禁錮三月ニ處シ被告人松本勝ノ判示所爲ハ同選舉法第十二條第二項前段刑法第五十五條ニ該當スルニ依リ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ所定金額内ニ於テ同被告人ヲ罰金二百圓ニ處シ被告人朝日豐次郎ノ判示所爲ハ同選舉法第十二條第一項第四號刑法第五十五條ニ該當スルニ依リ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ同被告人ヲ禁錮三月ニ處シ被告人中島司馬八ノ判示所爲ハ同選舉法第十二條第一項第四號ニ該當スルニ依リ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ所定金額内ニ於テ同被告人ヲ罰金百圓ニ處シ被告人中尾堅ノ判示所爲ハ同選舉法第一百二條第一項第四號ニ該當スルニ依リ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ所定金額内ニ於テ同被告人ヲ罰金六十圓ニ處シ被告人淺田眞仙ノ判示所爲ハ同選舉法第十二條第一項第四號ニ該當スルトコロ同被告人ハ昭和十一年五月十六日長崎區裁判所ニ於テ衆議院議員選舉法違反罪ニ依リ罰金三十圓ニ處セラレ該判決ハ既ニ確定シ居リ此ノ罪ト本件犯罪トハ刑法第四十五條後段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第五十條ニ則リ本件犯罪ニ付更ニ處斷スヘク依テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ所定金額内ニ於テ同被告人ヲ罰金百圓ニ處シ尙罰金刑ニ處セラレタル右被告人等ニシテ當該罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ金四圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置スヘク尙被告人松浦官カ判示第二ノ(一)ニ於テ供與ヲ受ケタル金五十圓被告人中尾堅カ判示第六ニ於テ免除ヲ受ケタル債務額金二十八圓十錢ハ何レモ同被告人等ノ收受シタル利益ナルモ現存セス沒收スルコト能ハサルヲ以テ同選舉法第一百四條ニ則リ同被告人等ヨリ夫々其ノ價格ヲ追徵スヘク(被告人松本勝同中島司馬八同淺田眞仙ノ三名ハ何レモ判示收受利益ヲ返還シタリ)訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ヲ適用シ被告人中尾堅ヲシテ其ノ全部ヲ負擔セシムヘキモノトス

本件公訴事實中

一 被告人本田英作カ松浦官ト共謀ノ上昭和十一年二月下旬頃長崎市大村町長崎日日新聞社内選舉事務所ニ於テ被告

人松本勝ト豫テ同人ニ選舉運動費用概算前渡トシテ交付シアリタル金二百圓ノ精算ヲ爲スニ當リ松本カ被告人ノ爲選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬トシテ其ノ支出剩餘金七十九圓十四錢ニ付同人ニ對シ之カ辨濟ヲ免除シ因テ同人ヲシテ財産上ノ利益ヲ得シメタリトノ點

一 被告人松浦官カ(一)昭和十一年二月二十四日頃本田英作ト共謀ノ上同人ノ肩書居宅ニ於テ被告人中島司馬八ト豫テ同人ニ選舉運動費用概算前渡トシテ交付シアリタル金四百七十五圓ノ精算ヲ爲スニ當リ被告人中島カ被告人本田ノ爲選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬トシテ其ノ支出剩餘金約四十八圓ニ付中島ニ對シ之カ辨濟ヲ免除シ因テ同人ヲシテ財産上ノ利益ヲ得シメタル外(二)同月二十四、五日頃右本田方ニ於テ被告人朝日豐次郎ト豫テ同人ニ選舉運動費用概算前渡トシテ交付シアリタル金三百圓ノ精算ヲ爲スニ當リ同人カ右本田ノ爲選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬トシテ其ノ支出剩餘金百六十八圓四十一錢ニ付之カ取立ヲ爲サス因テ朝日ヲシテ財産上ノ利益ヲ得シメタリトノ點ハ孰レモ犯罪ノ證明ナキモ右被告人本田英作同松浦官ニ對シ有罪ト認定シタル前段ノ事實ト夫々連續犯ノ關係アルモノトシテ起訴セラレタルモノニ係ルヲ以テ特ニ主文ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲サス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人中島司馬八辯護人松永東、本田泰隆、松山義雄、藤岩睦郎上告趣意書第一點原判決ハ不當ニ法律ヲ解釋シタル違法アリ(イ)即原審判決判示第五ニ於テ「被告人中島司馬八ハ昭和十一年二月二十四日頃長崎市袋町本田英作方ニ於テ同候補ヨリ直接ニ若クハ選舉事務長松浦官等ヲ介シテ交付ヲ受ケ

議員候補者ト選舉運動費用ノ支出剩餘金返還義務免除

居リタル選舉運動費用概算前渡金合計金四百七十五圓ノ精算ヲ爲スニ當リ其ノ支出剩餘金約四十八圓ニ付同候補ニ對シ自己カ同候補ノ爲選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬トシテ之カ返還債務ヲ免除シ吳レ度キ旨申込ミテ即時之カ承諾ヲ得テ財産上ノ利益供與ヲ受ケト判示シ以テ衆議院議員選舉法第一百二條第一項第四號ニ該當スル旨決定セルモ選舉運動費用ノ支出ハ專ラ選舉事務長ノ掌ル處ニシテ其ノ處分行爲モ亦專ラ選舉事務長ノ掌ル處ニシテ選舉事務長ニ非サル第三者ハ之カ處分ノ權限ヲ有セサルモノナルコト選舉法規定ノ趣旨ヨリシテ明瞭ナリ依テ選舉運動費用ノ處分ニ付テハ候補者ト雖其ノ處分ノ權限ナキコト明ナリ然ラハ權限ナキ又能力ナキ者カ選舉運動費用ノ返還債務ノ免除ヲ爲スモ衆議院議員選舉法第一百二條第一項第四號ノ財産供與罪ヲ構成セサルモノナリト思料セラル今本件ヲ觀ルニ衆議院議員候補者本田英作ノ選舉事務長ハ松浦官ニシテ松浦官ハ昭和十一年二月十三日ヨリ選舉事務終了ニ至ル迄選舉事務長トシテ選舉運動費用ノ支出及之カ返還ヲ受クルノ權限アルコト記録上明瞭ナリ即被告人中島司馬八カ昭和十一年二月二十四日本田英作方ニ於テ選舉運動費用ノ精算ヲ爲スニ當リ支出剩餘金四十八圓也餘アリタルコトハ之又記録上明ニシテ右剩餘金四十八圓也モ亦選舉運動費用ノ特質ヲ有スルモノナルコト又明ナリ然ラハ此ノ運動費用ノ返還ヲ受クヘキ主體ハ選舉事務長ナラサルヘカラス他ノ如何ナル者ト雖之カ返還ヲ受クヘキ權能ナシ之選舉法第一百一條ノ規定ヨリ觀ルモ明ナリ果シテ然ラハ昭和十一年二月二十四日長崎市袋町本田英作方ニ於テ事務長ニ非サル本田英作ヨリ選

舉運動費用ノ免除ヲ受ケタレハトテ直チニ選舉法第一百二條第一項第四號ノ犯罪構成スルト爲スハ本條犯罪ノ主體ヲ誤解シタルモノニシテ不當ニ法律ヲ解釋シタル違法アルモノト思料スト云フニ在レトモ

【要旨】

選舉事務長ハ選舉ニ際シテ專ラ選舉運動費用ヲ支出スル權限ヲ有スルモノナルコト所論ノ如シト雖議員候補者カ選舉運動員ニ交付シ置キタル選舉運動費用概算前渡金ノ支出剩餘金ニ付テモ亦選舉事務長ニ非サレハ之カ處分權限ヲ有セストノ理據アルコトナシ蓋議員候補者ト雖選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ナル要件ヲ具備スルニ於テハ適法ニ選舉運動費用支出ノ權限ヲ有スルモノナレハ之カ返還ヲ受クル權限ヲ有スルモノナルコト當然ナリト謂フヘシ從テ候補者ニ於テ之カ返還義務ヲ免除シ得ヘキコトモ亦當然ニシテ之カ免除ヲ得タル者ニ於テ財産上ノ利益ヲ得タルモノト認ムヘキモノナルコト勿論ナリト云フヘシ而シテ原判決ハ被告人中島司馬八ニ於テ候補者本田英作ヨリ直接又ハ間接ニ交付ヲ受ケ居タル選舉運動費用概算前渡金ノ支出剩餘金約四十八圓ニ付同候補者ニ對シ自己カ選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬トシテ之カ返還債務ヲ免除シ吳レ度キ旨申込ミ之カ承諾ヲ得タル事實ヲ證據ニ依リテ確定シタルモノナレハ右所爲ニ對シ衆議院議員選舉法第一百二條第一項第四號ヲ以テ問擬シタルハ相當ニシテ所論ノ違法アリト云フヘカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

議員候補者ト選舉運動費用ノ支出剩餘金返還義務免除

○衆議院議員選舉法違反被告事件(昭和十二年(九)第一三八八號 同年十月十四日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 内田安次郎 辯護人 安齋林八郎

【第一審】 横濱區裁判所 【第二審】 横濱地方裁判所

○判示事項

衆議院議員選舉法第十二條ノ二第一項第二號ニ所謂請負ノ申込ト其ノ相手方

○判決要旨

衆議院議員選舉法第十二條ノ二第一項第二號ニ所謂請負ノ申込ハ苟モ選舉ノ公正ヲ害スル虞アル以上被申込者ノ何人タルヲ問ハサルモノトス

【参照】 衆議院議員選舉法第十二條ノ二 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

- 一 財産上ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ議員候補者ノ爲多數ノ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ前條第一項第一號乃至第三號、第五號又ハ第六號ニ掲クル行爲ヲ爲シ又ハ爲サシメタルトキ
 - 二 財産上ノ利益ヲ得ル目的ヲ以テ議員候補者ノ爲多數ノ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ前條第一項第一號乃至第三號、第五號又ハ第六號ニ掲クル行爲ヲ爲スコトヲ請負ヒ若ハ請負ハシメ又ハ其ノ申込ヲ爲シタルトキ
- 前條第一項第一號乃至第三號、第五號又ハ第六號ノ罪ヲ犯シタル者常習者ナルトキ亦前項ニ同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役二月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ村山組沖仲仕ノ世話役ヲ爲シ居ルモノナルトコロ 昭和十二年四月三十日施行セラレタル衆議院議員選舉ニ際シ財産上ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ同月二十九日横濱市磯子區磯子町濱三百四十五番地ナル神奈川縣第一區ノ議員候補者佐藤安藏方ニ到リ同人ノ妻ミチニ對シ自分ハ村山沖仲仕ノ世話役ナルカ家ニハ百二十、三十票アル故買取り貰ヒタキ旨申向ケ右候補者ノ爲多數ノ選舉人ニ對シ金錢ヲ供與シテ其ノ投票ヲ取纏ムヘキ旨ノ請負ノ申込ヲ爲シタルモノナリ法律ニ照スニ被告人ノ右所爲ハ衆議院議員選舉法第十二條ノ二第一項第二號ニ該當スルヲ以テ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ其ノ所定期限内ニ於テ被告人ヲ懲役二月ニ處スヘキモノトス

衆議院議員選舉法第十二條ノ二第一項第二號ニ所謂請負ノ申込ト其ノ相手方

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人安齋林八郎上告趣意書第二點ハ假リニ佐藤ミチニ對シ原判決ノ如キ投票請負申込ミヲ爲シタリトスルモ右ハ衆議院議員選舉法第百十二條ノ二ノ第一項第二號ニ該當スルモノニ非ス從テ被告ハ無罪タルヘキモノトス同條ニ依レハ投票請負ノ申込ミヲ受クル者ハ選舉運動者タラサルヘカラス而シテ佐藤ミチハ選舉運動者ニ非ス勿論選舉運動者ハ法定運動者ノミニ非ス非合法運動者モ亦之ニ包含セラレヘキヲ以テ佐藤ミチニ於テ被告ノ申込ミニ承諾ヲ表シタル時ハ同人ハ直ニ非合法運動者トナリ被告ノ罪ハ構成スヘキモミチハ直ニ之ヲ拒絕シタルヲ以テミチハ遂ニ非合法運動者タラス從テ被告ハ結局選舉運動者ニ非サルモノニ對シテ申込ミヲ爲シタルニ過キササルヲ以テ本條ノ罪ヲ構成セス本件ニ對スル檢事ノ公訴事實ハ佐藤ミチヲ通シテ候補者佐藤安藏ニ右申込ミヲ爲シタリト云フニアリ第一審判決モ亦同一趣旨ナリシハ前項ノ論難ヲ避クルカ爲ナルコト明カナリト云フニ在レトモ

【要旨】

衆議院議員選舉法第百十二條ノ二ノ第一項第二號ノ所論請負ノ申込ノ犯罪ニ關シ法律ハ被申込者ニ付何等規定スルトコロナキヲ以テ苟モ該請負ノ申込カ選舉ノ公正ヲ害シ又害スル虞アル以上ハ被申込者ノ何人タルヲ問ハス右犯罪成立スルモノトス本件ニ於テ判示認定ノ如ク被告人カ判示選舉ニ際シ財產上ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ判示ノ如キ投票ヲ取纏ムル旨請負ノ申込ヲ爲シタル相手方ハ該選舉ニ於ケル議員候補者佐藤安藏ノ妻ミチナルカ故ニ選舉ノ公正ヲ害スル虞アルコト勿論ナリ原判決カ判示事實ニ判示法條ヲ適用處斷シタルハ正當ニシテ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事横田麟二關與

○競馬法違反被告事件

(昭和十二年(九)第一四二八號 同年十月二十日第五刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 菅内 紳六 外三名 辯護人 福田市太郎

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京刑事地方裁判所

○判 示 事 項

昭和十一年法律第三十一號ニ依ル改正前ノ競馬法第十四條第三號

昭和十一年法律第三十一號ニ依ル改正前ノ競馬法第十四條第三號及同法第十五條第六號ノ犯罪ト其ノ犯行ノ場所

及同法第十五條第六號ノ犯罪ト其ノ犯行ノ場所

○判決要旨

昭和十一年法律第三十一號ニ依ル改正前ノ競馬法第一條所定ノ法人ノ開催ニ係ル競馬ノ競走ニ關シ業トシテ多數者ニ對シ財物ヲ以テ賭事ヲ爲ストキハ其ノ當該競馬場内ニ於テスルト將夕其ノ場外ニ於テスルトヲ問ハス同法第十四條第三號ニ該當シ從テ當該競馬場外ニ於テ如上行爲ヲ爲ス者ノ相手方ト爲リタルモノモ同法第十五條第六號ニ該當スルモノトス

【參照】大正十二年法律第四十七號競馬法第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

(中略)

二 第十三條第二號ノ停止又ハ制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

同法第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

(中略)

五 第七條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタルニ非サル券面金額ノ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

昭和六年法律第三十三號競馬法中左ノ通改正ス

第十四條ノ内

「五千圓以下ノ罰金ニ處ス」ヲ「五千圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ其ノ刑ヲ併科ス」ニ改メ

同條第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

三 第一條ノ法人ノ開催スル競馬ノ競走ニ關シ業トシテ多數ノ者ニ對シ財物ヲ以テ賭事ヲ爲シタル者

同法第十五條第五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

六 前條各號ノ一ニ規定スル行爲ノ相手方ト爲リタル者

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人菅内紳六ヲ罰金七十圓ニ被告人岡田雄三ノ罰金五十圓ニ被告人古屋幸及中村政次郎ヲ罰金三十圓ニ各處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間當該被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人等ハ孰レモ昭和十一年三月二十八日ヨリ同年四月十二日迄ノ間千葉縣葛飾郡中山町所在中山競馬場ニ於テ行ハレタル社團法人中山競馬俱樂部主催ノ春季競馬及同年四月十八日ヨリ同月二十八日迄ノ間東京府北多摩郡府中町所在東京競馬場ニ於テ行ハレタル社團法人東京競馬俱樂部主催ノ春季競馬ノ競走ニ關シ東京市牛込區肴町三十五番地高岡豐カ其ノ居宅ニ於テ被告人等外多數ノ者ヲ相手方トシ該競馬ノ勝馬投票券ヲ購入セスシテ相手方ヲシテ優勝馬ノ豫想ト共ニ之ニ金錢ヲ賭セシメ其ノ適中スルト否トニ從ヒ適中者ニハ前記競馬俱樂部ト同率ノ拂戻ヲ爲シ適中セサル者ノ賭金ハ之ヲ胴元ノ所得トナス俗ニ吞屋ト稱スル方法ニ依リ業トシテ賭事ヲ爲シタルニ際リ其ノ間犯意ヲ繼續シテ(一)被告人菅内紳六ハ前後約十三回ニ互リ合計金三百二十餘圓ヲ賭シ

昭和十一年法律第三十一號ニ依ル改正前ノ競馬法第十四條第三號及同法第十五條第六號ノ犯罪ト其ノ犯行ノ場所

(一) 被告人岡田雄三ハ前後約九回ニ互リ合計金八十圓位ヲ賭シ
 (二) 被告人古屋宰ハ前後約四回ニ互リ合計金十三圓位ヲ賭シ
 (三) 被告人中村政次郎ハ前後約四回ニ互リ合計金三十圓位ヲ賭シ
 (四) 被告人岡田豐ノ前記賭事ノ相手方トナリタルモノナリ
 法律ニ照スニ被告人等ノ所爲ハ改正前ノ競馬法第十五條第六號第十四條第三號刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定罰金額範圍内ニ於テ被告人等ニ對シ夫々主文掲記ノ刑ヲ量定シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間當該被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

● 主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

● 理 由

各被告人辯護人福田市太郎 上告趣意書第一點原審控訴裁判所判決カ被告等ノ所爲ヲ以テ改正前ノ競馬法第十五條第六號第十四條第三號刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ云々ト判示シタルハ擬律ノ錯誤ナリ一、何トナレハ改正前競馬法第十四條第三號ハ同法第一條法人ノ開催スル競馬ノ競走ニ關シ業トシテ多數ノ者ニ對シ財物ヲ以テ賭事ヲ爲シタルモノヲ處罰スル規定ニシテ第十五條第六號ハ此ノ種違反行爲ノ相手方ト爲リタル者ヲ處罰スルノ規定ナリ故ニ單ニ客筋タルニ止マル被告等ヲ以テ第十五條第六號ノ違反ナリト爲スハ可ナルモ 賄元ニアラサル被告等ニ對シ賄元ヲ處罰スヘキ規定タル第十四條第三號ヲ以テ問擬セルハ瞭カニ擬律ノ錯誤ナリト謂ハサルヘカラス二、抑モ原審判決ハ其ノ理由ニ於テ「被告人等ハ孰レモ昭和十一年三月二十八日ヨリ同年四月十二日迄ノ間千葉縣東葛飾郡中山町所在中山競馬場

ニ於テ行ハレタル社團法人中山競馬俱樂部主催ノ春季競馬及同年四月十八日ヨリ 同月二十八日迄ノ間東京府北多摩郡府中町所在東京競馬場ニ於テ行ハレタル社團法人東京競馬俱樂部主催ノ春季競馬ノ競走ニ關シ東京市牛込區肴町三十五番地高岡豐カ其ノ居室ニ於テ被告人等多數ノ者ヲ相手方トシ該競馬ノ勝馬投票券ヲ購入セスシテ相手方ヲシテ優勝馬ノ豫想ト共ニ之ニ金錢ヲ賭セシメ其ノ適中スルト否トニ從ヒ 適中者ニハ前記競馬俱樂部ト同率ノ拂戻ヲ爲シ適中セサル者ノ賭金ハ之ヲ賄元ノ所得トナス俗ニ呑屋ト稱スル方法ニ依リ業トシテ賭事ヲ爲シタルニ際リ其ノ間犯意ヲ繼續シテ(一)被告人菅内紳六ハ前後約十三回ニ互リ合計金三百二十四圓ヲ賭シ(二)被告人岡田雄三ハ前後約九回ニ互リ合計金八十圓位ヲ(三)被告人古屋宰ハ前後約四回ニ互リ合計金十三圓ヲ賭シ(四)被告人中村政次郎ハ前後約四回ニ互リ合計金三十圓位ヲ賭シ以テ高岡豐ノ前記賭事ノ相手方トナリタルモノナリ」云々ト判示シ本件上告人等被告ハ明ニ第十四條第三號違反者タル高岡豐ノ賭事ノ相手方トナリタルニ過キスシテ自ラ賄元トナリ所謂法人ノ開催スル競馬ノ競争ニ關シ業トシテ多數ノ者ニ對シ財物ヲ以テ賭事ヲ爲シタルモノニアラサルコト瞭カナレハナリト云フニ在レトモ昭和十一年法律第三十一號ニ依ル改正前ノ競馬法第十五條第六號ハ「前條各號ノ一ニ規定スル行爲ノ相手方ト爲リタル者」ト規定セルカ故ニ單ニ被告人等ノ所爲ハ右第十五條第六號ニ該當スト説明スルノミニテハ其ノ説明自體ニ依リテハ被告人等ハ果シテ同法第十四條第一號乃至第三號中何レノ行爲ノ相手方ト爲リタルモノトシテ右第十五條第六號ニ該當スルモノナリヤ明カナラサル憾アリ是原審カ原判決ニ於テ被告人等ノ所爲ハ改正前ノ競馬法第十五條第六號第十四條第三號云々ニ該當スト説示シタル所以ニシテ即其ノ趣旨ハ被告人等ノ所爲ハ前掲改正前ノ競馬法第十四條第三號所定ノ行爲ノ相手方ト爲リタルモノナルカ故ニ同法第十五條第六號ニ該當スト云フニ存シ決シテ被告人等ノ所爲ハ右第十五條第六號ノ外同法第十四條第三號ニモ該當スト爲シタルモノニ非ス論旨ノ理由ナキコト復タ多言ヲ須ヒス

同第二點上告人等ニ係ル本件事案ニ對シ略式命令以來判決ハ競馬法違反ヲ以テ處罰セラレタルモ原審

昭和十一年法律第三十一號ニ依ル改正前ノ競馬法第十四條第三號及同法第十五條第六號ノ犯罪ト其ノ犯行ノ場所

判示ニ依ルトキハ上告人等ハ高岡豊ヲ相手方トシ而モ高岡ノ居宅ニ於テ勝馬投票券ヲ購入セスシテ金錢ヲ賭シタルモノナルカ故ニ上告人等ノ所爲ハ高岡カ名ヲ競馬ニ藉リ開張シタル賭事ニ參加シ其ノ相手方トナリタルモノナルコト疑ヒナカルヘシ斯ル行爲ハ全ク刑法第百八十五條ニ所謂偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ賭事ヲナシタルモノニ該當スルカ故ニ宜シク同條ヲ適用シテ處罰サルヘキ筈ナルニ拘ラヌ故ラニ刑法ヲ忌避シテ競馬法違反ヲ以テ問擬セル原審判決ハ擬律ニ錯誤アルモノナリ其ノ一競馬法第十四條第三號ノ沿革一、改正前競馬法第十四條第三號ハ昭和六年法律第三十三號ヲ以テ追加セラレタル所ナルカ此ノ法案ノ成立ニ至ル迄ノ間帝國議會特ニ衆議院ニ於テ其ノ協贊ニ際シ應酬セラレタル論議ノ跡ヲ見ルトキハ右第三號ノ追加ヲ必要トシタルハ全ク競馬場内ニ於ケル呑屋ノ跋扈ニ端ヲ發シ主トシテ之カ取締ヲ目的トスルニ在リタルモノナリ二、現行競馬法ハ去ル大正十二年實施以來累次ノ改正ヲ見タリト雖競馬興行ヲ以テ特種ノ許可人ニ制限シ入場者ヨリ名義上ノ入場料ヲ徵收シ勝馬投票券所謂馬券ヲ發行スルノ權ヲ許可人ニ獨占セシムルノ組織ニ至リテハ何等ノ變化ナク今日ニ及ヘルモノニシテ興行ノ中心ハ馬ノ競走ニ在リ既ニ數頭ノ馬出場シテ競走スルヤ勝馬ノ在ル限リ負馬アルハ當然ニシテ競走ノ結果ニシテ常ニ逆睹スヘカラサルハ勿論其ノ結果ヲ豫言スル限リ事ヲ賭スルモノナリト謂ハサルヘカラス三、競馬法ニ依ル主務大臣ノ認可ハ競馬興行ヲ以テ適法ナル合法行爲タラシメ馬券ノ發行ハ以テ入場者ノ射倖心ヲ制限セリト雖競馬ニ對スル興味ハ入場者ノ射倖心ヲ驅リテ已マス常

ニ潮ノ如キ勢ヲ爲スカ故ニ所謂インチキニ互ル合意ノ賭事ハ場内ノ隨所ニ行ハレ此ノ種モグリ呑屋ノ取締ヲ嚴重ニスルニ非サレハ許可人ハ廂ト共ニ母屋ヲモ奪ハルルノ結果ニ陥ルヘシ而モ我國ニ於テハ世ニ顔役ト稱スル市井雜輩ノ介入アルカ爲ニ之レヲ防クニ汲々トシテ第十四條第三號ノ規定ハ公布ヲ見ルニ至リタルモノナリ四、故ニ右法文ヲ棒讀スルトキハ事ノ競馬ニ關スル限リ時ト所トニ關係ナク隨時到ル所ニ於テ行ハレタル犯罪行爲ニ適用サルヘキカ如シト雖競馬法ノ運用ニ付テハ宜シク競馬興行ヲ中心トシ殊ニ馬券ノ賣買ニ關スル秩序ノ維持ヲ中心トシテ處理サルヘク隨ツテ之カ適用ニ當リテ著シク限時的ニシテ且局地的ナラサル限リ競馬法ノ把持セル規範ト精神ヲ沒却スルノ結果ニ陥ルヘシ之辯護人カ第一審以來殊ニ原審ニ於テ競馬場外ニ於テ行ハレタル本件被告等ノ行爲ニ對シ競馬法ヲ適用スルノ不可ナル所以ヲ陳述シ若シ犯罪ニ互ル限リ刑法ノ賭博罪トシテ處斷サルヘキヲ主張スル所以ナリ第二馬券ノ共同買入レニ付テ五、由來競馬法ノ規定ニ依ルトキハ馬券ヲ購入スルハ必ス入場者ニ限ルモ入場者ハ必ス馬券ヲ買ハサルヘカラサルノ制度ニアラサルカ故ニ入場者ニシテ馬券ヲ買ハサル者モアルヘク又時ニ數人共同ニテ一枚ノ馬券ヲ買フ場合モアリ得ヘシ(記錄八一三三辯護人ノ訊問ニ對スル高岡豊ノ答辯參照)即競馬ニ興味ヲ有スル者カ共同ニテ一枚ノ馬券ヲ購入スルコトハ何等違法ニアラサルナリ故ニ本件被告等カ相被告タル高岡ノ手ヲ經テ二分ノ一又ハ四分ノ一ノ馬券ヲ組合セ購入スル意思ノ下ニ高岡ニ代金ヲ支拂ヒタリトスルモ何等違法ニアラサルナリ六、又馬券即勝馬優勝券

昭和十一年法律第三十一號ニ依ル改正前ノ競馬法第十四條第三號及同法第十五條
第六號ノ犯罪ト共ノ犯行ノ場所 一三八三 (五)

ハ其ノ性質上勝馬トナレハ配當金ヲ取得シ勝馬トナラサル限り其ノ代金カ競馬協會ノ所屬ニ歸シ沒收トナルハ當然ノ組織ナルカ故ニ被告等ニ於テ競馬場ニ入場セスシテ馬券ヲ購入セシノ違法アリトスルモ被告等カ毎回高岡豐ヲ經テ馬券ノ購入ヲ委託セルノ事實明白ナル以上違法責任ノ因果關係ハ茲ニ中斷サルヘキ筋合ニシテ購入申込ミヲ反覆セルノ事實ヲ捉ヘテ直ニ被告人等ノ全員カ高岡ノ相手方トナリテ賭事ヲ爲シタリトスル原審ノ認定ハ事相ノ眞實ニ外レタリト謂ハサルヘカラス七、故ニ原審以來辨護人ノ陳述スルカ如ク本件被告等ハ孰レモ高岡カ馬券ヲ購入シ又ハ他ト組合セ馬券ヲ購入スヘキコトヲ信シテ買入ヲ委託セルモノナリ從ツテ高岡ハ使者タルヘク將又代理人タルヘク法律行爲ノ相手方ハ高岡ニ非スシテ孰レモ競馬協會ナリ故ニ高岡ニ於テ馬券ノ性質ヲ利用シ馬券ノ購入ヲ省略シ之ヲ秘シテ吞ミ計算ヲ爲シタリトテ吞ノ事實ニ付高岡トシテ被告等ニ對シ一種ノ詐欺行爲アルニ過キスシテ被告等ニ何等ノ違法アルコトナシ之本件被告等カ異口同音ニ本件ニ付處罰ヲ受ケントハ毫頭モ豫期セサリシ旨第一審以來反覆陳述スル所以ナリ八、故ニ原審ノ事實審理ニ當リ今少シク被告人等ノ陳述ヲ検討シ一面時勢ノ推移ニ著眼スル時ハ事實ノ實體眞實ニ逢著シ被告等ニ對シ無罪ノ宣告ヲ得ヘカリシニ事茲ニ出テ徒ラニ條文ノ規定ニ膠著シテ競馬法違反ノ判決ヲ與ヘラレタルハ被告等ノ深ク心外トスル所ナリ之御院ニ上告シテ終審トシテノ明鑒ニ訴フル次第ニ御座候ト云フニ在レトモ

原判示事實ハ原判示ノ各社團法人開催ニ係ル原判示各競馬場ニ於ケル競馬ノ競走ニ關シ東京市牛込區

【要旨】

肴町三十五番地居住高岡豊カ其ノ居宅ニ於テ業トシテ多數者ヲ相手方トシ原判示ノ如キ趣旨ヲ以テ金錢ヲ賭シ賭事ヲ爲シタル際被告人等ハ孰レモ勝馬投票券ヲ購入スルコトナク右豊ノ爲ス右賭事ノ相手方ト爲リタリト云フニ在リテ所論ノ如ク被告人等ハ右豊ノ手ヲ經テ右競馬ノ勝馬投票券ノ組合セ購入ヲ爲ス意思ヲ以テ其ノ代金ヲ豊ニ支拂ヒタルモノナリト云フカ如キ事實ニ非ス而シテ原判決擧示ノ證據ニ依レハ右原判示ノ事實ヲ認定スルニ十分ニシテ記録ヲ精査スルモ原判決ニ重大ナル事實誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルヲ見ス被告人等ハ勝馬投票券ノ組合セ購入ヲ爲ス爲其ノ代金ヲ支拂ヒタルニ過キスト主張シテ原判決ヲ云爲スル論旨ノ如キハ原判決ニ副ハサル攻撃ナリ而シテ昭和十一年法律第三十一號ニ依ル改正前ノ競馬法第十四條第三號ハ苟モ同法第一條ノ法人ノ開催スル競馬ノ競走ニ關シ業トシ多數者ニ對シ財物ヲ以テ賭事ヲ爲シタル者ハ當該競馬ノ行ハルル場内ニ於テスルトト將タ其ノ場外ニ於テスルトヲ分タス之ヲ處罰スル趣旨ナリト解スルヲ相當トス蓋如上ノ行爲ハ本來刑法賭博罪ノ規定ニ該當スルモノナルモ競馬公認ノ制度ニ伴隨シテ輒ク誘發セラレルノ虞レアルト共ニ通常ノ賭博行爲ニ比スレハ其ノ弊ノ甚シキコト日ヲ同シクシテ論スヘカラサモノアリ是レ法律カ特ニ此ノ行爲ヲ右法條ニ掲ケテ嚴重ニ之ヲ處罰スル所以ニシテ此ノ特別處罰ノ要アルハ其ノ行爲ノ場所ノ競馬場内タルト其ノ場外タルトニヨリテ毫モ異ルコト莫ケレハナリ然レハ被告人等ノ前叙所爲ハ右第十四條第三號所定ノ行爲ノ相手方トナリタルモノトシテ同法第十五條第六號ニ該當スルコト勿論

ナリ之ト同旨ニ出テタル原審擬律ハ正當ニシテ所論ノ如ク違法アルコト莫シ論旨ハ全ク理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
仍テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事横田麟二關與

○出版法違反被告事件(昭和十二年(れ)第一二二八號 棄却)
(昭和十二年十月十一日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 中山民也 辯護人 (上) 原健武夫

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京刑事地方裁判所

○判示事項

「タイプライター」ニ依ル文書ノ作製ト出版法第一條ニ所謂印刷

○判決要旨

「タイプライター」ニ依ル文書ノ作製ハ出版法第一條ニ所謂印刷ニ該當スルモノトス

【参照】 出版法第一條 凡ソ機械舎密其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖畫ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其ノ文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若ハ圖畫ヲ作爲スル者ヲ著作者ト言ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ安寧秩序ヲ妨害スル文書ヲ出版シタル罪ニ付著作者發行者トシテ各罰金八十圓ニ該文書ノ無届出版ノ罪ニ付罰金三十圓ニ夫々處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ各金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ストノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ(中略)

第一 (中略) 記載シタル原稿ヲ執筆シ同月中旬同市京橋區銀座二丁目越後屋ビル内旭タイプ印書所ニ依頼シタイプライターニ依リ十數部印刷セシメ以テ(中略) 暗ニ示唆シテ安寧秩序ヲ妨害スル文書ヲ著述シ其ノ頃正規ノ届出ヲ爲サスシテ同市内等ニ於テ郵送其ノ他ノ方法ニヨリ菊地武夫等約十名ニ頒布シテ該文書ヲ發行シ

第二 (中略) 記載シタル原稿ヲ執筆シ同月下旬前記旭タイプ印書所ニ依頼シテ前同様タイプライターニ依リ十數部印刷セシメ以テ(中略) 暗ニ示唆シテ安寧秩序ヲ妨害スル文書ヲ著述シ其ノ頃正規ノ届出ヲ爲サスシテ同市内等ニ於

「タイプライター」ニ依ル文書ノ作製ト出版法第一條ニ所謂印刷

テ郵送其ノ他ノ方法ニヨリ前示菊地武夫等約十名ニ頒布シテ該文書ヲ發行シタルモノニシテ以上安寧秩序ヲ妨害スヘキ事項ヲ内容トスル文書ヲ出版シタル所爲竝正規ノ届出ヲ爲サスシテ該文書ヲ出版シタル所爲ハ夫々繼續ノ犯意ニ出テタルモノナリ

本件ニ付被告人及辯護人等ノ主張スル要領ハ被告人ハ豫テ面識ヲ有シ且時局ニ付相當認識深キ知合ノ士又ハ知友等約十名内外ノ極メテ少數ノ者ニ對シ一般公知ニ屬スル事項ヲ而モタイプライターニ依リ作成シテ配布シタルニ過キサレハ之ヲ以テ出版法ニ所謂安寧秩序ヲ妨害スル文書ヲ出版シタリト云フヲ得スト云フニアレトモ判示文書記載事項カ未タ必スシモ一般公知ノ事實ト云フヲ得サルノミナラス所謂二・二六事件勃發スルヤ一般穩健中正ナル國民ハ之ヲ聖代ノ一大不詳事件ナリトシ又時局ニ付相當具眼達識ノ士ト雖國家ノ前途ニ付一時憂慮措ク能ハス上下擧ケテ時局ノ推移ニ過敏ナル關心ヲ持チ居リタル時加フルニ當時戒嚴令下ニアリテ判示ノ如キ内容ヲ有スル文書ヲ配布スルカ如キハ其ノ配布先其ノ數量配布ノ方法ノ如何ヲ問ハス將又該文書カタイプライターニ依リ作成セラレタレハトテ所謂安寧秩序ヲ妨害スル文書ヲ出版シタリト爲スニ妨ケナシトス仍テ該主張ハ之ヲ採用セス

法律ニ照スニ被告人ノ判示安寧秩序ヲ妨害スル文書ヲ出版シタル所爲ハ出版法第二十七條刑法第五十五條ニ無届出版ノ所爲ハ出版法第二十二條第三條刑法第五十五條ニ各該當スルトコロ孰レモ刑法施行法第十九條第二條第二十條ヲ適用シ前者ニ付罰金刑ヲ選擇シタル上其ノ所定罰金額内ニ於テ被告人ヲ著作者發行者トシテ各罰金八十圓ニ後者ニ付其ノ所定罰金額内ニ於テ被告人ヲ罰金三十圓ニ各處スヘク被告人ニ於テ以上ノ各罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ各金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人島田武夫上告趣意書第二點原判決ハ擬律錯誤又ハ理由不備ノ違法アリ原判決ハ其ノ理由第一ノ後段ニ於テ被告人ハ判示原稿ヲ三月中旬京橋區銀座二丁目越後屋ビル内旭タイブ印書所ニ依頼シタイプライターニ依リ十數部印刷セシメ正規ノ届出ヲ爲サスシテ東京市内等ニ於テ郵送其ノ他ノ方法ニヨリ菊地武夫等約十名ニ頒布シタル旨判示シ理由第二ノ後段ニ於テ判示原稿ヲ三月下旬前記旭タイブ印書所ニ依頼シテ前同様タイプライターニ依リ十數部ヲ印刷セシメ郵送其ノ他ノ方法ニ依リ前示菊地武夫等約十名ニ頒布シ夫レ夫レ文書ヲ發行シタル旨判示スルモ出版法ニ所謂印刷トハ原著作物ト同様ナルモノ多數ヲ短時間ニ製作スルコトヲ云フ故ニ文書圖畫ノ手寫ハ印刷ニアラス從テ炭酸紙ヲ白紙ノ間ニ插ミ骨筆ヲ以テ文書圖畫ヲ複製スルハ印刷ニアラス(大審院大正八年十月二十七日判決)本件文書ハタイプライターニ依リ製作セラレタルモノナルモタイプライターハ普通ノ印刷ト異リ一字宛ヲ押捺シ文字ヲ顯出セシムルモノナルカ故ニ文字ノ手記ト同一ナリ一時ニ數通ヲ作製シ得ル點ニ於テ普通ノ印刷ニ類スト雖モ炭酸紙ヲ以テ文書ヲ作製スル場合ニ於テモ一時ニ數通ヲ作り得ルニ拘ラス印刷ニアラサルコト前判例ノ認ムルカ如シ要スルニタイプライターニヨル文書ノ複製ハ炭酸紙ニヨル文書ノ複製ト同様複製セラレル文書ノ數少數ナルカ故ニ之ヲ印刷ト稱スヘキニ非ス蓋シ斯ル少數ノ文書ヲ以テ

シテハ社會ノ安寧秩序ヲ妨害スル能ハサレハナリ原判決ノ認定スル所ニ依レハ被告人ハタイプライターニ依リ二種ノ文書各十數部ヲ複製シ其ノ内各約十部宛ヲ配布シタリト云フニ在リテ十部内外ノ文書ヲ複製頒布スルカ如キハ之ヲ印刷物ノ發行ト稱スヘキニ非ス然ルニ原判決カ之ヲ印刷物ノ發行ナリト爲シ出版法第二十七條ヲ適用處斷シタルハ擬律錯誤又ハ理由不備ノ違法アリト信スト云フニアリ

【要旨】

「タイプライター」ニ依ル文書ノ作製ハ手ニ依リテ一文字宛ヲ印出スルモノナリト雖炭酸紙及骨筆ヲ用ヒテ文書ヲ複製スル場合ト異リ機械力ヲ利用シテ短時間内一時ニ數通ノ文書ヲ鮮明精確ニ作製シ得ルモノナレハ印刷機ニ依ル印刷トハ其ノ所要時間及作製數量ニ於テ差異アルモ之ヲ以テ文書ノ手寫ナリト謂フヘキモノニ非スシテ出版法第一條ニ所謂印刷ニ該當スルモノト認ムルヲ相當ナリトス從テ原判決ニ於テ被告人カ「タイプライター」ニ依リ判示二種ノ文書各十數部ヲ複製頒布シタル行爲ヲ印刷文書ノ出版ナリトシ出版法第二十七條ヲ以テ問擬シタルハ相當ニシテ擬律錯誤又ハ理由不備ノ違法アリト爲スヘカラス所論引用ノ本院判例ハ本件ニ適切ナラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事池田克關與

○公文書偽造行使公文書變造行使詐欺被告事件

(昭和十二年(九)第一四七〇號
同年十月二十六日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 相馬 彦馬 辯護人 野村 高助

【第一審】 大分地方裁判所 【第二審】 長崎控訴院

○判示事項

無効ニ歸シタル恩給證書ニ對スル加工ト偽造罪

○判決要旨

無効ニ歸シタル恩給證書ニ加工シテ新ナル恩給證書ヲ作成スルハ
文書偽造罪ニシテ文書變造罪ニ非ス

【參照】 刑法第一百五十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公
無効ニ歸シタル恩給證書ニ對スル加工ト偽造罪

務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ
前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

同法第五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ
前二項ノ外權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年ニ處ス押收ニ係ル偽造恩給證書(證第六號)及戶籍謄本二通(證第七號ノ一、二)印鑑證明書二通(證第八號及證第十七號中ノ印鑑證明書)中ノ各偽變造部分ハ孰レモ之ヲ沒收ス訴訟費用中豫審ニ於ケル證人山部熊三郎同津島喜六同

古島丹吾同和田泉同北村不二雄ニ支給シタル分ヲ除キ其餘ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ第一 愛媛縣巡查ヲ拜命勤務シタルコトアリテ同縣ヨリ年額金百七十圓(金百三十圓カ其ノ後金百七十圓ニ増額)ノ恩給ヲ給與セラレ居ルモノナルトコロ其ノ恩給證書ヲ紛失シタル理由ヲ以テ同縣ヨリ之カ再下附ヲ受ケタルカ其ノ後右恩給證書(證第六號)愛媛縣知事宮崎通之助ノ記名捺印アル大正十二年十月一日附第三七八號恩給證書)ヲ發見シタルヲ奇貨トシ大分縣直入郡竹田町七古澤鐵喜カ存命中ナル昭和十年五月十五日頃同人ト共謀ノ上既ニ無効ニ歸シタル右舊恩給證書ヲ利用シテ之ヲ擔保トシテ貸借名義ノ下ニ他ヨリ金員ヲ騙取センコトヲ企テ熊本縣阿蘇郡宮地町佐藤則一ニ金借周旋方ヲ依頼シ其ノ頃擅ニ熊本縣阿蘇郡宮地町古澤鐵喜方ニ於テ右舊恩給證書中舊年額金百三十圓トアル百ノ字ノ上ニ貳ノ字ヲ書加ヘ更正恩給年額金百七十圓トアル百ノ字ノ上ニ四ノ字ヲ書加ヘテ舊年額金ヲ貳百三十圓更正年額金ヲ四百七十圓ト變更シ以テ恩給證書一通ヲ偽造シ(其ノ後被告人ノ生年月日明治三年五月二十五日トアルヲ明治九年五月二十五日ト變更ス) 同月十八日頃右鐵喜及則一ト共ニ熊本市大江町金貨業藥師寺廣方ニ到リ同人ニ對シ被告人ノ養女カ洋裁店開業資金トシテ入用ニ付年額四百七十圓ノ恩給證書ヲ擔保トナスヘキニ依リ金千圓ヲ貸與シ吳レト詐リ申シ向ケ廣カ恩給證書ノ外ニ金額千圓ノ生命保險ニ加入シ其ノ保險證券ヲモ擔保ト爲スヘキ旨申シタルニ被告人ハ明治生命保險會社ニ金五百圓ノ生命保險ニ加入シ居ルニ依リ之ヲ擔保トシ外ニ金額五百圓ノ生命保險ニ加入シ之カ保險證券ヲ擔保ト爲スヘキ旨申シ尙被告人ノ年齢ニテハ保險契約締結不可能ナルヲ以テ其ノ生年ヲ明治九年ト詐リテ昭和生命保險會社熊本支部ト保險金五百圓ノ保險契約ヲ締結スルコトトシ且廣カ被告人ノ戶籍謄本ト印鑑證明書ノ交付ヲ請求シタルニ被告人ハ之ヲ承諾シテ鐵喜及則一ト共ニ廣方ヲ辭去シ同月二十日被告人本籍地宮砥村ノ村役場ニ到リ同村役場書記村井九米雄ヨリ同村村長井手米作ノ記名捺印アル被告人

無効ニ歸シタル恩給證書ニ對スル加工ト偽造罪

ノ戸籍謄本一通(證第七號ノ一)ノ下附ヲ受ケ更ニ被告人ノ住所地竹田町ノ町役場ニ到リ同町役場書記安部井八郎ヨリ同町長佐藤光馬ノ記名捺印アル被告人ノ印鑑證明書一通(證第一七號中ノモノ)ノ下附ヲ受ケ擅ニ右戸籍謄本中被告人ノ生年月日明治參年四月貳拾九日トアル其ノ參ノ字ノ右下側ニ九ノ字ヲ書加ヘ參ノ字ノ上ニ筆軸ヲ以テ圓形朱印ヲ押シ彦馬欄ノ右欄戸主弟武夫欄ニ同人ノ生年月日大正四年拾壹月拾日トアル其ノ四ノ字ノ下ニ五ノ字ヲ書加ヘ四ノ字ノ上ニ筆軸ヲ以テ圓形朱印ヲ押シテ被告人ノ生年月日ヲ明治九年四月二十九日武夫ノ生年月日ヲ大正五年十一月十日ト變造シ右印鑑證明書中裏面ノ昭和十年五月二十日トアル證明年月日ノ字ノ内貳ノ字ヲ削除シ其ノ上ニ筆軸ヲ以テ圓形朱印ヲ押シ拾ノ字ノ下ニ貳ノ字ヲ書加ヘテ證明年月日ヲ昭和十年五月十二日ト變造シタル後同月二十一日鐵喜及則一ト共ニ再ヒ藥師寺廣方ニ到リ右偽造ニ係ル舊恩給證書及變造ニ係ル戸籍謄本竝印鑑證明書ヲ真正ナルモノノ如ク裝ヒ尙保險料不拂ノ爲既ニ失效ニ歸シタル前記明治生命保險株式會社取締役藤田讓名義金額五百圓ノ養老生命保險證券ヲ有效ナルモノノ如ク裝ヒ右舊恩給證書戸籍謄本印鑑證明書ヲ右保險證券及連帶債務者被告人及同人養女綾子名義ノ金額千圓ノ借用證書被告人名義白紙委任狀ト共ニ一括シテ廣ニ對シ交付行使シ因テ同人ヲ欺罔シ同日廣宅ニ於テ同人ヨリ金八百三十九圓五十九錢ノ交付ヲ受ケ貸借名義ノ下ニ之ヲ騙取シ

第二 其ノ後藥師寺廣方前示恩給證書戸籍謄本及印鑑證明書ニ不審ヲ懷キ被告人ニ對シ更ニ戸籍謄本ト印鑑證明書ノ交付ヲ請求シタルトコロ被告人ハ昭和十年五月二十六日宮砥村役場ニ到リ同村助役秋山等ヨリ同村村長井手米作ノ記名捺印アル被告人ノ戸籍謄本一通(證第七號ノ二)ノ下附ヲ受ケ同月二十九日竹田町役場ニ到リ同町役場書記神戶悟ヨリ同町長佐藤光馬ノ記名捺印アル被告人ノ印鑑證明書一通(證第八號)ノ下附ヲ受ケ同日頃擅ニ右戸籍謄本中被告人ノ生年月日明治參年四月二十九日トアル參ノ字ヲ九ノ字ニ改竄シテ生年月日ヲ明治九年四月貳拾九日ト變造シ右印鑑證明書中被告人ノ生年月日明治參年四月二十九日トアル其ノ參ノ字ヲ九ノ字ニ改竄シテ生年月日ヲ明治

九年四月二十五日ト變造シタル上同月二十九日頃右變造ニ係ル戸籍謄本印鑑證明書ヲ真正ナルモノノ如ク裝ヒ一括シテ廣ニ對シテ郵送到著セシメテ行使シ

タルモノナリ

而シテ右恩給證書ノ偽造戸籍謄本竝印鑑證明書ノ各變造及以上ノ偽變造文書ノ行使ハ夫々犯意ノ繼續ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中恩給證書偽造ノ點ハ刑法第五百五條第一項第六十條ニ其ノ行使ノ點ハ同法第五十八條第一項第五十五條第一項第六十條ニ戸籍謄本及印鑑證明書ノ變造ノ點ハ各同法第五十五條第二項第一項ニ其ノ行使ノ點ハ各同法第五十八條第一項第五十五條第二項第一項(判示第一ノ分ニ付テハ尙同法第六十條)ニ詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第六十條ニ各該當スルトコロ右恩給證書ノ偽造戸籍謄本及印鑑證明書ノ各變造ハ連續犯ニ係ルヲ以テ同法第五十五條第十條ヲ適用シ犯情重キ恩給證書偽造ノ一罪トスヘク判示第一事實中ノ偽造恩給證書變造戸籍謄本變造印鑑證明書ノ行使竝判示第二事實中ノ變造戸籍謄本變造印鑑證明書ノ行使ハ何レモ一括行使ニ係リ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪各ニ觸ルル場合ナルヲ以テ各同法第五十四條第一項前段第十條ニ從ヒ前者ニ付テハ犯情重シト認ムル偽造恩給證書行使罪ノ刑ニ後者ニ付テハ同様變造戸籍謄本行使罪ノ刑ニ夫々從ヒ右偽造恩給證書ノ行使ト變造戸籍謄本ノ行使トハ連續犯ニ係ルヲ以テ同法第五十五條第十條ヲ適用シ犯情重シト認ムル右偽造恩給證書行使ノ一罪トスヘク以上恩給證書ノ偽造ト其ノ行使竝詐欺トノ間ニハ順次ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ最モ重キ偽造恩給證書行使罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定期間範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年ニ處スヘク押收ニ係ル偽造恩給證書(證第六號)及戸籍謄本一通(證第七號ノ一、二)竝印鑑證明書二通(證第八號竝第十七號中ノモノ)中ノ各偽變造部分ハ本件公文書ノ偽變造行爲ヨリ生シタルモノニシテ何人ノ所有ヲモ許ササルモノナ

ルヲ以テ同法第十九條第一項第三號第二項ニ從ヒ之ヲ沒收シ訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ豫審ニ於ケル證人山部熊三郎同津島喜六同古島丹吉同和田和泉同北村不二雄ニ支給シタル分ヲ除キ其ノ餘ハ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人野村高助上告趣意書第一點本件一件記録ニ依レハ被告人ハ既ニ失效セル舊恩給證書(證據第六號證)ノ額面ノ金額ヲ改竄シ此ノ恩給證書ヲ擔保トシテ藥師寺廣ヨリ金一千圓也ヲ借入レントシ被告人ハ齡既ニ六十歳ヲ越ヘ居ル爲更ニ戶籍謄本印鑑證明書ヲ變造シ行使シ其ノ目的ヲ達シタルモノニシテ控訴審ニ於テハ恩給證書改竄ノ點ヲ公文書偽造ヲ以テ處斷シ刑法第五十五條第一項ヲ適用シ居ルモノナリ然ル處豫審決定書ハ之ヲ公文書變造トシテ決定シ且第一審裁判所ニ於テモ變造罪トシテ判決言渡シ居ルモノナリ然ルニ控訴審カ之ヲ公文書偽造トナシタルハ被告人カ既ニ失效ノ恩給證書ヲ有效ノ如ク之ヲ行使シタルハ被告人カ作成シタルニ非サルモ之ヲ作成シタルト同一ノ結果ヲ來タスモノトシテ公文書偽造罪トシテ處理シタルモノナランモ失效ノ恩給證書ト雖モ公務員ノ作成シタルモノニシテ公文書タルコト一點ノ疑ナク刑法第五十五條第二項ハ「公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタ

ル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ」ト規定シ失效ノ文書タルト否トヲ區別スヘキニ非ス因テ公文書變造罪ヲ以テ處斷シ刑法第五十五條第二項ヲ適用スヘキナリ之ヲ刑法第五十五條第一項ヲ適用シナカラ何等判斷ヲ與フルトコロナク判決ヲ言渡シタルハ判斷ヲ遺脱シタルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト云フヘシト云フニ在レトモ

【要旨】

文書變造ノ罪ハ既存ノ有效文書ノ效力ヲ保存シテ其ノ内容ヲ變更スルコトヲ以テ本質トスルモノナルカ故ニ既ニ無効ニ歸シタル文書ニ加工シテ新ナル文書ヲ作成スルニ於テハ文書偽造罪ヲ以テ目スヘク文書變造罪ヲ以テ論スヘキニ非ス原判決認定ノ事實ニ依レハ被告人ハ既ニ失效セル舊恩給證書ノ額面ノ金額ヲ改竄シテ舊年額ヲ二百三十圓更正年額金ヲ四百七十圓ト變更シタリト云フニ在ルヲ以テ其ノ文書偽造タルヤ疑ヲ容ルヘカラス然ラハ原判決カ右事實ヲ認定シ之ヲ刑法第五十五條第一項ニ問擬シタルハ正當ニシテ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事徳江治之助關與

○家畜市場法施行規則違反被告事件 (昭和十二年(九)第一四六三號 同年十月二十八日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告 高知縣安藝郡畜産組合 代表者 島中卓爾 原審辯護人 山中傳

護辯人 (山中英二)

【第一審】 安藝區裁判所 【第二審】 高知地方裁判所

○判示事項

家畜市場法ニ所謂家畜市場ト建物ノ滅失—建物滅失セル場合ニ於ケル同法施行規則第十六條ノ榜示備付及揭示

○判決要旨

一家畜市場ハ建物ノ存在ヲ通例ト爲スモ其ノ滅失ノ一事ヲ以テ當然直ニ市場ノ消滅ヲ來スヘキモノニ非ス【要旨第一】
二家畜市場開設者ハ建物滅失ノ場合ニ於テモ市場内適當ノ場所ニ適當ナル方法ヲ以テ家畜市場法施行規則第十六條所定ノ榜示備付及揭示ヲ爲ササルヘカラス【要旨第二】

【參照】 家畜市場法第二條 家畜市場ヲ開設セントスル者ハ市場業務規程ヲ定メ地方長官ノ許可ヲクヘシ
前項ノ市場業務規程ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

同法第十五條 家畜市場ノ休場又ハ廢止ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
家畜市場開設許可ノ際指定シタル期間内ニ開場セザルトキハ之ヲ休場ト看做ス

同法第十六條 家畜市場開設者カ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ又ハ主務大臣若ハ地方長官公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ家畜市場ノ開設許可ヲ取消シ又ハ業務ヲ停止シ若ハ制限スルコトヲ得

主務大臣又ハ地方長官公益上必要アリト認ムルトキハ家畜市場及其ノ附屬建設物ノ位置、構造、設備又ハ市場業務規程ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

家畜市場法施行規則第四條 市場業務規程ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 事務所ノ位置
- 二 家畜ノ種類
- 三 開場ノ日時
- 四 市場ニ於テ徵收スル料金及其ノ種類並徵收方法
- 五 仲立業者ノ手數料
- 六 取引ノ方法、手續

家畜市場法ニ所謂家畜市場ト建物ノ滅失 建物滅失セル場合ニ於ケル同法施行規則第十六條ノ榜示備付及揭示

七 違約者處分ノ方法
 八 其ノ他業務執行上必要ナル事項
 同第十二條 家畜市場及其ノ附屬建設物ノ位置ハ公衆及家畜衛生上妨クナキ場所ナルコトヲ要ス

- 常設家畜市場ニ於テハ検査所、賣場、繫場、畜舎、隔離所及汚物溜ヲ設ケ其ノ構造設備ハ左ノ各號ニ依ルヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ地方長官ハ之ヲ斟酌スルコトヲ得
- 一 検査所ハ家畜ノ健康検査及治療ニ必要ナル設備ヲ爲スヘシ
 - 二 賣場ハ屋根ヲ設ケ石材、煉瓦、厚板又ハ不透過質ノ材料(コンクリート、アスファルト、漆喰等)ヲ以テ地盤ヲ造リ六十分一ノ勾配ヲ附シ汚水溝ヲ設クヘシ但シ繫場若ハ畜舎ニ於テ賣買交換スル場合ハ賣場ヲ設ケサルコトヲ得
 - 三 繫場ハ石材、煉瓦、厚板又ハ不透過質ノ材料ヲ以テ地盤ヲ造リ六十分一ノ勾配ヲ附シ汚水溝ヲ設クヘシ
 - 四 畜舎及隔離所ハ石材、煉瓦、厚板又ハ不透過質ノ材料ヲ以テ地盤ヲ造リ六十分一ノ勾配ヲ附シ其ノ内壁ハ石材、煉瓦、金屬板其ノ他不透過質ノ材料若ハ厚板ヲ以テ四尺以上ノ腰張ヲ爲シ適當ノ窓ヲ設ケ欄房ノ前後ニ各三尺以上ノ通路ヲ附シ欄房ハ牛馬一頭毎ニ積駒羊豚ハ適宜ニ之ヲ區別シ尿溜ヲ設クヘシ但シ家畜ヲ宿泊セシメサル市場ニ於テハ畜舎ヲ設ケサルコトヲ得
 - 五 汚物溜及尿溜ハ不透過質ノ材料ヲ以テ造リ覆蓋ヲ設ケ雨水ノ浸入ヲ防クヘシ
- 定期家畜市場及臨時家畜市場並其ノ附屬建設物ノ構造設備ハ土地ノ狀況ニ依リ前項各號ノ規定ヲ斟酌シ地方長官之ヲ定ム

同第十六條 家畜市場ニ於テハ市場ノ名稱、家畜市場開設者及市場管理者ノ氏名ヲ榜示シ市場業務規程ヲ場内ニ備付ケ且其ノ摘要ヲ場内ニ揭示スヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告組合ヲ罰金三十圓ニ處ス訴訟費用ハ被告組合ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告組合ハ家畜市場ノ開設等ヲ目的トシ畜産組合法ニ基キ設立セラレタル法人ニシテ高知縣安藝郡室戸町大字浮津數多神社ノ北ニ室戸定期家畜市場ヲ同郡吉良川村西ノ宮乙二千三十番地ニ吉良川定期家畜市場ヲ各開設シタルモノナル處被告組合雇人町田兵部ハ犯意ヲ繼續シ

- 第一 昭和九年九月二十一日ヨリ同十二年一月二十五日迄前記室戸定期家畜市場ニ市場ノ名稱家畜市場開設者及市場管理者ノ氏名ヲ標示セス市場業務規程ヲ場内ニ備付ケス且其ノ摘要ヲ場内ニ揭示セス
- 第二 昭和十一年四月頃ヨリ同十二年一月二十五日迄前記吉良川定期家畜市場ニ市場ノ名稱家畜市場開設者及市場管理者ノ氏名ヲ標示セス市場業務規程ヲ場内ニ備付ケス且其ノ摘要ヲ場内ニ揭示セサリシモノナリ

法律ニ照スニ被告組合ノ所爲ハ家畜市場法施行規則第十六條第二十條第一項家畜市場法第二十二條第二十一條刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定罰金額範圍内ニ於テ被告組合ヲ罰金三十圓ニ處スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告組合ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

被告代表者島中卓爾並辯護人ハ本件組合長タリシ島中卓爾ハ昭和十年十一月十四日ヲ以テ其ノ任期滿了シ昭和十一年三月三十一日組合總會ニ於テ組合長ニ選任サレタルモ未タ監督官廳タル高知縣知事ノ認可ナキノミナラス右組合總

家畜市場法ニ所謂家畜市場ト建物ノ滅失 建物滅失セル場合ニ於ケル同法施行 規則第十六條ノ榜示備付及揭示 一四〇一 (七七)

代會ニ於テ組合副長ニ選任サレタル平山幾馬ハ昭和十二年二月十八日高知縣知事ノ認可ヲ經タルヲ以テ現在ニ於ケル組合ノ代表者ハ右幾馬ニシテ元組合長タリシ島中卓爾ニ非ス從テ島中卓爾ハ本件組合ヲ代表シテ訴訟行爲ヲ爲ス能力ヲ有セサルモノナル旨辯疏スレトモ證據第二號被告組合定款附本第八條第二項ニ依レハ組合長ハ組合ヲ代表シ組合一切ノ事務ヲ管理ス組合副長ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ストアリ又同第十一條第二項ニハ役員ハ任期滿了後ト雖後任者ノ就職スル迄其ノ職務ヲ行フモノトストアリテ右第十一條第二項ニ所謂役員中ニハ組合長及組合副長ヲ包含スルコトハ右第八條第一項ノ規定上明カニシテ第十一條第二項ニ依レハ組合長組合副長ノ任期滿了シタル以上當該役員ハ最早組合長又ハ組合副長ニハ非サルモ組合總代會ニ於テ適法ニ組合長又ハ組合副長ニ選任セラレ且監督官廳タル知事ノ認可ヲ受クル等所要ノ手續ヲ經タル正規ノ組合長又ハ組合副長カ就任スルニ至ル迄ノ間前組合長又ハ組合副長ヲシテ尙組合長又ハ組合副長ニ屬スル事務ヲ行ハシムル趣旨ナレハ組合長カ未タ監督官廳ノ認可ヲ經ス又ハ正規ニ任命サレタル組合副長アリトスルモ之カ爲前組合長カ組合ヲ代表シテ組合長ニ屬スル事務ヲ遂行スル權義ニ何等ノ消長ヲ及ホスモノニ非スト解スルヲ相當トス從テ本件ニ於テ右平山幾馬カ正規ノ手續ヲ經テ組合副長ニ選任サレタリトスルモ前組合長タリシ島中卓爾カ本件組合ノ代表者トシテ本件ニ關スル訴訟行爲ヲ爲スヘキ權義ヲ有スルハ當然ニシテ敢テ失當ニ非サルヤ辯ヲ要セス然ラハ右島中卓爾並辯護人ノ辯疏ノ理由ナキコトモ亦自ラ明カナリト云ハサルヘカラス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人山中傳、内山英二上告趣意書第一點原判決ハ法律ヲ不當ニ解釋適用シタル違法アリ判示ニ係ル

家畜市場ニ家畜市場施行規則第十六條第二十條第一項所定ノ違法行爲アリト認定科刑シタルカ右規則第十六條ハ家畜市場ニ於テハ市場ノ名稱家畜市場開設者及市場管理者ノ氏名ヲ榜示シ市場業務規定ヲ場内ニ備付ケ且其ノ摘要ヲ場内ニ揭示スヘシト規定ス本條ハ所定ノ榜示及揭示ハ之ヲ場内ニ爲スヘキ旨規定セル精神ハ建造物ノ存在ヲ前提トス即市場ナル建物ノ存在ヲ前提トスルニ非レハ同條カ場内ナル言辭ヲ使用スルコト能ハス從而天災地變ノ爲建物カ損壞サレ既設建物ノ滅却サレタルカ如キ場合ニ於テハ場内ナル觀念ヲ容ルヘキ餘地ナク斯ル場合ニ於テハ本條ノ適用無キモノト解セサルヘカラサルナリ今本件之ヲ見ルニ一、昭和十一年十月三十日林文彌ニ對スル司法警察官聽取書中判示一ノ室戶家畜市場ハ昭和九年ノ暴風雨ノ際倒壊致シマシテ以後家無シノ儘其ノ場所ノ人家町田兵部方テ事務ヲ取ツテ來テ居リマス判示二ノ吉良川家畜市場ハ本年四月頃縣道ノ敷地ニナリマシタノテ其ノ後ハ市場ノ家ハアリマセヌノテ牛馬商ハ私方ニ牛馬ヲ引イテ來テ市場ヲスルト言フ具合テ云々二、昭和十二年三月五日町田兵部ニ對スル檢事聽取書中三問答家畜市場ニハ市場名稱市場開設者及市場管理者ノ氏名ヲ標示シ市場業務規定ヲ場内ニ備付ケ其ノ摘要ヲ市場ニ揭示セナケレハナラヌ事ニナツテ居リ右兩市場ニ備付ケモ開設以來此ノ規定ニ從ツテ標示等ヲ致シテ居リマシタカ(判示一ノ)室戶市場ハ昭和九年九月二十一日ノ風水害テ全部破壊サレ其ノ時右ノ標示其ノ他モ同様ニ倒レタリ吹キ飛サレタリシマヒ(判示二ノ)吉良川ノ市場ハ昨年四月頃縣道開設ノ爲取毀シニナツテシマヒ同時ニ右ノ標示等モ

家畜市場法ニ所謂家畜市場ト建物ノ滅失 建物滅失セル場合ニ於ケル同法施行規則第十六條ノ榜示備付及揭示

全部取拂ツテシマヒマシタカ云々以上ノ供述ニ因リ判示第一ノ市場ハ天災ノ爲ニ建物ヲ損壞セラレ判示第二ノ市場ハ道路敷地ト爲リ建物ヲ取毀サレタルモノナレハ何レモ被告組合ノ責ニ歸ス可カラサル事由ニ基キ所定ノ標示揭示ハ勿論市場其ノモノヲ滅却セラレタルモノナリ是天災地變ニ因リテ發生セル一事實ナレハ當該事實ノ責任ヲ被告組合ニ求ムルハ即自然界ノ出來事ヲ一私人ニ其ノ責ヲ求ムルノ愚ニ非スシテ何ソ同條カスル場合ニ其ノ適用ナキハ同文中場内ナル文言ノ意義ヨリシテ明白ナル處ニシテ結局原判決ハ法律ノ解釋適用ヲ誤リタル違法アリテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

【要旨第一】

家畜市場法第二條同法施行規則第二條第四條第十二條等ノ規定ニ依レハ家畜市場ニハ事務所賣場畜舎検査所其ノ他ノ建物ノ存在スルヲ通例トスルモ本來市場ナル觀念ハ或一定ノ場所トハ之ヲ要素ト爲スモ有形ナル賣買交換等ヲ爲ス場合ノ具體的組織ヲ意味シ多衆ノ集合ト一定ノ場所トハ之ヲ要素ト爲スモ有形ナル建物ノ存在トハ自ラ別異ノ觀念ヲ有スルヲ以テ單ニ建物消失ノ一事ヲ以テ直ニ市場其ノモノノ當然ナル滅失ヲ招來スルモノト解スヘキニ非ス勿論建物ノ存在モ市場ノ開設許可條件ノ一ナルカ故ニ建物滅失等ノ場合ニハ市場開設者ニ於テ家畜市場法第十五條ニ依リ市場ノ休場又ハ廢止ニ付地方長官ノ認可ヲ受クルカ又ハ同法第十六條ニ基キ地方長官ニ於テ市場開設許可ヲ取消シ又ハ業務ヲ停止スル等適當ノ處置ヲ採ルヲ相當トスヘシ然レトモ苟モ市場ヲ開設シタル以上家畜市場法施行規則第十六條ニ從フヲ要スルヤ論ヲ俟タス而シテ家畜市場法施行規則第十六條ニ所謂場内トハ市場内ヲ意味シ必スシモ

【要旨第二】

建物内ヲ指示シタルモノニ非サルコトハ同條ノ文言ニ照シ些ノ疑ナク又同條所定ノ趣旨カ家畜ノ取引者ヲシテ市場開設者及市場管理者ヲ知ラシメ且開場ノ日時家畜ノ種類取引方法手續其ノ他市場ニ於テ徵收スル料金及徵收ノ方法等ヲ知得セシメ因テ適正ナル價額ノ下ニ便宜且統一セル取引ヲ行ハシメ市場本來ノ機能ヲ發揮セシメントスルニ在ルカ故ニ市場開設者ハ必ス同條所定ノ責ヲ盡スコトヲ要シ建物不存在ノ理由ヲ以テ之ヲ免脱セシムヘキ筋合ノモノニ非ス原判示認定事實ニ依レハ被告人組合ハ判示定期市場ヲ判示場所ニ開設シタルモノナルヲ以テ敍上説示ノ理由ニ依リ市場内適當ノ場所ニ適當ナル方法ヲ以テ同條列舉ノ榜示備付及揭示ヲ爲ササル可カラサリシナリ此ノ舉ニ出テサリシ被告人組合カ判示法條ニ則リ處斷セラルヘキコト當然ニシテ原判決ニ所論ノ如キ違法ナク論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事 横田 麟二 關與

家畜市場ニ所謂家畜市場ト建物ノ滅失
則第十六條ノ榜示備付及揭示

建物滅失セル場合ニ於ケル同法施行規

○衆議院議員選舉法違反被告事件

(昭和十二年(れ)第一四四二號
同年十月二十九日第三刑事部判決)

棄却

【上告人】 被告人 永田 良秀 辯護人

外六名

高山義三
大内武治
八井文幸
野田一郎
赤井幸夫
外一名

【第一審】 神戸地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

沒收ノ判示方——選舉運動ニ藉口シテ要求サレタル場合ト供與罪

○判決要旨

一 沒收力何人ニ對シテ爲サレタリヤハ判決主文ニ之ヲ示ササルモ理由ト對照シテ之ヲ知り得ルニ於テハ違法ナリト謂フヘカラス

【要旨第一】

二 選舉運動ノ報酬トシテ金員ノ供與ヲ要求セラレタル議員候補者又ハ選舉委員力當選ヲ得ル目的ヲ以テ之力供與ヲ爲シタルトキハ收受者ニ於テ右候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ有セ又眞實選舉運動ヲ爲スノ意思ナク選舉運動ニ藉口シテ要求セル場合ト

雖衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號ノ犯罪成立スルモノトス【要旨第二】

【參照】 衆議院議員選舉法第一百十二條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以

下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ
- 二 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ其ノ者又ハ其ノ者ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權寄附其ノ他特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルトキ
- 三 投票ヲ爲シ若ハ爲ササルコト、選舉運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト又ハ其ノ周旋勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ第一號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ
- 四 第一號若ハ前號ノ供與、應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ前號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ
- 五 第一號乃至第三號ニ掲クル行爲ヲ爲サシムル目的ヲ以テ選舉運動者ニ對シ金錢若ハ物品ノ交付、交付ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ選舉運動者其ノ交付ヲ受ケ若ハ要求シ若ハ其ノ申込ヲ承諾シタルトキ
- 六 前各號ニ掲クル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ

沒收ノ判示方 選舉運動ニ藉口シテ要求サレタル場合ト供與罪

選舉事務ニ關係アル官吏又ハ吏員當該選舉ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ四年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス警察官吏其ノ關係道府縣内ノ選舉ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキ亦同シ

同法第十四條 前三條ノ場合ニ於テ收受シ又ハ交付ヲ受ケタル利益ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價格ヲ追徴ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人永田良秀ヲ罰金二百圓同谷脇照一同八田耕作ヲ各禁錮四月被告人佐川吉太郎同天王寺谷忠左衛門ヲ各禁錮三月被告人曾野菊造ヲ禁錮一月被告人原淳一郎ヲ罰金三百圓ニ處ス(未決勾留算入勞役場留置及追徴省略)押收ニ係ル百圓兌換券一枚十圓兌換券十枚(證第三十號)百圓兌換券一枚十圓兌換券五枚一圓兌換銀券六枚(證第二十八號ノ二)十圓兌換券六枚(證第三及四號)十圓兌換券二枚(證第五號)ハ孰レモ之ヲ沒收スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人永田良秀ハ昭和十一年二月二十日施行セラレタル衆議院議員總選舉ニ際シ兵庫縣第二選舉區ヨリ立候補シタル原淳一郎ノ選舉委員トナリタルモノナルトコロ犯意ヲ繼續シテ同月三日頃ヨリ同月八日頃迄ノ間前後三回ニ互リ尼崎市神田中通二丁目神田ホテル外一ヶ所ニ於テ同候補者ノ同市選舉事務所主任ナル選舉委員谷脇照一カ同候補者ノ爲選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ合計金四十圓ヲ提供スルヤ其ノ情ヲ知リナカラ之ヲ受取り以テ該金員ノ供與ヲ受ケタルモノナリ

次ニ被告人原淳一郎外五名ノ被告人ニ對スル事實ハ左ノ如シ

被告人淳一郎ハ昭和十一年二月二十日施行セラレタル衆議院議員總選舉ニ際シ兵庫縣第二選舉區ヨリ立候補シ自ラ選舉事務長ヲ兼ネ選舉ノ結果當選シタルモノ被告人英一ハ同被告人ノ實弟ニシテ其ノ選舉委員被告人照一ハ被告人淳一郎ノ懇請ニ依リ其ノ選舉委員トナリ尼崎市ニ於ケル選舉事務所ヲ引受ケ淡路ヲ除ク全選舉區ノ選舉運動ヲ主宰シタルモノ被告人吉太郎、鹿次郎及菊造ハ孰レモ右候補者ノ選舉委員被告人松太郎ハ初メ同候補者ノ勞務者トナリ後選舉委員トナリタルモノ被告人勇ハ同候補者ノ勞務者トナリタルモノニシテ被告人照一、吉太郎、鹿次郎、勇、留吉、藤太郎、利康、灘本忠左衛門及天王寺谷忠左衛門ハ孰レモ同選舉區ノ選舉人ナルトコロ

第一 被告人淳一郎ハ自己ノ當選ヲ得ル目的被告人英一ハ同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ兩被告人ハ

(一) 昭和十一年二月一日神戸市灘區上野通八丁目二百九十九番屋敷ナル被告人淳一郎ノ當時ノ居宅ニ於テ被告人天王寺谷忠左衛門及耕作ヨリ同人等カ同候補者ノ爲選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金員ヲ供與セラレ度キ旨要求セラルルヤ共謀ノ上翌日被告人秀治郎ノ肩書居宅ニ於テ同被告人兩名ニ對シ該趣旨ノ下ニ金三百圓

(二) 同月四日頃被告人利康ノ要求ニ基キ共謀ノ上同人ヲ介シ被告人灘本忠左衛門ノ肩書本籍ナル當時ノ居宅ニ於テ同被告人ニ對シ同人カ同候補者ノ爲投票並選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金三十圓ヲ供與シ

(中略)

第三 被告人照一ハ

(一) 前掲第二ノ(一)記載ノ如ク前後三回ニ互リ被告人英一ヨリ其ノ情ヲ諒知シナカラ合計金千五百圓ノ供與ヲ受ケ

(二) 同候補者ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ

沒收ノ判示方 選舉運動ニ藉口シテ要求サレタル場合ト供與罪

(イ) 被告人鹿次郎ト共謀ノ上

(甲) 同月二日頃及同月五日頃ノ二回ニ互リ前記選舉事務所外一ヶ所ニ於テ選舉人ニシテ辯士タル江川律ニ對シ同候補者ノ爲投票並演說ニ依ル選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ合計金二十圓

(乙) 同月四日頃及同月十一日頃ノ二回ニ互リ被告人勇ノ肩書居宅ニ於テ同人ニ對シ同候補者ノ爲投票並選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ合計金二十圓

(ロ) 被告人吉太郎ト共謀ノ上同月十一日頃前記選舉事務所ニ於テ被告人松太郎ニ對シ同候補者ノ爲選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金五十圓

(ハ) 同月二日頃及三日頃ノ二回ニ互リ同所ニ於テ被告人菊造ニ對シ前同趣旨ノ下ニ合計金八十圓

(ニ) 同月二日頃ヨリ同月五日頃迄ノ間前後三回ニ互リ同所ニ於テ被告人鹿次郎ニ對シ前同趣旨ノ下ニ合計金二百圓

(ホ) 同月三日頃ヨリ同月八日頃迄ノ間前後三回ニ互リ前記神田ホテル及選舉事務所ニ於テ永田良秀ニ對シ前同趣旨ノ下ニ合計金四十圓

(ヘ) 同月三日頃及同月十日頃ノ二回ニ互リ前同所ニ於テ被告人留吉ニ對シ前同趣旨ノ下ニ合計金四十圓

(ト) 同月四日頃ヨリ同月十日頃迄ノ間前後三回ニ互リ前記選舉事務所ニ於テ被告人藤太郎ニ對シ前同趣旨ノ下ニ合計金五十圓

(チ) 同月六日頃前記神田ホテルニ於テ被告人吉太郎ニ對シ前同趣旨ノ下ニ金二百圓ヲ供與シ

第四 被告人吉太郎ハ

(一) 被告人照一ト共謀ノ上被告人松太郎ニ對シ前掲第三ノ(二)ノ(ロ)記載ノ如キ目的趣旨ノ下ニ金五十圓ヲ

供與シ

(二) 前掲第三ノ(二)ノ(チ)記載ノ如ク被告人照一ヨリ其ノ情ヲ諒知シナカラ金二百圓ノ供與ヲ受ケ

(中略)

第七 被告人菊造ハ前掲第三ノ(二)ノ(ハ)記載ノ如ク被告人照一ヨリ其ノ情ヲ諒知シナカラ二回ニ合計八十圓ノ供與ヲ受ケ

(中略)

第十三 被告人天王寺谷忠左衛門及耕作ハ共謀ノ上第一ノ(一)記載ノ如ク被告人淳一郎等ヨリ其ノ情ヲ諒知シナカラ金三百圓ノ供與ヲ受ケ被告人忠左衛門ニ於テ内金二百圓被告人耕作ニ於テ内金百圓ヲ收受シ

(中略)

タルモノナリ

被告人淳一郎、照一、吉太郎、菊造ノ所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人永田良秀ノ判示所爲ハ衆議院議員選舉法第十二條第一項第四號刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ一罪ト爲シ罰金刑ヲ選擇シ其ノ所定罰金額ノ範圍内ニ於テ主文掲記ノ刑ヲ量定處斷スヘキモノトス

次ニ被告人原淳一郎外五名ノ判示所爲ヲ法律ニ照スニ被告人淳一郎、照一、吉太郎ノ判示金錢供與ノ所爲ハ衆議院議員選舉法第十二條第一項第一號(共謀ノ點ニ付テハ刑法第六十條ヲ適用ス)被告人照一、吉太郎、菊造、天王寺谷忠左衛門、耕作ノ判示金錢供與ヲ受ケタル所爲ハ同法第十二條第一項第四號第一號(天王寺谷忠左衛門及耕作ノ共謀ノ點ニ付テハ刑法第六十條ヲ適用ス)ニ該當スルトコロ被告人淳一郎、照一、吉太郎、菊造ノ右所爲ハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ刑法第五十五條ヲ適用シテ一罪ト爲シ被告人照一、吉太郎、菊造、天王寺谷忠左衛門及耕作ニ對シ禁錮刑

沒收ノ判示方 選舉運動ニ藉口シテ要求サレタル場合ト供與罪

其ノ他ノ各被告人ニ對シ罰金刑ヲ選擇シ以上各刑期及罰金額ノ範圍内ニ於テ夫々主文掲記ノ刑ヲ量定處斷シ押收ニ係ル百圓兌換券一枚十圓兌換券十枚(證第三十號)ハ被告人天王寺谷忠左衛門ノ收受シタル利益同百圓兌換券一枚十圓兌換券一枚一圓兌換銀券六枚(證第二十八號ノ二)ハ被告人鹿次郎同十圓兌換券六枚(證第三、四號)ハ被告人松太郎同十圓兌換券二枚(證第五號)ハ被告人藤太郎ノ收受シタル利益ノ一部ナルヲ以テ執レモ衆議院議員選舉法第百十四條前段ニ從ヒ之ヲ沒收スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ執レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人原淳一郎辯護人八並武治、野田文一郎被告人谷脇照一、佐川吉太郎、曾野菊造、天王寺谷忠左衛門、原淳一郎辯護人大内省三郎、赤井幸夫上告趣意書第一點原判決ハ其ノ主文ニ於テ「押收ニ係ル百圓兌換券一枚十圓兌換券五枚一圓兌換銀券六枚十圓兌換券六枚十圓兌換券二枚ハ執レモ之ヲ沒收ス」ト宣告シタリ然レトモ之ニヨリテハ右ハ果シテ被告人中ノ何人ニ對シテ宣告シタルモノナルヤ之ヲ知ルヘカラス而シテ沒收モ亦刑ノ宣告ナルヲ以テ其ノ何人ニ對スルモノナルヤヲ明示セサル原判決ハ違法ナリト云フニ在レトモ

【要旨第一】

原判決ノ主文ヲ其ノ理由ト對照スレハ證第三十號ハ被告人天王寺谷忠左衛門ヨリ證第二十八號ノ二ハ原審相被告人松村鹿次郎ヨリ證第三、四號ハ同相被告人湯谷松太郎ヨリ又證第五號ハ同相被告人筒井

藤太郎ヨリ夫々沒收シタルモノナルコト明ナルヲ以テ原判決ニハ所論ノ如キ違法アルヲ認メス論旨理由ナシ

被告人原淳一郎辯護人大内省三郎上告趣意書第二點原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由存スルモノナリ一、衆議院議員選舉法第百十二條第一項第一號中選舉運動者ニ關スル犯罪ノ成立ニハ當選ヲ得若クハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ「選舉運動者」ニ對シ金錢其ノ他利益職務ノ供與其ノ申込約束應接待其ノ申込又ハ約束スルコトヲ要ス選舉運動者ニ對スルニアラサルハ犯罪成立セサルコト言フ俟タス故ニ選舉運動者ナル名目ヲ有スルモ眞ニ運動ヲ爲ス意思ナク且選舉運動ヲ爲ササル者ニ金錢ヲ供與スルモ本罪ヲ成立スルモノニアラス從來我國ニ於テ選舉ニ當リ候補者ニ伺ヒ恰モ運動ヲ爲スカ如ク裝ヒ金品ヲ要請スル者少ナカラス而シテ立候補者ハ斯ノ如キ者ニ對シ何等ノ實益ナク又實際運動ヲ爲スモノニアラサルコトヲ察知スト雖無下ニ之ヲ拒絕スルトキハ直接間接ニ妨害セラルルヲ慮リ止ムヲ得ス金錢ヲ供與スルコト少ナカラス然レトモ斯ノ如キハ法文ノ明示スル「選舉運動者」ニ對スル金錢ノ供與ニアラサルヲ以テ犯罪ニアラス一、原審ノ認メタル被告人原淳一郎ノ犯罪ノ主要ナル部分「天王寺谷及八田耕作ノ兩名ヨリ同人等カ被告人ノ爲選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金品ノ供與ヲ要求セラレ兩名ニ對シ金三百圓ヲ供與シタリ」トノ點ニ存スルモノナリ然ルニ右兩名ノ中八田耕作ハ最初ヨリ被告人原淳一郎ノ爲選舉運動ヲ爲ス意思ヲ有セサリシモノナリ又實

沒收ノ列示方 選舉運動ニ藉口シテ要求サレタル場合ト供與罪

際毫末モ選舉運動ヲ爲シタルコトナシ同人ハ被告原淳一郎カ立候補シタルコトヲ奇貨トシ推薦狀發送ニ藉口シテ金錢ヲ要請シタルモノナリ右事實ハ原判決カ犯罪認定ノ資料ニ供シタル被告人原淳一郎豫審調書中「自分ハ其ノ話ヲ聞キ推薦狀ヲ出スト云フ名目テ金ヲ要求スルノタナト察シタル故話ヲ選舉情勢ニ轉換シナルヘク八田等ノ右問題ニ觸レヌ様話ヲ外シ居タリ」トノ部分同濱宇津英一ノ豫審調書中「同人カ八田ヲ疑ヒ金錢ノ供與ヲ非常ニ躊躇セル」事實及金錢供與ニ當リテモ同人トノ面會ヲ避ケタル部分八田耕作ノ豫審調書中「濱宇津英一カ約束ノ時間ニ天王寺谷方ニ金ヲ持參セサリシ爲立腹シ再ヒ被告原方ニ濱宇津ヲ尋ネ不平ヲ竝ヘ且小林(他ノ立候補者)ノ方ヘ行ケハヨカッタ等不平ヲ竝ヘタル部分及天王寺谷ノ調書中「八田ニ金百圓ヲ分與シタル際同人ハ之ヲ受取乍ラ百圓位ニテハ何モ出來ナイト不平ヲ述ヘタル」部分及八田耕作ノ豫審調書中「同人カ推薦狀一通ヲモ發送シ居ラサルニ拘ラス更ニ濱宇津ニ向ツテ金錢ノ供與ヲ要求シタル」部分等ニヨリ明ナリ八田ハ豫審ニ於テ推薦狀ヲ印刷シタルカ刑事カ視察ニ來ラレ恐ロシクナリ中止シタル旨供述セルモ右ハ辯解ニ過キス右ノ如ク八田耕作ハ眞ニ原淳一郎ノ爲選舉運動ヲ爲ス意思ナク且又實際少シモ運動ヲ爲シ居ラス只被告ニ金錢ヲ要求スル手段トシテ選舉運動ニ藉口シタルモノナルコト記録上容易ニ窺知シ得ヘシ然ルニ原審ハ右關係者等ノ豫審ニ於ケル供述中天王寺谷、八田等カ選舉運動ノ報酬トシテ金錢ヲ要求シタル事實及之ニ對シテ金錢ヲ供與シタリトノ外形的事實ノミヲ採リ直ニ犯罪成立セリト判斷シタルハ重大ナル事實ノ誤

認アルモノナリト云ヒ」第三點原判決ハ理由不備ノ違法アルモノナリ一、原判決ハ被告ノ犯罪事實トシテ(一)昭和十一年二月一日被告ノ居宅ニ於テ被告天王寺谷忠左衛門及八田耕作ヨリ同人等カ同候補者ノ爲選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金員ヲ供與セラレ度キ旨要求セラルルヤ共謀(弟英一ト)ノ上翌日被告秀治郎方ノ肩書居宅ニ於テ同被告人兩名ニ對シテ該趣旨ノ下ニ金三百圓ヲ供與シタリト認定シ衆議院議員選舉法第百十二條第一項第一號ノ犯罪アリトシ刑罰ヲ科セラレタリ衆議院議員選舉法第百十二條第一項第一號ノ犯罪中選舉運動者ニ對スル供與罪ハ選舉運動者ニ對シテ金錢等ヲ供與シタル場合ニアラサレハ成立スルコトナシ故ニ本罪ノ成立ニハ既ニ立候補者ノ爲ニ選舉運動ニ從事スルカ又ハ少クトモ其ノ約束ヲ爲シタル者ニ對スルニアラスンハ犯罪成立セス從來總選舉ニ當リテハ何等選舉運動ヲ爲スノ意思ナクシテ選舉運動ヲ爲スカ如ク裝ヒ立候補者ニ金錢ヲ要求スル者少ナカラス又候補者ニ於テモ要求者ノ眞意ヲ知了シ乍ラ直接間接ニ影響ヲ及ホスコトヲ慮リ相手方ノ地位身分等ニ應シテ相當ノ金錢ヲ供與スル場合モ少ナカラス然レトモ斯ノ如キハ單ニ選舉運動ニ藉口シテ金錢カ授受セラルルニ過キスシテ其ノ形式ノ如何ニ拘ラス本罪成立スルモノニアラス而シテ被告原淳一郎ハ相手方八田耕作トハ全ク初對面ニシテ最初ノ面會ノ時ヨリ同人ノ口吻ニヨリ推薦狀發行ニ藉口シテ金錢ヲ要求スル者ナルコトヲ察知シ居ルモノナルコト原判決引用ノ被告原淳一郎豫審調書記載ニヨリ明瞭ナリ左レハ其ノ際ニ於テ同人トハ普通ノ辭令ヲ交換シタルニ止マリ特ニ選舉運動ヲ依頼スル程度ニ交

涉進捗シタルモノニアラス故ニ斯ノ如キ者ハ未タ被告原淳一郎ノ選舉運動者ト云フコトヲ得サルモノナリ然ルニ原判決ハ其ノ理由中ニ於テ天王寺谷忠左衛門及八田耕作カ被告人原淳一郎ノ選舉ニ關シ公又ハ隠レタル選舉運動ニ從事シタルモノナルヤ又ハ從事スルコトヲ約束シタリヤ否ヤニ付何等ノ判斷ヲ爲サス只兩名カ選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金錢ヲ要求シタルコトト被告等カ之ヲ供與シタル事實ノミヲ以テ直ニ犯罪成立スト爲シタルハ理由不備ナリト云フニ在レトモ

議員候補者及選舉委員カ選舉運動ノ報酬トシテ金員ノ供與方要求サルルヤ當選ヲ得ル目的ヲ以テカ供與ヲ爲シタルトキハ收受者ニ於テ右候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ有セス又眞實選舉運動ヲ爲スノ意思ナク選舉運動ニ藉口シテ金員ヲ要求セル場合ト雖衆議院議員選舉法第百十二條第一項第一號ノ犯罪成立スルモノトス蓋收受者ニハ議員候補者ニ當選ヲ得シムル目的又ハ眞實選舉運動ヲ爲シタルコトヲ要件トセサレハナリ原判決カ被告人淳一郎ニ對シ認定シタル第一ノ(一)事實ニ依レハ被告人淳一郎ハ自己ノ當選ヲ得ル目的原審相被告人濱宇津英一ハ選舉委員トシテ淳一郎ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ兩被告人ハ昭和十一年二月一日神戸市灘區上野通八丁目二百九十九番屋敷ナル被告人淳一郎ノ當時ノ居宅ニ於テ被告人天王寺谷忠左衛門及同八田耕作ヨリ同人等カ右候補者ノ爲選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金員ヲ供與セラレ度旨要求セラルルヤ共謀ノ上翌日原審相被告人八木秀治郎方ニ於テ右被告人兩名ニ對シ該趣旨ノ下ニ金三百圓ヲ供與シタリト云フニ在ルヲ以テ被告人耕作ノ目的及意思如

【要旨第二】

ヲ何ハス被告人淳一郎ノ供與罪成立スルコト洵ニ明ナリ右事實ハ原判決ニ舉示セル各證據ヲ綜合スレハ優ニ之ヲ證明スルニ足り記録ニ徵スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルモノアルヲ認メス又選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金員ノ供與ヲ受クル者ハ右選舉法第百十二條ニ所謂選舉運動者ト云ヒ得ヘキコト本院判例ノ趣旨トスル所ナレハ右事實ノ如ク被告人耕作ニ於テ被告人淳一郎ノ爲選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金員ヲ要求シテ金三百圓ノ供與ヲ受クルニ於テハ右運動者ト云ヒ得ヘク原判決ニハ所論ノ如ク理由不備ノ違法ナキモノトス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事村上常太郎關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件

(昭和十二年(九)第一五〇九號
同年十月二十九日第三刑事部判決)

(棄却)

【上告人】 被告人 藤木勇太郎

外四名

辯護人

林 中 清 瀨 村 耕 逸 三 郎

北 村 金 太 郎

無資格運動者ト共謀シテ金員ヲ供與シタル場合ノ選舉事務長ノ責任

○ 判示事項

無資格運動者ト共謀シテ金員ヲ供與シタル場合ノ選舉事務長ノ責任

○ 判決要旨

衆議院議員選舉ニ際シ選舉事務長力無資格選舉運動者ト共謀シ議員候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ金員ヲ選舉運動者ニ供與シタルトキハ刑法第六十五條第一項ノ精神ニ則リ選舉事務長モ亦無資格運動ヲ爲シタルモノトシテ衆議院議員選舉法第九十六條第一項ヲ適用スヘキモノナルモ刑法第六十五條第一項ヲ直接適用スヘキモノニ非ス

【參照】 衆議院議員選舉法第九十六條 議員候補者、選舉事務長又ハ選舉委員ニ非サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ演說又ハ推薦狀ニ依リ選舉運動ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス
第八十九條第一項ノ規定ニ依リ選任セラレタル勞務者ニ非サレハ選舉運動ノ爲勞務ヲ提供スルコトヲ得ス但シ議員候補者ト同居スル親族、家族及常備ノ使用人ハ此

ノ限ニ在ラス
刑法第六十五條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行為ニ加功シタルトキハ其ノ身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス
身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人藤木勇太郎ヲ禁錮四月被告人深瀬久四郎ヲ禁錮二月被告人高橋文太郎ヲ罰金二百五十圓被告人小川房治同佐藤吉治ヲ各罰金二百圓ニ處ス被告人高橋文太郎同小川房治同佐藤吉治ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓五十錢ヲ一日ニ換算シタル期間其ノ被告人ヲ勞役場ニ留置ス(訴訟費用負擔ノ點省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ

昭和十一年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ被告人勇太郎ハ同年一月三十日添田飛雄太郎ヲ秋田縣第二選舉區ニ於ケル議員候補者トシテ推薦ノ届出ヲ爲シ同年二月一日自ラ同候補者ノ選舉事務長ト爲リ同月三日肩書住居ニ其ノ選舉事務所ヲ設置シタルモノ被告人文太郎ハ同月二、三日頃被告人吉兵衛、久四郎ハ同月三日被告人房治ハ同月三、四日頃孰レモ同候補者ノ選舉委員ト爲リタルモノ被告人吉治ハ同月九日同候補者ノ選舉委員ト爲リタルモノ同月十八日解任セラレタルモノナルトコロ

(中略)

第二 被告人勇太郎ハ同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同月八日前示自宅ニ於テ同候補者ノ選舉委員タル前記古關友藏ニ對シ同候補者ノ爲演說ニ依リ選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金二十圓ヲ供與シ

無資格運動者ト共謀シテ金員ヲ供與シタル場合ノ選舉事務長ノ責任

第三 被告人勇太郎、吉兵衛ハ共謀ノ上同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同年二月十二日秋田縣平鹿郡横手町大石旅館ニ於テ藤澤嘉兵衛、高橋嘉太郎ニ對シ被告人吉兵衛ヨリ同候補者ノ爲投票取纏ノ選舉運動方ヲ依頼シ其ノ運動ヲ爲スコトノ報酬等トシテ金百圓ヲ供與シ

第四 被告人勇太郎、久四郎ハ

一、共謀ノ上同候補者ノ爲演說ニ依ル選舉運動ヲ爲シタル齋藤金七、橋良之助、高橋治助、佐野金松、土田恭治、飯塚定輔ニ對シ各其ノ選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬トシテ被告人久四郎ヨリ

(イ) 右金七ニ對シテハ同年二月十九日秋田縣雄勝郡湯澤町柳澤旅館ニ於テ金五十圓

(ロ) 良之助ニ對シテハ同月二十日同所ニ於テ金五十圓

(ハ) 治助ニ對シテハ同日同所ニ於テ金四十圓

(ニ) 金松ニ對シテハ同日同所ニ於テ金三十圓

(ホ) 恭治ニ對シテハ同月二十一日同所ニ於テ金百圓

(ヘ) 定輔ニ對シテハ同日湯澤驛構内ニ於テ金百圓

ヲ供與シ

二、同候補者ノ法定ノ選舉運動者ニ非サル柴田政藏ト共謀ノ上同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ既ニ同候補者ノ爲投票取纏ノ選舉運動ヲ爲スヘキ旨申出テタル矢崎幸之助ニ對シ其ノ選舉運動ヲ爲スコトノ報酬等トシテ右政藏ノ手ヨリ

(イ) 同月十日同郡西馬音内町ナル政藏宅ニ於テ金百圓

(ロ) 同月十七、八日頃同町西馬音内酒造株式會社ニ於テ金百五十圓

以上合計金二百五十圓ヲ供與シ

以テ一面無資格選舉運動ヲ爲シ

第五 被告人勇太郎、文太郎ハ共謀ノ上

一、同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同月十二日同縣平鹿郡増田町石田四郎兵衛宅ニ於テ同人ニ對シ被告人文太郎ヨリ同候補者ノ爲投票取纏ノ選舉運動方ヲ依頼シ其ノ運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金百圓ヲ供與シ

二、同候補者ノ爲演說ニ依ル選舉運動ヲ爲シタル小森良雄及同候補者ノ爲投票取纏ノ選舉運動ヲ爲シタル石田四郎兵衛ニ對シ各其ノ選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬トシテ被告人文太郎ノ手ヨリ

(イ) 右良雄ニ對シテハ同月二十一日前示選舉事務所ニ於テ金八十圓

(ロ) 四郎兵衛ニ對シテハ同月二十六日前示同人宅ニ於テ金二十圓

ヲ供與シ

第六 被告人勇太郎、房治ハ

一、共謀ノ上同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同月十八日前示勇太郎宅ニ於テ既ニ同人等ヨリ同候補者ノ爲投票取纏ノ選舉運動方ヲ依頼シ置キタル藤澤嘉兵衛、高橋嘉太郎ノ兩名ニ對シ其ノ使者照井善兵衛ヲ介シテ被告人房治ヨリ金百圓ヲ供與シ

二、同候補者ノ法定ノ選舉運動者ニ非サル入江五郎ト共謀ノ上同様ノ目的ヲ以テ同月十七日前示勇太郎宅ニ於テ同候補者ノ爲投票取纏ノ選舉運動方ヲ依頼スル旨ノ書狀ヲ認メ之ニ其ノ運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ供與スル趣旨ニテ金五十圓ヲ添ヘタル上封入シ同日使者ニ依リ該封書ヲ同縣雄勝郡三輪村ナル右貞治方ニ届ケ即時同人ヲシテ其ノ趣旨ヲ諒シテ之ヲ受領セシメテ以テ供與シ

無資格運動者ト共謀シテ金員ヲ供與シタル場合ノ選舉事務長ノ責任

一面無資格選舉運動ヲ爲シ

第七 被告人勇太郎、吉治ハ共謀ノ上前同様ノ目的ヲ以テ同月十七、八日頃鐵道奥羽本線秋田縣仙北郡下飯詰驛ト後三年驛トノ間ヲ進行中ノ上リ列車内ニ於テ佐藤信一ニ對シ被告人吉治ヨリ同候補者ノ爲ノ選舉運動方ヲ依頼シ其ノ運動ヲ爲スコトノ報酬等トシテ金二百圓ヲ供與シ

第八 被告人久四郎ハ同候補者ノ爲演說ニ依ル選舉運動ヲ爲シタル杉喜八郎及佐藤字一ニ對シ各其ノ選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬トシテ

(イ) 右喜八郎ニ對シテハ同月二十日前示柳澤旅館ニ於テ金二十圓

(ロ) 字一ニ對シテハ同日前示選舉事務所ニ於テ金二十圓

ヲ供與シ

タルモノナリ

而シテ被告人吉治ヲ除キタル爾餘ノ各被告人ノ金錢供與ノ所爲ハ孰レモ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人勇太郎ノ所爲中判示第二ノ金錢供與ノ所爲ハ衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號ニ同第三第四ノ二第五ノ一第六ノ一、二第七ノ金錢供與ノ各所爲ハ刑法第六十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號ニ同第四ノ一第五ノ二ノ金錢供與ノ各所爲ハ刑法第六十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第三號ニ同第四ノ二第六ノ二ノ無資格選舉運動ノ點ハ刑法第六十五條第一項衆議院議員選舉法第九十六條第一項第二百零九條ニ該當スルトコロ右金錢供與ノ所爲ハ連續ニ係ルヲ以テ刑法第五十五條ヲ適用シテ連續ノ一罪ト爲シ之ト無資格選舉運動ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ衆議院議員選舉法第一百十二條第一項ノ罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人久四郎ヲ禁錮二月ニ處スヘク被告人文太郎ノ所爲中判示第五ノ一ノ金錢供與ノ所爲ハ刑法第六十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號ニ同第五ノ二ノ金錢供與ノ各所爲ハ刑法第六十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第三號ニ該當スルトコロ以上ハ連續ニ係ルヲ以テ刑法第五十五條ヲ適用シテ連續ノ一罪ト爲シ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ範圍内ニ於テ被告人文太郎ヲ罰金二百五十圓ニ處スヘク被告人房治ノ判示第六ノ所爲中金錢供與ノ所爲ハ刑法第六十條第五十五條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號ニ無資格選舉運動ノ所爲ハ刑法第六十條第六十五條第一項衆議院議員選舉法第九十六條第一項第二百零九條ニ該當スルトコロ以上ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ衆議院議員選舉法第一百十二條第一項ノ罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ範圍内ニ於テ被告人吉治ヲ罰金二百圓ニ處スヘク尙被告人文太郎、房治、吉治ニ於テ右罰金ヲ完納スルト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ各金二圓五十錢ヲ一日ニ換算シタル期間其ノ被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

スヘク被告人久四郎ノ所爲中判示第四ノ二ノ金錢供與ノ各所爲ハ刑法第六十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號ニ同第四ノ一ノ金錢供與ノ各所爲ハ刑法第六十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第三號ニ同第八ノ金錢供與ノ各所爲ハ衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第三號ニ同第四ノ二ノ無資格選舉運動ノ點ハ刑法第六十條第六十五條第一項衆議院議員選舉法第九十六條第一項第二百零九條ニ該當スルトコロ右金錢供與ノ所爲ハ連續ニ係ルヲ以テ刑法第五十五條ヲ適用シテ連續ノ一罪ト爲シ之ト無資格選舉運動トハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ衆議院議員選舉法第一百十二條第一項ノ罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人久四郎ヲ禁錮二月ニ處スヘク被告人文太郎ノ所爲中判示第五ノ一ノ金錢供與ノ所爲ハ刑法第六十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號ニ同第五ノ二ノ金錢供與ノ各所爲ハ刑法第六十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第三號ニ該當スルトコロ以上ハ連續ニ係ルヲ以テ刑法第五十五條ヲ適用シテ連續ノ一罪ト爲シ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ範圍内ニ於テ被告人文太郎ヲ罰金二百五十圓ニ處スヘク被告人房治ノ判示第六ノ所爲中金錢供與ノ所爲ハ刑法第六十條第五十五條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號ニ無資格選舉運動ノ所爲ハ刑法第六十條第六十五條第一項衆議院議員選舉法第九十六條第一項第二百零九條ニ該當スルトコロ以上ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ衆議院議員選舉法第一百十二條第一項ノ罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ範圍内ニ於テ被告人房治ヲ罰金二百圓ニ處スヘク被告人吉治ノ判示第七ノ金錢供與ノ所爲ハ刑法第六十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ範圍内ニ於テ被告人吉治ヲ罰金二百圓ニ處スヘク尙被告人文太郎、房治、吉治ニ於テ右罰金ヲ完納スルト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ各金二圓五十錢ヲ一日ニ換算シタル期間其ノ被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

無資格運動者ト共謀シテ金員ヲ供與シタル場合ノ選舉事務長ノ責任

本件控訴事實中

一、被告人勇太郎、吉兵衛ノ兩名カ共謀シ昭和十一年二月七日判示勇太郎宅ニ於テ添田飛雄太郎ヲ民政黨公認候補ト爲ス爲ノ選舉運動報酬トシテ被告人吉治ニ金百圓ヲ供與シ被告人吉治カ其ノ趣旨ヲ諒シテ該百圓ノ供與ヲ受ケ

二、被告人勇太郎カ判示第一ノ一ノ(イ)ノ(2)及(ロ)竝第一ノ二ノ犯罪行爲ニ加擔シ

三、被告人文太郎カ判示第一ノ二ノ犯罪行爲ニ加擔シ

四、被告人勇太郎、文太郎カ古關友藏ト共謀シ昭和十一年二月十八日被告人勇太郎宅附近ニ於テ判示議員候補者ノ爲投票取纏運動ノ報酬トシテ非法定運動者佐々木重一ニ對シ金百圓ヲ供與シ

タリトノ點ハ孰レモ其ノ證明ナキモ右ハ被告人勇太郎、吉兵衛、吉治、文太郎ノ判示金錢供與ノ所爲ト夫々連續ノ關係ニ於テ公判ニ付セラレタルモノナルヲ以テ右被告人等ニ對シ其ノ點ニ付特ニ無罪ノ言渡ヲ爲サス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人藤木勇太郎同佐藤吉治辯護人林逸郎、中村耕三上告趣意書第一點第二審判決ハ其ノ理由ニ於テ「(前略)第四被告人勇太郎、久四郎ハ(中略)ニ候補者ノ法定ノ選舉運動者ニ非サル柴田政藏ト共謀ノ上候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ既ニ候補者ノ爲投票取纏ノ選舉運動ヲ爲スヘキ旨申出テタル矢崎幸之助ニ對シ其ノ選舉運動ヲ爲スコトノ報酬等トシテ右政藏ノ手ヨリ(イ)同月十日同郡

西馬音内町ナル政藏宅ニ於テ金百圓(ロ)同月十七八日頃同町西馬音内酒造株式會社ニ於テ金百五十圓以上合計金二百五十圓ヲ供與シ以テ一面無資格選舉運動ヲ爲シ(中略)第六被告人勇太郎、房治ハ(中略)二回候補者ノ法定ノ選舉運動者ニ非サル入江五郎ト共謀ノ上前同様ノ目的ヲ以テ同月十七日前示勇太郎宅ニ於テ候補者ノ爲投票取纏ノ選舉運動方ヲ依頼スル旨ノ書狀ヲ認メ之ニ其ノ運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ供與スル趣旨ニテ金五十圓ヲ添ヘタル上封入シ同日使者ニヨリ該封書ヲ同縣雄勝郡三輪村ナル右貞治方ニ届ケ即時同人ヲシテ其ノ趣旨ヲ諒シテ之ヲ受領セシメ以テ供與シ一面無資格選舉運動ヲ爲シ(後略)」ト判示シ「法律ニ照スニ(中略)被告人勇太郎ノ所爲中判示(中略)第四ノ二(中略)第六ノ二(中略)ノ金錢供與ノ各所爲ハ刑法第六十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第三號ニ(中略)同第四ノ二第六ノ二ノ無資格選舉運動ノ點ハ刑法第六十條第六十五條第一項衆議院議員選舉法第九十六條第一項第二百二十九條ニ該當スルコロ右金錢供與ノ所爲ハ連續ニ係ルヲ以テ刑法第五十五條ヲ適用シテ連續ノ一罪ト爲シ之ト無資格選舉運動トハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ衆議院議員選舉法第一百十二條第一項ノ罪ノ刑ニ從ヒ(後略)」ト說示シタリ抑モ衆議院議員選舉法第九十六條第一項前段ノ規定ハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ル者ヲ議員候補者選舉事務長又ハ選舉委員ニ制限シタルニ過キス換言スレハ議員候補者選舉事務長又ハ選舉委員タル身分ヲ得タルモノニ非サレハ猥リニ選舉運動ヲ爲スコトヲ許サレサル趣

無資格運動者ト共謀シテ金員ヲ供與シタル場合ノ選舉事務長ノ責任

旨ヲ明確ニシタルニ過キス從テ同條ノ規定ニヨリ玆ニ無資格選舉運動者ナル身分カ別ニ新ニ發生スヘキ所以アルコトナシ果シテ然ラハ選舉事務長タル身分ヲ有シ當然選舉運動ヲ爲スコトヲ得ヘキ被告人藤木勇太郎カ選舉運動ヲ爲スヘキ身分ヲ有セサルモノト共同シテ一行爲ヲ爲シタリトスルモ此ノ事ノミヲ以テ直ニ無資格ニシテ選舉運動ヲ爲シタルモノナリトナシ刑法第六十五條第一項ニ則リ處罰スルコト能ハサルヤ火ヲ賭ルヨリモ明カナリ即第二審判決ハ被告人藤木勇太郎ノ前示行爲ニ對シ不法ニ法律ヲ適用シ徒ラニ其ノ罪科ヲ重カラシメントシタルモノニシテ當然破毀セサルヘカラス參考學說「狩獵免狀受有者甲カ狩獵免狀ヲ有セサル乙ト共同シテ一ノ狩獵行爲(乙ハ狩獵法違反者タルコト勿論ナリ)ヲ爲シタル場合甲者ハ刑法第六十五條第一項ニ依リ其ノ共犯者トシテ處分シ得ルヤ——刑法第六十五條第一項ニ所謂身分トハ或ル特定ノ犯罪ニ付其ノ犯人ノ具有スルコトヲ必要トスル特種ノ人的關係ヲ汎稱スルモノニシテ狩獵免狀ヲ受有セサルコトハ狩獵法第二十一條違反者タルニ付法律上必要ナル身分タルコトヲ失ハサルカ如シト雖(即消極的身分)同法第三條第二十一條ノ規定ヲ彼是對照シテ考フルトキハ同法ノ趣旨ハ單ニ狩獵行爲ヲ爲スニ付免許ヲ受クルコトヲ必要トシ免許ヲ受ケスシテ狩獵行爲ヲ爲スコトヲ處斷スト云フニ過キサカ故ニ特ニ無免許者ナル身分ヲ生スト解スヘキモノニ非ス從テ甲ヲ乙ノ共犯者(正犯)トシテ處斷スルコト能ハスト云ハサルヘカラス」(法曹會大正十一年決議)(法曹記事第三二卷第四號四〇頁)ト云フニ在レトモ

衆議院議員選舉ニ際シ選舉委員カ無資格運動者ト共謀シ議員候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ金員ヲ選舉運動者ニ供與シタルトキハ選舉委員モ亦無資格運動ヲ爲シタルモノトシテ衆議院議員選舉法第九十六條第一項ノ罪責ヲ免レサルコト本院判例(昭和十二年二月十七日宣告)ノ示ス所ナリ原判決中第四ノ(二)及第六ノ事實ハ論旨摘録ノ如ク被告人勇太郎ハ選舉事務長及同房治ハ選舉委員ナルモ無資格運動者ト共謀シテ選舉運動者ニ金員ヲ供與シタル被告事件ニシテ選舉事務長モ亦選舉委員ト同一ニ論結スルモノナレハ原判決ニ於テ被告人勇太郎等ニ對シ無資格選舉運動ヲ爲シタル點ニ付テモ法律ノ適用ヲ爲シタルハ正當ナルモ刑法第六十五條第一項ヲモ直接適用セルハ失當ナリ敍上判例ハ同條ノ趣旨ヲ酌ミ其ノ精神ニ則ルヘキコトヲ示シタルニ過キス然レトモ右失當ハ一罪中ノ一部ニ對スルモノニシテ本件ハ結局右選舉法第一百二十二條第一項第一號ニ依リ處斷サルルニ於テ變ル所ナク被告人ノ利害ニ影響スル所ナキヲ以テ原判決ヲ破毀スル事由トスルニ足ラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事村上常太郎關與

○飲食物用器具取締規則違反被告事件

(昭和十二年(九)第四六〇號
同年十一月六日第五刑事部判決 破毀自判)

【上告人】 被告人 田中爲次郎 辯護人 (若泉小太郎
光延 豊)

【第一審】 豊原區裁判所 【第二審】 樺太地方裁判所

○判示事項

内務省令飲食物用器具取締規則ノ改正ト樺太ニ於ケル效力

○判決要旨

昭和十一年七月内務省令第二十五號ニ依ル飲食物用器具取締規則
ノ改正部分ハ樺太ニ其ノ效力ヲ及ホサス樺太ニ於テハ依然トシテ
改正前ノ同取締規則ノミ其ノ效力アルモノト解スヘキモノトス

内務省令飲食物用器具取締規則ノ改正ト樺太ニ於ケル效力

【参照】 明治三十三年内務省令第五十號 飲食物用器具取締規則第七條 銅又ハ其ノ合金ヲ以テ製造シ又ハ修繕シタル飲食物用器具ノ飲食物ニ接觸スル部分ニシテ鍍金屬ノ剝脱シタルモノ又ハ固有ノ光澤ヲ有セサルモノハ營業上使用スルコトヲ得ス

同第十條 第二條乃至第七條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

昭和十一年内務省令第二十五號ニ依ル右規則改正部分

第七條第二項 飲食物ノ攪拌磨碎等ノ用ニ供スル調理器ニシテ其ノ飲食物ニ接觸スル部分ノ銅又ハ其ノ合金カ剝削セラレ易キ裝置ヲ有スルモノハ之ヲ營業上ニ使用スルコトヲ得ス

第十條 第二條乃至第七條ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

明治四十年三月勅令第三十三號 樺太廳官制第一條 樺太廳ニ左ノ職員ヲ置ク

長官

(以下省略)

同第九條 長官ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ管理ス但シ郵便電信及電話ニ關スル事務ニ付テハ逓信大臣、銀行及關稅ニ關スル事務ニ付テハ大藏大臣ノ監督ヲ承ク

昭和四年六月勅令第五百五十二號 拓務省官制第一條 拓務大臣ハ朝鮮總督府、臺灣總督府、樺太廳及南洋廳ニ關スル事務ヲ統理シ東洋拓殖株式會社ノ業務ヲ監督ス

拓務大臣ハ涉外事項ニ關スルモノヲ除クノ外移植民ニ關スル事務及滿洲以外ニ於ケル海外拓殖事業ノ指導獎勵ニ關スル事務ヲ管理ス

拓務大臣ハ前項ノ事務ニ付外務大臣ヲ經由シ領事官ヲ指揮監督ス

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ十日間勞役場ニ留置ス押收ニ係ル銅鍋一個ハ之ヲ沒收スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ大正十一年頃ヨリ肩書住居地ニ店舗ヲ有シ菓子製造販賣業ヲ營ムモノナル處昭和十年十月頃ヨリ昭和十一年十月初旬頃迄ノ間右店舗ニ於テ内部飲食物ニ接觸スル部分ノ鍍金剝脱セル銅製鍋三個ヲ營業用ノ菓子製造ノ爲ニ使用シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ内務省令飲食物用器具取締規則第七條ニ違反シ同第十條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金二十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ被告人ヲ十日間勞役場ニ留置スヘク押收ニ係ル銅鍋一個ハ本件犯罪ノ組成物件ニシテ被告人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條第一項第一號第二項ニ則リ之ヲ沒收スヘキモノトス

○ 主 文

原判決ヲ破毀ス

被告人ヲ罰金二十圓ニ處ス

右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ十日間勞役場ニ留置ス

押收ニ係ル銅鍋一個ハ之ヲ沒收ス

内務省令飲食物用器具取締規則ノ改正ト樺太ニ於ケル效力

○理 由

辯護人若泉小太郎、光延豊上告趣意書第一點ハ原審ハ樺太ニ實施ノ効ナキ法令ヲ適用處斷シタル違法アリ何トナレハ原審カ本件被告人ノ所爲ニ適用シタル法令ハ内務省令飲食物用器具取締規則ニシテ現ニ樺太ニ實施ノ効ナキモノナリ抑々行政官廳ノ權限ハ總テ天皇ノ大權ニ其ノ源ヲ發シ直接又ハ間接ニ天皇ヨリ委任セラレタルモノニシテ其ノ範圍ハ第一ニ官制ニ依リ第二ニ其ノ官制ノ範圍内ニ於テ更ニ法令ニ依テ定メラルヘキモノナリ而シテ官廳ノ事務ノ種類權限ノ及フ人ノ範圍區域及行爲ノ形式ニ付テハ侵スヘカラサル限界アリテ此ノ限界ヲ超ヘタル官廳ノ行爲ハ國家ノ行爲トシテ無効ナリト云ハサルヘカラス然ルニ原審カ本件被告人ニ適用處斷シタル飲食物用器具取締規則ハ内務大臣カ各省官制通則第四條ノ規定ニ基キ其ノ主任事務ニ付發シタルモノニシテ其ノ効力ノ及フ範圍ハ内務大臣ノ管轄區域タル内地ニ限ラルヘク現在拓務大臣ノ管轄下ニ在ル樺太ニ及フヘカラサルハ官制上當然ノ事ニ屬ス若シ之カ効力樺太ニ及フトセンカ現在拓務大臣ノ權限ヲ如何セントスルカ凡ソ官廳カ其ノ限界内ニ於テノ權限ノ行使ハ互ニ相侵スコトヲ得サルモノニシテ若シ官廳相互ノ間ニ權限ノ争ヲ生シタルトキハ内閣官制第五條ニ依リ閣議ニ於テ之ヲ決スヘク又特定事項ニ付主任官廳カ他ノ官廳ノ權限ニ關係アル事項ヲ決セントスルトキハ豫メ他ノ官廳ト協議シテ之ヲ決スヘキモノニシテ殊ニ省令制定權ニ付テハ省令カ二省以上ニ干渉スル事務ニ關スル場合ハ通常閣議ヲ以テ其ノ主任ヲ定メ(各省官制通則第二條

第二項) 其ノ主任省ノ省令トシテ發シ他ノ關係省大臣ハ之ニ連署スルカ又ハ二省ノ大臣カ共ニ主任トシテ定メラレ兩省共同ノ省令トシテ發セラルルヲ常トス故ニ若シ原審カ本件被告事件ニ適用處斷シタル内務省令飲食物用器具取締規則カ上述ノ手續ヲ以テ發セラレタルモノナリトセハ可ナランモ本則ニ限り此ノ成規ノ手續ヲ以テ發セラレタル形跡ヲ認ムヘキモノナキ以上内務省令タル本則ハ拓務大臣ノ管轄下ニアル樺太ニ實施ノ効ナキモノト云ハサルヘカラス若シ夫レ本則ハ樺太カ内務省管轄下ニ在ル當時ニ發セラレ當時當然樺太ニモ施行セラレタルモノナルヲ以テ内務省ノ管轄ヲ離レタル今日ニ於テモ依然トシテ効力ヲ有スルモノナリトセンカ何カ故ニ管轄移轉ニ際シ關係省各大臣ハ協議ヲ遂ケタル結果ヲ公布ノ手續ヲ執ラサルヤ之無キ以上ハ如何ニ論者ハ本則ノ樺太ニ於ケル實施ノ効アルヲ叫フモ其ハ通セサルノ論ナリ又假ニ本則カ樺太ニ實施ノ形式ニ於テ誤リナシトスルモ本則ヲ樺太ニ施行スルニ於テハ幾多ノ矛盾アリテ到底其ノ有效ナルコトヲ肯定シ得サルモノアリ即(一) 本則カ將來樺太ノ實情ニ適セサルニ至リ之カ改正ノ必要ニ迫ラレタル場合其ノ改正ノ方法アリヤヲ考フルニ樺太ナル區域内ニ効力ヲ及ホサントスル限リ内務省令ヲ以テ改正ヲ爲スヲ得サルハ官制上明ナリ(二) 拓務省令ヲ以テスルモ改正ノ不可能ナルコト官制上亦明ナリ(三) 樺太廳長官ハ樺太ニ於ケル一切ノ行政事務ニ關シ其ノ職權ニ依リ又ハ特別ノ委任ニ依リ各省ノ省令又ハ勅令ヲ以テ定メラルヘキ事項ヲモ樺太廳令ヲ以テ規定シ得ル權限ヲ有スルヲ以テ樺太廳令ヲ以テ本則ヲ改正シ得ルヤヲ考フルニ之亦内務大臣

内務省令飲食物用器具取締規則ノ改正ト樺太ニ於ケル効力

ノ權限ヲ侵害スルノ結果ヲ生スヘキヲ以テ絶對不可能ナリ然リトセハ樺太廳長官ハ本則ノ如キ法令ニ對シテハ假ニ實施ノ效方アリト認メラレタリトスルモ發布以來數十年ヲ經テ社會實情ノ變遷アリ該法令ヲ適用セサルヲ可トスルモ場合ニヨリ適用處分セサルヲ得サルノ結果ヲ生スヘク行政上頗ル不當不便ナリト云ハサルヘカラス從テ斯ノ如キハ惡法ニシテ一日モ其ノ存在ヲ許スヘキモノニ非ス(四)以上ノ如ク本則ノ改正ハ樺太ニ關スル限リ內務大臣之ヲ爲ス能ハス拓務大臣樺太廳長官亦然リ結局省令以上ノ勅令又ハ法律ヲ以テセサルヘカラサルコトナルヘシ而シテ樺太廳長官ハ前述ノ如ク内地ナラハ廳令府縣令ヲ以テ定メラルヘキ事項ハ勿論各省ノ省令又ハ時トシテハ勅令ヲ以テ定ムヘキ事項ヲモ樺太廳令ヲ以テ定メ得ル權限ヲ有スルモノニシテ官制カ樺太廳長官ニ斯ク廣大ナル權限ヲ與ヘタルハ樺太ハ内地ト遠ク離レテ内地ト其ノ事情ヲ異ニシ且拓殖進展ノ途上ニアルヲ以テ長官ヲシテ急速ニ其ノ實情ニ適スル行政ヲ行ハシメントスルニ外ナラス從テ本則ノ如キ種類ノ法令ハ其ノ制定權樺太廳長官ニ在ルモノト見ルカ至當ニシテ樺太廳長官ハ急速ニ進展シツツアル樺太拓殖ノ實情ニ應シテ常ニ之カ改廢ヲ行ハサルヘカラサルノ責務ヲ有ス故ニ本則ノ如キ樺太廳長官ノ權限ニ於テ速ニ改廢シ得サル法令ヲ樺太ニ存在セシムルコトハ絶對ニ之ヲ許スヘキモノニ非スト信ス上述ノ如ク本件被告人ノ所爲ハ何等法令ニ規定ナキ行爲ニシテ罰セラルヘキモノニアラス之ニ虛無ノ法ヲ適用處斷シタル原審ハ到底破毀ヲ免レスト云ヒ」同第二點ハ假ニ百歩ヲ讓リ內務省令飲食物用器具取締規則カ現在樺太ニ實施ノ

效アリテ本則ヲ適用處斷スルハ不法ニ非スト爲サンカ樺太カ內務省ノ管轄ヲ離レタル後ニ於テ內務大臣ニ於テ改正ヲ爲シタル部分カ樺太ニ實施ノ效力アリヤ否ヤノ問題ヲ生ス而シテ若シ改正部分ニ限リ實施ノ效力ナシトセンカ前述ノ通り樺太廳長官ハ發布當時ヨリ遙ニ實情ノ異リタル今日及將來ニ於テ内地ニ於テハ法ノ改正部分カ實施セラレツツアルニ拘ラス依然トシテ舊法ヲ適用シテ行政ヲ行ヒ司法官憲ハ此ノ舊法ヲ適用處斷シ民衆ヲシテ無益ナル苦痛ヲ味ハシメサルヘカラサルコトナリ其ノ不合理之ヨリ甚シキハナシ又此ノ不合理ヲ除カンカ爲省令以上ノ效力ヲ有スル他ノ法令ヲ以テ改廢ヲ爲サンニハ官制カ樺太廳長官ニ與ヘタル權限ヲ無視スルコトナリヨリ以上ノ矛盾不合理ヲ生スルコト明ナリ若シ又樺太カ內務省ノ管轄ヲ離レタル後ニ於ケル內務省令ノ改正部分カ樺太ニ實施ノ效アリトセシカ之亦内地ト樺太ト實情ヲ異ニスルコト明ナルニ拘ラス樺太ノ事情ニ適セサル内地ノ法ヲ其ノ儘權太ニ施行スルコトト爲リ不合理ナルノミナラス現ニ內務省ノ管轄下ニ在ラサル樺太ニ內務大臣ノ權限ヲ及ホスコトトナリ明ニ官制ノ規定ニ反シ何人カ見ルモ權限外ノ行爲トシテ無効ノモノナリト斷定セサルヘカラス而モ原審カ本件被告事件ニ適用處斷シタルハ內務省令飲食物用器具取締規則第七條及第十條ニシテ其ノ第十條ハ昭和十一年七月二十三日內務省令第二十五號ヲ以テ改正セラレタルモノナリ原審カ右第十條ノ改正條文ヲ適用シタリトセハ多言ヲ要セスシテ違法ナルコト明ナリト云ヒ」同第三點ハ又假ニ前陳第一點及第二點ニ於ケル主張カ非ナリトスルモ內務省令タル飲食物用器具取締規則カ

內務省令飲食物用器具取締規則ノ改正ト樺太ニ於ケル效力

現在内務省管轄下ニ非サル樺太ニ施行セラレツアルコトニ付テハ其ノ實施ノ效力アリヤ否ニ付大ニ疑ノアル問題ニシテ議論ノ存スルトコロナリ現ニ之カ法令ヲ適用シ取締ノ任ニ當リツツアル樺太廳警察當局ニ於テモ其ノ效力ノ如何ニ付テハ確信ナキハ勿論寧ロ大イニ疑ヲ有シ居ルモノナリ凡ソ法ハ人民ニ行爲不行爲ヲ命シ強制力ヲ有スルモノナルヲ以テ其ノ存在ハ極メテ明確ナラサルヘカラス然ラサルニ於テハ人民ハ常ニ不測ノ損害ヲ蒙ルコトナルヘク延テハ法ノ威信ニ關スルニ至ルヘシ殊ニ刑罰法規ニ付テハ刑法ニ於テ「法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス」ナル大原則嚴存シ何人ト雖法ノ存在ヲ知ラストシテ罪ヲ免ルルヲ得サルモノナルニ拘ラス本件内務省令飲食物用器具取締規則ノ如キ其ノ存在ノ曖昧ナル法令存スルニ於テハ法ノ前ニ絶對服從ヲ要求セラルル人民ハ如何ニシテ其ノ堪ニ安ンスヘキヤ殊ニ此ノ曖昧ナル存在ヲ有スル法ノ適用處斷ヲ受ケテ罰セラレタル人民ハ後ニ至リ法ノ效力ナキコト明ナルニ至リタリトスルモ一度受ケタル前科ノ汚名ハ永久ニ消滅スルコトナカルヘク其ノ苦痛ヤ絶大ナルモノアリ又此ノ事ナシトスルモ本則ノ如キ效力ノ不明確ナル法ヲ適用處罰スルハ罪刑法定主義ノ原則ニ反シ違法ナリ依テ本則ヲ適用處罰シタル原判決ハ破毀ヲ免レサルモノナリト云ヒ」同第四點ハ裁判所ハ法律以外ノ命令ニ對シテハ之カ適用ニ當リ其ノ有效要件ハ形式的要件ノミナラス實質的要件モ之ヲ具備スルヤ否ヤヲ審査スルノ權利及義務ヲ有ス何トナレハ法律ハ立法權ノ行爲ニシテ裁判所ハ之ニ對シ服從ノ地位ニ在ルモノナルモ命令ハ行政權ノ行爲ニシテ裁判所

ハ之ニ對シテ獨立ノ地位ニ在ルモノナルヲ以テ行政權ノ行爲カ國家意思トシテ有效ニ成立シ居ルヤ否ニ付テハ裁判所ハ獨立ニ之ヲ審査スヘキモノナレハナリ然ルニ原審ハ内務省令飲食物用器具取締規則ノ如キ既ニ形式的ニ於テ其ノ效力ヲ疑ハルヘキ法令ニ付其ノ有效要件ヲ審査スルコトナク輕々ニ之ヲ適用處斷シタルハ一件記録ヲ通讀スルモ明ナルトコロニシテ審理不盡ノ違法アリト云フニアリ案スルニ明治四十年三月勅令第三十三號ニ依レハ樺太ニハ樺太廳長官ヲ置キ一般行政事務ニ付テハ内務大臣ノ指揮監督ノ下ニ法律命令ヲ執行セシメタルカ故ニ内務大臣カ法律ノ執行ニ關シテ定メタル命令並衛生行政ニ關スル命令ハ當然樺太ニモ行ハレタルモノト解スヘキモノトス而シテ明治三十三年法律第十五號飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關スル件ハ明治四十三年三月勅令第二十七號ニ依リ樺太ニ施行セラレタルヲ以テ同法第一條ノ規定ニ準據シ其ノ法律ノ施行ニ付テノ細則的性質ヲ有スル明治三十三年十二月内務省令第五十號飲食物用器具取締規則モ亦樺太ニ施行セラルルニ至リタルモノト解スルヲ相當トスサレハ其ノ後樺太廳ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ離レタリト雖之カ爲ニ前示取締規則ハ當然樺太ニ施行セラレサルニ至レルモノト斷スヘカラス蓋シ一旦適法ニ行ハレタル法令ハ特ニ廢止セラレ又ハ失效ヲ來スヘキ事情存セサル以上ハ官制ノ改正ニ依リテ必然的ニ其ノ效力ヲ失フヘキ理ナク而モ右取締規則ニ付特ニ敍上ノ如キ事情存セサレハナリ尤モ樺太施行法律特例ヲ一瞥スレハ同特例ニ因リ前示勅令第二十七號ハ廢止セラレタリト雖是唯不要ニ歸シタル勅令ヲ整理シタルニ過キスシテ之カ爲飲食

内務省令飲食物用器具取締規則ノ改正ト樺太ニ於ケル效力

物其ノ他ノ物品取締ニ關スル法律ノ樺太ニ於ケル施行ニ何等ノ消長ヲ來スヘキモノニアラス從ツテ其ノ法律ニ準據スル前示ノ取締規則モ猶嚴トシテ樺太ニ施行セラルルモノトス然レトモ前記説明ノ如ク内務大臣ノ權限樺太ニ及ハサルニ到リタル以上爾後發セラルル内務省令ノ樺太ニ及ハサルヤ勿論ナルカ故ニ樺太廳カ拓務大臣ノ指揮監督ヲ受クルニ至リタル後ニ發セラレタル昭和十一年七月内務省令第二十五號即右飲食物用器具取締規則ノ改正部分ハ樺太ニ其ノ效力ヲ及ホスヘキモノニアラス從ツテ右内務省令ノ改正アリタルニ拘ラス樺太ニ於テハ依然トシテ右改正前ノ取締規則ノミ其ノ效力アルモノト解スヘキモノトス此ノ見地ニ立脚シ原判決擬律ノ點ヲ查スルニ前示飲食物用器具取締規則ノ改正内務省令第十條ニハ罰金又ハ科料トアリ改正前ノ省令(刑法施行前ナルコト明ナリ)ニハ罰金刑ノミ規定セラレタルモノナルトコロ原判決ハ被告人ノ判示所爲ニ對シ罰金刑ヲ選擇スル旨說示シ且刑法施行法ノ規定ヲ適用セサルニ徵スレハ昭和十一年改正ニ依ル右内務省令ヲ以テ處斷シタルコト明カニシテ樺太ニ實施ノ效力ヲ及ホササル命令ヲ適用シタル違法アリ此ノ點ニ於テ論旨ハ畢竟理由アリ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ原判決ヲ破毀シ本院自ラ更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス仍テ原審ノ確定シタル事實ヲ法ニ照スニ被告人ノ所爲ハ前示改正前ノ明治三十三年内務省令第五十號飲食物用器具取締規則第七條ニ違反スルカ故ニ同規則第十條刑法施行法第十九條第二十條ヲ適用シ所定罰金額ノ範圍ニ於テ被告人ヲ罰金二十圓ニ處シ刑法第十八條ニ從ヒ被告人カ右罰金ヲ完納スルコト

【要旨】

能ハサル場合ニ於ケル勞役場留置ノ期間ヲ定メ押收ニ係ル銅鍋一個ハ本件犯罪行爲ヲ組成シタル物ニシテ犯人以外ノ者ニ屬セサルカ故ニ同法第十九條第一項第一號第二項ニ從ヒテ之ヲ沒收スヘキモノトス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)以上ノ理由ニ據リ主文ノ如ク判決ス

檢事村上常太郎關與

○村會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和十二年(九)第一六三四號 棄却)
(同年十一月九日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 島崎政一 辯護人 森保祐昌
 【第一審】 廣島區裁判所 【第二審】 廣島地方裁判所

○判示事項

租稅滯納處分中ノ者ノ選舉運動

租稅滯納處分中ノ者ノ選舉運動

○判決要旨

租稅滯納處分中ノ者ト雖村會議員選舉ニ際シ自己ニ投票ヲ得ル目的ヲ以テ連續シテ數名ノ選舉人ニ個々ニ面接シ投票ヲ依頼シタルトキハ町村制第三十六條ノ二第三十七條ニ依リ準用セラルル衆議院議員選舉法第九十八條第百二十九條ノ罪責ヲ免レサルモノトス

【參照】 町村制第八條第六項 町村公民租稅滯納處分中ハ町村ノ名譽職ニ就クコトヲ得ス

同第三十六條ノ二 町村會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法第九十一條、第九十二條、第九十八條、第九十九條第二項、第百條、第百條ノ二、第百四十二條及第百四十七條ノ規定ヲ準用ス

同第三十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

衆議院議員選舉法第九十八條 何人ト雖投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサルノ目的ヲ以テ戸別訪問ヲ爲スコトヲ得ス

何人ト雖前項ノ目的ヲ以テ連續シテ個個ノ選舉人ニ對シ面接シ又ハ電話ニ依リ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス

同法第百二十九條 第九十五條ノ二、第九十六條第一項、第九十八條若ハ第九十八條ノ二ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ一年以

○事實

下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金四十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ二十日間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

- 被告人ハ昭和十二年五月二十五日施行セラレタル廣島縣賀茂郡寺西村村會議員選舉ニ際シ立候補シタルモノナルトコ
 - 口自己ニ投票ヲ得ル目的ヲ以テ
 - (一) 同月七日居村大字寺家ノ路上ニ於テ選舉人岡田鐵次ニ對シ
 - (二) 同日頃同村選舉人山下多一方ニ於テ同人ニ對シ
 - (三) 同月八日朝同村大字西條東東間善作方前ニ於テ選舉人菅坂繁人ニ對シ
 - (四) 同月十日頃賀茂郡西條町木村醬油店ニ於テ居村選舉人方尺龜吉ニ對シ
- 夫々連續シテ個々ニ面接シ自己ニ投票アリ度旨依頼シタルモノナリ
- 法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ町村制第三十六條ノ二第三十七條衆議院議員選舉法第九十八條第二項第百二十九條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ罰金額ノ範圍内ニ於テ主文ノ刑ヲ量定處斷スヘク刑法第十八條ニ則リ右罰金不完納ノ場合ニ於ケル勞役場留置ノ期間ヲ定ムヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

租稅滯納處分中ノ者ノ選舉運動

辯護人森保祐昌上告趣意書第二點原審判決ハ審理不盡ノ不法アリ本件被告等ハ原審ニ於テ上申書ヲ提出シ居リ亦公判廷ニ於テモ極力供述シ居レルトコロニヨリテ之ヲ觀ルトキハ其ノ所爲縱令選舉法ニ牴觸スルトスルモ町村制第八條第六項ノ規定ニ該當スル缺格者ナルカ故ニ本件ノ犯行ヲ決行スヘキ立場ニ非サルモノナリ被告ノ本件犯罪ハ不能犯ナルヘキ事實確實タリ何トナレハ本件被告ハ租稅滯納處分中ノ者ニシテ此ノ事實ハ被告カ第二審公判廷ニ於テ陳述シ居レルニヨリテ明カナリ故ニ果シテ滯納處分中ノモノナリシヤ否ヤハ職權ヲ以テ進ンテ之ヲ調査スヘキモノニ非スヤ抑モ被告ノ本件選舉運動ハ自發的積極的ノモノニ非スシテ申譯的ノ偶發事ニ過キス何トナレハ選舉ノ結果カ當選點ニ達スルト雖自ラ其ノ就任資格ナキコトハ被告ノ熟知シ居リタルモノナレハ從テ眞實ニ當選ヲ得ル目的ヲ以テ積極的ニ得票運動ヲ爲スヘキ筈ナキヤ自明ナリ而シテ被告カ眞實ニ當選ヲ得ル目的ヲ以テ得票運動ヲ爲シ居ラサルモノトセハ本件ノ行爲ノ如キハ所謂自己カ當選セムカ爲ニ自己ニ投票ヲ得ル目的ヲ以テ爲シタル行爲ト云フコト能ハサルモノナリト云ハサルヘカラス惟フニ裁判所ハ斯ル事實ノ現出シタル場合ハ當事者ノ申請ナシト雖職權ヲ以テ斯ル事實ノアリタルヤ否ヤ亦被告カ斯ル事實ヲ知リナカラ即當選ノ目的ヲ達セサルコトヲ自覺シ居ルニモ拘ラス敢テ此ノ運動ヲ爲シタルモノナリヤ否ヤヲ審究セサルヘカラス然ルニ原審ハ斯ル事實ノ現レタルニモ拘ラス之ニ一顧タモ與ヘス漫然檢事局ノ自白シタリトスル調書ノミヲ以テ斯ノ如キ犯罪事實ヲ認定シ居ルニ至リテハ到底審理不盡ノ不法アルコトヲ免レス

ト云フニ在レトモ

被告人カ原判示ノ如ク村會議員選舉ニ際シ自己ニ投票ヲ得ル目的ヲ以テ選舉人岡田鐵次外三名ニ連續シテ個々ニ面接シ投票ノ依頼ヲ爲シタル事實ハ原判決舉示ノ證據ニ依リテ優ニ之ヲ認定シ得ルトコロニシテ被告人カ判示犯行當時租稅滯納處分中ノ者ナリシトスルモ後日該差押處分ノ解除ニ因リ被選舉資格回復セラレ當選人タルコトヲ得ヘキモノナレハ被告人カ滯納處分中ノ者ナリシトノ一事ハ被告人ニ所論ノ如ク投票ヲ得ル目的ナカリシモノナリト斷スルノ根據ト爲スニ足ラスシテ從テ前示ノ罪ノ認定ヲ妨クルモノニアラス而シテ所論町村制第八條第六項ハ町村公民ニシテ租稅滯納處分中ノ者ハ町村ノ名譽職ニ就クコトヲ得サル旨ヲ規定シタルニ止マリ斯ル者ト雖町村制第三十六條ノ二第三十七條ニ準用セラルル衆議院議員選舉法第九十八條第二百二十九條ノ適用ヲ除外セラルヘキモノニアラサルヲ以テ原審カ被告人ニ對シ前示ノ如ク事實ヲ認定シ其ノ所爲ヲ前示各法條ニ問擬シタルハ洵ニ相當ニシテ被告人ノ所爲ヲ以テ不能犯ナリト爲ス所論ハ首肯シ難シ原判決ニハ所論ノ如ク審理不盡ノ違法亦存スルコトナク論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上ノ理由ナルニヨリ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事德江治之助關與

【要旨】

○衆議院議員選舉法違反被告事件(昭和十二年(れ)第一六一三號 同年十一月十一日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 武並陽一 辯護人 武並覺郎

【第一審】 高梁區裁判所 【第二審】 岡山地方裁判所

○判示事項

投票立會人ト公ノ職務

○判決要旨

選舉人カ議員候補者ニ對シ選舉運動ヲ爲スヘキニ因リ自己ヲ投票立會人ニ指定セラレ度キ旨ノ申込ヲ爲スハ衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第四號第一號ニ所謂公ノ職務供與ノ要求罪ニ該當ス

【參照】 衆議院議員選舉法第二十四條 議員候補者ハ各投票區ニ於ケル選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ中ヨリ本人ノ承諾ヲ得テ投票立會人一人ヲ定メ選舉ノ期日前

二日迄ニ投票管理者ニ届出ツルコトヲ得但シ議員候補者死亡シ又ハ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ其ノ届出テタル投票立會人ハ其ノ職ヲ失フ

前項ノ規定ニ依ル投票立會人三人ニ達セサルトキ若ハ三人ニ達セサルニ至リタルトキ又ハ投票立會人ニシテ參會スル者投票所ヲ開クヘキ時刻ニ至リ三人ニ達セサルトキ若ハ其ノ後三人ニ達セサルニ至リタルトキハ投票管理者ハ其ノ投票區ニ於ケル選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ中ヨリ三人ニ達スル迄ノ投票立會人ヲ選任シ直ニ之ヲ本人ニ通知シ投票ニ立會ハシムヘシ

投票立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

同法第三十一條 投票ノ拒否ハ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票管理者之ヲ決定スヘシ前項ノ決定ヲ受ケタル選舉人不服アルトキハ投票管理者ハ假ニ投票ヲ爲サシムヘシ

前項ノ投票ハ選舉人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投票函セシムヘシ

投票立會人ニ於テ異議アル選舉人ニ對シテモ亦前二項ニ同シ

同法第三十四條 投票管理者ハ投票録ヲ作り投票ニ關スル顛末ヲ記載シ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

同法第三十五條 投票管理者ハ一人又ハ數人ノ投票立會人ト共ニ町村ノ投票區ニ於テハ投票ノ翌日迄ニ市ノ投票區ニ於テハ投票ノ當日投票函、投票録及選舉人名簿ヲ開票管理者ニ送致スヘシ

同法第一百十二條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又投票立會人ト公ノ職務

ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ要應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ

(中略)

四 第一號若ハ前號ノ供與、要應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ前號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ

(以下省略)

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金三十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ十五日間被告人ヲ勞役場ニ留置ス被告人ニ對シ衆議院議員選舉法第三百七條第一項裁判確定後五年間選舉權及被選舉權ヲ有セサル旨ノ規定ハ之ヲ適用セサル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十二年四月三十日施行セラレタル衆議院議員總選舉ノ選舉人タリシモノナルトコロ會テ業務橫領事件ニ付起訴セラレ其ノ名譽ヲ失墜セシコトアリシモ其ノ後漸ク之ヲ回復シテ同月十日施行ノ其ノ肩書居村村會議員選舉ニ際シテハ自ラ立候補最高點ニテ當選シタルカ尙右衆議院議員總選舉ニ付岡山縣第二選舉區ヨリ立候補シタル小谷節夫ヨリ其ノ投票立會人ト指定セラレナハ一層自己ノ名譽ヲ回復シ得ヘシト思惟シ同月十九日同村平川尋常小學校ニ於テ同候補者ノ政見發表演說會開催セラレタル際同演說會ニ臨席セル同候補者ニ傳達セラレヘキコトヲ豫期シナカラ其ノ選舉委員須藤金治ニ對シ自己カ居村村會議員ニ最高點ニテ當選シタルトキノ各當選者ノ氏名得票表ヲ示シ暗ニ「居村

内ニ於テ信望アリ最高點ニテ當選セル自己ヲ投票立會人ト爲スニ於テハ自己カ同候補者ノ爲ニ投票スルハ勿論自己カ投票立會人席ニ在レハ自然自己ヲ支持セル選舉人ノ投票ヲ得ヘキ」趣旨ノ申込ヲ爲シ以テ投票立會人タル職務ノ供與ノ要求ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ衆議院議員選舉法第一百二十二條第一項第四號第一號ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金三十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ十五日間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク尙情狀ニ因リ同選舉法第三百七條第一項裁判確定後五年間選舉權及被選舉權ヲ有セサル旨ノ規定ヲ適用セサルヲ相當トス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人武並覺郎上告趣意書第一點原審ハ法令ニ違反シ爲サレタル判決ナリ本件ハ衆議院議員選舉法罰則第一百二十二條第一項第四號及第一號ノ公私ノ職務ノ供與ヲ要求シタルモノトシテ處罰セラレタルモ同罰則中ニハ議員候補者ノ投票立會人ノ選任又ハ立會人タラントスル者ノ要求ハ所謂本條ノ公私ノ職務ノ供與又ハ其ノ供與ノ要求罪ヲ構成セサルモノトス投票立會人ノ選任ハ同法第二十四條ニヨリ議員候補者ニ於テ爲サシメ投票區ニ於テ三名ニ滿タサルトキハ投票管理者之ヲ選任セシムヘク其ノ選任權カ候補者ニ在リテ被選任者ノ承諾ヲ要スヘキ事ハ法規ノ明示スル處ナリ茲ニ於テ立會人タラントスル者

投票立會人ト公ノ職務

議員候補者ニ之カ申出ヲ爲シタルトキ之ヲ要求罪トシテ處罰スヘキ哉法ハ其ノ申出ヲ禁止シタル規定ナキハ勿論進テ之カ選定セラルヘキ要求ヲ爲スハ選舉公營ノ高唱セラルル現今ニ於テ有リ得ヘキ事ニ於テ國政上必然的ノ選舉ニ際シ自薦スルカ如キハ公共道德心ノ發露ニシテ強テ禁止スルノ要ナキモトス依テ其ノ要求アルモノニ選定ハ候補者之ヲ定ムルモノナレハ何等ノ法益ヲ害セス現選舉法實施以來行ヒ來リタル議員候補者カ事務長立會人ヲ選任シ又ハ事務長ノ選舉委員勞務者ヲ選任スルニ付當選ヲ得ル目的ヲ以テ之等ノ者ヲ選任シタルトキハ職務ノ供與ト爲リ其ノ目的了知ノ上要求スルトキハ要求罪ヲ構成スヘキモ一トシテ之ヲ違反處罰シタル例ヲ見サル所ナリ同法第二十四條ハ「議員候補者ヲシテ各投票區ニ於テ選舉人ヲ本人ノ承諾ヲ得テ投票立會人一人ヲ定メ投票管理者ニ届出ルコトヲ得」ト規定シ選舉カ公正ニ行ハルヘキ投票所ニ於テ各候補者ヨリ一人宛ノ立會人ヲ定メ投票立會人ト爲スト規定ハ候補者ヨリ間接ニ投票ノ自由公正ニ行ハルヘキ事ヲ目撃セシメ不公平ナカラシムヘキ精神ニテ其ノ選任權ヲ候補者ニ與ヘタリ之選舉ノ實情ヨリシテ當然ノ規定ト云ハサルヘカラス右法條カ立會人ノ人物經歷勢力等ニヨリ選舉人ノ投票ノ自由ヲ奪ヒ之カ公正ニ行フ事ヲ得サルニ於テハ投票管理者(市町村長)ノ選任ニ爲サシムヘク改正ヲ要スルモノトス法ハ從來ノ實例ニヨリ之カ改正ノ理由ヲ認メス其ノ立會人ノ有無(届出)又ハ其ノ何人ナリトモ毫モ投票ニ影響スヘキモノニアラサル事ハ實驗則ニヨリ明白ノ事ナリ本要求罪ヲ構成セリト判決シタルハ法律ヲ不當ニ解釋シタル違法アリトスト云

フニ在レトモ

【要旨】

投票立會人ハ衆議院議員選舉法第二十四條ノ規定ニ依リ議員候補者又ハ投票管理者ヨリ選任セラルルモノニシテ投票所ニ臨ミ投票ノ公正ニ行ハルルヤ否ヤヲ監視シ且投票ノ拒否ニ付投票管理者ニ意見ヲ陳述シ又ハ異議ヲ主張スル(同法第三十一條)ノ外投票録ニ投票管理者ト共ニ署名シ投票ニ關スル願末ヲ明カニシ或ハ投票管理者カ投票函投票録及選舉人名簿ヲ開票管理者ニ送致スルニ方リ之ニ協力スル等(同法第三十四條第三十五條)投票ニ關スル市町村長ノ事務ニ干與スルモノナレハ之ヲ公ノ職務ナリト謂フヲ妨ケス原判決ノ確定シタル事實ニ依レハ被告人ハ居村民衆ニ對スル自己ノ信用ヲ高揚スルノ手段トシテ人ヲ介シテ議員候補者小谷節夫ニ對シ村内ニテ信望ヲ有シ最高點ニテ村會議員ニ當選シタル被告人ヲシテ若シ投票立會人トシテ投票所ニ臨席セシムルニ於テハ當ニ被告人ノ一票ヲ獲得スルノミニ止マラス被告人ヲ支持セル多數選舉人ノ投票モ亦期セスシテ同候補者ニ集中スヘキ旨ヲ暗示シ以テ被告人ヲ投票立會人ニ選任スヘキコトヲ申入レタリト謂フニ在レハ同法第一百十二條第一項第四號第一號ニ所謂職務供與ノ要求タルコト勿論ニシテ原判決カ之ヲ同罪ニ間擬シタルハ正當ナリ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事正木亮關與

投票立會人ト公ノ職務

○詐欺破産被告事件

(昭和十二年(九)第一六六三號
同年十一月十二日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 平光圓四郎 辯護人 〔佐々木文平 赤井幸夫〕

【第一審】 岐阜地方裁判所 【第二審】 名古屋控訴院

○判示事項

破産法第三百七十五條ノ各號ノ所爲ト包括一罪

○判決要旨

債務者力破産宣告ノ前後ヲ問ハズ破産法第三百七十五條各號ノ所爲ノ全部又ハ一部ヲ實行スルニ於テハ總テ之ヲ破産宣告確定ナル處罰條件ノ下ニ包括シ一罪トシテ處斷スヘキモノトス

【參照】 破産法第三百七十五條 債務者破産宣告ノ前後ヲ問ハズ左ニ掲ケル行爲ヲ爲

- シ其ノ宣告確定シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 浪費又ハ賭博其ノ他ノ射倖行爲ヲ爲シ因テ著ク財産ヲ減少シ又ハ過大ノ債務ヲ負擔スルコト
- 二 破産ノ宣告ヲ遲延セシムル目的ヲ以テ著ク不利益ナル條件ニテ債務ヲ負擔シ又ハ信用取引ニ因リ商品ヲ買入レ著ク不利益ナル條件ニテ之ヲ處分スルコト
- 三 破産ノ原因タル事實アルコトヲ知ルニ拘ラス或債權者ニ特別ノ利益ヲ與フル目的ヲ以テ爲シタル擔保ノ供與又ハ債務ノ消滅ニ關スル行爲ニシテ債務者ノ義務ニ屬セス又ハ其ノ方法若ハ時期カ債務者ノ義務ニ屬セサルモノ
- 四 法律ノ規定ニ依リ作ルヘキ商業帳簿ヲ作ラス之ニ財産ノ現況ヲ知ルニ足ルヘキ記載ヲ爲サス又ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト
- 五 第八十七條ノ規定ニ依リ裁判所書記カ閉鎖シタル帳簿ニ變更ヲ加ヘ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役二年ニ處ス訴訟費用中證人淺野龜市山田金之助、高井孝三郎、加藤正次郎、大野重雄ニ支給シタル分ハ被告人及第一審相被告人平光茂ノ連帶負擔トシ證人伊藤代記ニ支給シタル分ヲ除ク其ノ餘ノ訴訟費用ハ被告人第一審相被告人平光茂、伊藤定七ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

株式會社蘇原銀行ハ岐阜縣稻葉郡東部農村ノ金融機關トシテ明治三十四年三月十一日資本金六萬圓ニテ同郡蘇原村ニ

破産法第三百七十五條ノ各號ノ所爲ト包括一罪

設立セラレ明治四十三年八月資本金十萬圓ニ増加シ毎期ノ利益金ハ株主ニ配當スヘキモノヲ交付セスシテ全部準備金トシテ保留スルノ主義ヲ採用シ痛ク世人ノ信用ヲ博シテ大正四年七月ニハ資本總額五十萬圓ニ達シ日本銀行亦其ノ賢實ナルヲ認メ大正五年二月取引開始ヲ承認スルヤ同年九月本店ヲ岐阜市神田町二丁目六番地ニ移轉シ岐阜市ヲ中心トシテ漸次營業所ヲ縣下各地ニ増設シテ活躍スルニ及ヒ聲價日ニ高マリ業務益々發展シ取引高著シク増大セルヲ以テ大正十一年五月更ニ資本金二百萬圓ニ増加スルニ至レリ然レトモ大正九年度ニ於ケル財界ノ不況ハ逐年深刻化シ蘇原銀行亦此ノ影響ヲ免レルヲ得スシテ大正十四年頃ヨリ其ノ發展ハ一頓挫ヲ來シ昭和二年ニハ全國的金融恐慌ヲ惹起スルニ至リ銀行ノ業績ハ低下シ居リタル折柄監督官廳ノ慈惠ニヨリ昭和二年四月株式會社西濃銀行ヲ買收シ昭和三年五月株式會社野々村銀行株式會社關興業銀行ヲ合併シ資本總額三百二十五萬圓(拂込額百三十七萬五千圓)ニ達シ株式會社十六銀行株式會社大垣共立銀行ト鼎立シテ岐阜縣下ノ三大銀行ト稱セラルルニ至レリ然レトモ右買收合併ハ資本及營業區域ヲ増大セシメタルモ株式會社西濃銀行及株式會社野々村銀行ハ何レモ其ノ内容不良ナリシヲ以テ不健全ナル膨脹ヲ來セルニ過キスシテ之カ爲ニ百八十二萬七千九百八十一圓六十錢ノ損失ヲ蒙レリ其ノ後昭和五年ニ至リ斷行セラレタル金解禁ハ一般產業界ノ萎靡沈衰ヲシテ其ノ極ニ達セシメ諸物價ノ低落ヲ來シ貸金ハ回收意ノ如クナラス頭取副頭取ニ對スル多大ノ貸金(昭和五年十二月末現在ノ頭取タル平光圓四郎及其ノ一族ノ借入金七十九萬六千九百四十七圓九十四錢副頭取タル野々村佐一郎及其ノ一族ノ借入金二百七十二萬五千六百四十六圓七十三錢合計金三百五十二萬二千五百九十圓六十七錢ニ達シ資本金ノ十割八厘餘拂込金ノ二十五割餘ニ該ル)モ亦回收固ヨリ望ム可カラヌ加フルニ蘇原銀行ノ主タル營業區域タル地方農村ハ極度ニ疲弊困憊シ漸次預金ノ引出ヲ繼續シ昭和五年上半期ニ於ケル預金引出高金二百五十萬四千五百五十七錢同下半年期ニ於ケル同上金五百八萬五千三百二圓九十九錢外ニ定期預金證書ヲ擔保トセル貸出高約金九十三萬圓合計金八百五十一萬九千八百餘圓ノ巨額ニ達シ且前掲配當ヲ爲サスシテ積立

金トセル制度ハ却ツテ多數株主タル農民ヲシテ此無配當ニ等シキ株式ノ賣放ヲ敢行セシムル有力ナル動因トナリ右株價ノ低落ニ伴ヒ惡評各處ニ行ハレ預金ハ常ニ減少ノ一途ヲ辿リ順次其ノ營業ハ不振トナリ昭和二年以降ハ每期缺損相續キタリ叙上其ノ内容ノ惡化ヲ如實ニ公表センカ忽チ没落ノ悲運ニ陥ルヘキヲ以テ

- 一 被告人平光圓四郎ハ明治三十四年七月ヨリ引續キ取締役頭取トナリ
- 一 原審相被告人平光茂ハ被告人圓四郎ノ二男ニシテ大正十四年四月同銀行監査部長昭和三年六月常務取締役兼業務部長トナリ

一 原審相被告人伊藤定七ハ大正九年右銀行本店營業部長代理兼本店營業主任昭和三年七月業務副部長兼本店支配人(登記セル支配人ニ非ス)昭和四年十二月業務副部長兼本店營業主任トナリタルモノナル處

被告人圓四郎等ハ同銀行カ前記ノ如キ狀態ナルニ拘ラス之ヲ隱蔽シ且營業ノ健全ト資力ノ充實トヲ假裝センコトヲ企テ假裝預金ヲ増加シ或ハ假裝利益ヲ捻出スル等ノ手段ニ依リ表面ヲ糊塗シ以テ極力平靜ヲ裝ヒ來リタルモ遂ニ昭和五年十二月十一日本支店共一齊ニ取付ニ遭ヒ翌十二日支拂停止ノ止ムナキニ立至リ(支拂停止當時ノ預金總額約金千二百三十三萬六千七百九十八圓九十二錢)爾來被告人等ニ於テ只管其ノ再起更生ニ努力シタルモ救濟資金ヲ得ル能ハス漸ク昭和七年四月古仁所豐、池田貞治ヲ迎ヘテ行務ヲ代行セシメタルモ銀行ニ對スル破産ヲ申請スル者續出シタル結果昭和七年八月二十七日岐阜區裁判所ニ於テ破産宣告ヲ受ケ同年十月十三日該決定確定シタルモノナリ

第一 岐阜好融合資會社ハ昭和二年十二月二十日原審相被告人伊藤定七ヲ無限責任社員トシ有限責任社員タル原審相被告人平光茂ノ出資セル見積金一萬二千圓ノ信越電力株式會社株式三百株(事實ハ蘇原銀行ノ所有ニ係ル)ヲ物的資産トシ官衙及法人其ノ他ノ代理事務動產不動産及有價證券ノ取得並賣買仲介金錢ノ貸付債權並手形ノ賣買以上ニ附隨シタル業務一切ヲ爲スコトヲ目的トシ右銀行内ニ設立シタルモノナルモ事實ハ右銀行ノ損失暴露ヲ隱蔽シ以テ

表面ヲ糊塗セントスル意圖ノ下ニ被告人及原審相被告人平光茂同伊藤定七等三名協議ノ上設立シタルモノナリ而シテ昭和二年ノ金融恐慌以來大藏省ノ銀行ニ對スル監督ハ愈嚴重トナリ實地調査モ屢々行ハレ改正銀行法ハ昭和三年一月一日ヨリ施行セラレ同法並銀行施行細則ニヨレハ各銀行ハ毎年三月六月九月十二月ノ四回重役並其ノ一族ノ借入金等ヲ記載セル監査書ヲ作成シ之ヲ本店ニ備付クルヲ要スル外大藏大臣ノ命ニヨリ何時ニテモ之ヲ提出スルコトヲ要スルコトトナリ居リタル處昭和三年三月三十日現在被告人平光茂四郎名義ノ蘇原銀行ヨリノ借入金ハ金六十萬七千二百八十八圓八十六錢ニシテ之ニ其ノ一族名義ノ借入金ヲ合算スルトキハ金百十七萬六千三百七十四圓七錢ノ巨額ニ達シタル折柄被告人圓四郎等ハ昭和三年三月三十日大藏省検査官カ武儀郡美濃町株式會社美濃銀行ニ實地調査ニ來行セルカ検査官ハ其ノ序ヲ以テ必ス蘇原銀行ニモ來行ノ上検査シ右被告人等ノ借入金カ暴露スレハ整理回收ヲ爲スヘキ旨命セララルコト必定ニシテ而モ夫ハ不可能ナリシヲ以テ右借入金ヲ殊更寡少ナル如ク假裝記載シ其ノ旨監査書ヲ作成シ以テ銀行ノ内容ノ可良ナルコトヲ裝ハンコトヲ企テ茲ニ被告人圓四郎及原審相被告人平光茂、伊藤定七ハ共謀ノ上昭和三年四月二日被告人圓四郎ノ所有名義トナリ居ル東京市蒲田區鈴木御臺場千六百五十番乃至千六百七番寄洲合計十五萬五千四百五坪餘(此ノ土地ニ付テハ被告人圓四郎ト武田太郎間ニ所有權ニ付爭アリ當時東京地方裁判所ニ訴訟繫屬中ニシテ何人ニ所有權アリヤ不明ナル上滿潮時ニハ海中ニ没シ去ルカ如キ土地ナルカ故ニ埋立工事完成ノ上ハ格別當時トシテハ其ノ價格不明ナリ)ヲ代金三十萬圓ニテ前記岐阜好融合會社ニ賣却シ同日同會社ハ之ヲ擔保トシテ蘇原銀行ヨリ同額ヲ借受ケタルコトトシタルモ單ニ帳簿上ノ細工ヲ爲シタルニ過キサレハ元ヨリ右賣買及擔保權ノ設定ニ付テハ何等登記手續ヲ履踐セス且金錢ノ授受モ爲サス同銀行擔保附手形貸付元帳(證第一四號ノ第一六三頁)ニ右金員貸付ノ不正ノ記載ヲ爲シ次テ該金員ヲ以テ同日(1) 同銀行本店扱平光茂四郎ノ當座借越金ノ内へ金十二萬九千九百九十九圓二十錢ヲ返済シタルコトト假裝シ同銀行本

店ノ當座勘定元帳(證第一六號ノ三頁)ニ其ノ旨假裝記載シ

(2) 同銀行元町支店平光茂四郎宛金三萬九千圓ヲ爲替送金シ同銀行本店ノ支店勘定元帳(證第二二號ノ二七六頁)ニ右金員ノ振込ヲ爲シタル旨ノ假裝記載ヲ爲シ而シテ右送金通知ヲ受ケタル同元町支店ニ於テハ右日附ヨリ前タル同年三月三十一日附(此ノ點ハ記帳處理上ノ手落ニ基因ス以下同之)ヲ以テ右金三萬九千圓ヲ平光茂四郎ノ信用手形借入金ノ返済ニ充當シ同元町支店割引手形元帳(證第一九號ノ第九八頁)ニ其ノ旨ノ不正記載ヲ爲シ

(3) 同銀行北長森支店

(イ) 平光茂と(被告人平光茂四郎ノ妻)宛金十萬圓

(ロ) 平光茂宛金四萬圓並同人ノ手形延滞利息トシテ八百圓八十錢

ヲ各爲替送金シ同銀行本店ノ支店勘定元帳(證第二〇號ノ第三六頁)ニ右各金員ノ振込アリタル旨ノ假裝記載ヲ爲シ而シテ右送金通知ヲ受ケタル同銀行北長森支店ニ於テハ同年三月三十一日附右金員ヲ以テ(イ)平光茂ノ信用手形借入金四萬圓ヲ完済シ且手形延滞利息八百圓八十錢ヲ返済シ同支店信用手形貸付金元帳(證第一八號ノ第二八三頁)及同損益勘定元帳(證第三四三號ノ第一一五頁)ニ各其ノ旨ノ不正記載ヲ爲サシメ(ロ)平光茂とノ當座借越金ニ對シ金十萬圓ヲ内入辨済シ同支店ノ當座勘定元帳(證第一五號ノ第一四七頁)ニ其ノ旨ノ不正記載ヲ爲サシメ

以テ恰モ被告人圓四郎及其ノ一族ノ蘇原銀行ニ對スル債務中金三十萬圓ノ債務カ消滅セル如ク不正ノ記載ヲ爲シ
第二 株式會社蘇原銀行ハ後藤毛織株式會社ニ對シ

(1) 大正十五年二月二十六日契約債權極度額金十五萬圓擔保物岐阜縣稻葉郡長良村長良字鶴飼屋五十一番地ノ一山林一反六畝十一歩及右地上建物六棟外土地二筆

破産法第三百七十五條ノ各號ノ所爲ト包括一罪

(2) 同日契約債權極度額金二十四萬圓擔保物岐阜縣稻葉郡鶴沼村字大塚七千六百六番外三筆ニ建在セル木造銅板葺二階建住宅外建物七棟並宅地畑山林三十八筆

(3) 昭和二年十一月三十日契約債權極度額金二十三萬圓擔保物東京府荏原郡大井町字森下四千番畑五畝二歩外三十筆ノ土地建物

ノ手形割引根抵當契約ヲ締結シ且抵當權設定登記ヲ了シ取引ヲ開始シタル結果右毛織會社ハ該契約ニ基キ右銀行ニ對シ爲替手形十一通此額面總計金六十二萬七千圓ヲ振出シ同額ノ手形債務ヲ負擔シ居リタル處其ノ利息スラ支拂フコト能ハサリシヲ以テ右銀行ハ昭和五年三月十四日前掲擔保物ノ内(1)及(2)並曩ニ同銀行ニ對シ擔保ニ供シアリタル右毛織會社所有ノ機械類ノ權利ノ四割ヲ代金三十九萬圓ト見積リ代物辨濟ヲ受ケ右不動産ニ付テハ同月十七日右抵當權抹消登記並所有權移轉ノ假登記ヲ爲シ且其ノ賣渡證書本登記申請ニ付テノ委任狀登記濟證等ヲ受取リ何時ニテモ本登記ヲ爲シ得ヘク備ヘタルカ同銀行ハ右代物辨濟ニヨリ前掲不動産ノ所有權ヲ取得スルト共ニ右手形債權六十二萬七千圓ノ内金三十九萬圓ハ消滅シ殘額金二十三萬七千圓ノミ殘存スルヲ以テ帳簿上此ノ點ヲ明カナラシムルト共ニ該不動産ハ備付ニ係ル所有不動産元帳ニ之ヲ明瞭ニ記載セサル可カラサルニ拘ラス被告人ハ原審相被告人平光茂、伊藤定七ト共謀ノ上之ヲ如實ニ帳簿ニ記載スルトキハ時價トノ差損甚シク正常ナル時價ノ算出ニヨリ一時ニ莫大ナル損失ノ計上ト資金ノ固定化トヲ外部ニ暴露スルコトトナリ同銀行ノ信用ヲ失墜スルニ至ルヘキヲ恐レ之ヲ隱蔽シ以テ其ノ信用ヲ維持セントスル目的ノ下ニ依然トシテ同銀行本店ノ擔保手形貸付元帳(證第二二號ノ第九八頁證第一八六號ノ第一二三頁)ニ同銀行カ右毛織會社ニ對シ金六十二萬七千圓ノ手形債權ヲ有スル旨ノ記帳ヲ存續セシメテ正規ノ記帳ヲ爲サス以テ財産ノ現況ヲ知ルニ足ルヘキ記載ヲ爲サス漸ク支拂停止ノ後タル昭和七年三月三十一日及同年五月十四日(代物辨濟ヲ受ケタルヨリ約二年後)ニ至リ内金三十九萬圓ノ辨濟アリタルコト

ニ記載シ(證第二五號日記帳證第二三號所有動產不動產元帳)

第三 被告人ハ原審相被告人平光茂、伊藤定七ト共謀ノ上昭和五年上半期ニ於ケル株式會社蘇原銀行ノ營業利益ハ絶無ナリシカ此ノ事實カ外部ニ暴露センカ其ノ信用ヲ失墜スルコト甚大ナルヲ以テ營業ノ不振ヲ隱蔽スルノミナラス反ツテ恰モ相當ノ利益ヲ擧ゲ得タル如ク虚偽記帳ヲ爲シテ假裝利益ヲ捻出シ蝸配當ノ基礎ト爲シ以テ其ノ信用ヲ維持センコトヲ企テ昭和五年六月三十日先ツ前掲岐阜好融合會社ノ名ヲ以テ額面金九萬圓振出日同日満期日同年十二月三十一日同合資會社引受ノ爲替手形一通(證第一四一號ハ此ノ爲替手形ヲ書替ヘタルモノナリ)ヲ蘇原銀行宛振出シ同日右好融合會社カ同銀行ヨリ金九萬圓ヲ借入レタル形式ヲ執リ同日同銀行ノ擔保手形貸付元帳(證第二二ノ第二六一頁)ニ其ノ旨假裝記帳ヲ爲シ右金九萬圓ヲ即日

(1) 内金三萬七千七百七十二圓五十八錢ハ岐阜好融合會社ノ蘇原銀行ニ對スル擔保手形借入金ノ利息トシテ支拂ヒ同銀行擔保手形貸付元帳(證第二七號ノ第二六頁)ニ之カ支拂ヲ受ケタル旨ノ記帳ヲ爲シ

(2) 内金一萬四千二百三十六圓七十八錢ヲ右好融合會社ヨリ被告人平光圓四郎ニ貸與シ同被告人ハ此ノ借入金ノ内

(イ) 金一萬百二十四圓ヲ前掲第一事實ニ記載セル岐阜好融合會社カ蘇原銀行ヨリ借入レタル金三十萬圓ニ對スル昭和四年一月ヨリ六月迄ノ利息金ニ相當スルモノヲ自己ノ同銀行ニ對スル擔保手形借入金ニ對スル利息トシテ支拂ヒ同銀行擔保手形貸付元帳(證第二七號ノ第二六頁)ニ之カ支拂アリタル旨記帳シ

(ロ) 殘額金四千百十二圓七十八錢ヲ被告人圓四郎カ清算人ナル京城工業株式會社ノ同銀行ニ對スル證書ニヨル借入金八萬四千百五十七圓五十錢ニ對スル昭和五年一月一日ヨリ同年六月三十日迄ノ利息(證第一九三號證書貸付元帳ノ第七頁)ノ立替拂ヲ爲シ同銀行擔保手形貸付元帳(證第二七號ノ第二七頁)ニ之カ支拂ヲ受ケタ

破産法第三百七十五條、各號ノ所爲ト包括一罪

ル旨ノ記帳ヲ爲シ

(3) 内金三萬八千五百九十圓六十四錢ヲ右好融合資會社ヨリ副頭取野々村佐一郎ニ貸與シタルコトニ假裝シ同人ハ其ノ全部ヲ自己ノ同銀行本店ニ對スル擔保附手形借入金ノ利息トシテ支拂ヒ同銀行擔保附手形貸付元帳(證第二七號ノ第二六頁)ニ之カ支拂アリタル旨記帳シ

以テ唯々帳簿上ノ細工ヲ爲シタルニ過キサルニ拘ラス右金九萬圓全部同銀行ニ現實入金アリテ利益金ニ組込マレタルカ如ク各不正ノ記帳ヲ爲シ

第四 被告人ハ原審相被告人平光茂、伊藤定七ト共謀ノ上前同様株式會社蘇原銀行ニ於ケル昭和四年上半期同下半年昭和五年上半期ニ於ケル營業狀態ヲ如實ニ記帳發表スルトキハ其ノ不良ヲ暴露シ同銀行ノ信用ヲ失墜スルニ至ルヘキコト必定ナルヲ苦慮セル結果各期末ニ於ケル假裝利益ヲ捻出シ稍配當ノ基礎ト爲シ以テ銀行ノ信用ヲ維持センコトヲ企テ

(1) (イ) 後藤毛織株式會社ハ右蘇原銀行ヨリ借用セル前掲第二事實記載ノ金六十二萬七千圓ニ對スル昭和四年上半期(同年六月三十日迄)ノ利息金三萬一千三百圓四十二錢ノ支拂ヲ爲ササルニ拘ラス決算期ニ於ケル此ノ損失ヲ隱蔽スル爲昭和四年六月二十九日同銀行損益勘定元帳(證第二九號ノ第二七頁)ニ同毛織會社ヨリ同額ノ利息カ現實ニ收入アリタル旨不正ノ記載ヲ爲シ

(ロ) 京城工業株式會社ハ資産ナク債務多額ノ爲大正十三年中解散シ目下清算中ニシテ同會社カ右蘇原銀行ヨリ借用セル證書借入金八萬四千五百七十七圓五十錢ニ對スル大正十三年以降昭和四年上半期迄ノ利息金二萬七百七十二圓八十一錢ノ支拂ヲ爲ササルニ拘ラス前同様損失ヲ隱蔽スル爲昭和四年六月二十九日同銀行損益勘定元帳(證第二九號ノ第三二頁)ニ同會社ヨリ同額ノ利息カ實現ニ收入アリタル旨不正ノ記載ヲ爲シ

(ハ) 右(イ)(ロ)ノ如ク未收入利息ヲ現實ニ入金アリタルコトニ記帳セル結果帳簿上ノ辻褄ヲ合セル爲昭和四年七月二十日同銀行ノ日記帳(證第二五四號ノ第一三四頁)ニ京城工業株式會社ヘ假拂金トシテ金五萬二千二百十三圓二十三錢(此ノ金額ハ右(イ)(ロ)ノ未拂利息ノ合算額ニ該當シ京城工業株式會社外一名トシテ後藤毛織株式會社ヲモ表示スヘキヲ誤記シタルモノナリ)ヲ支拂タル旨不正ノ記載ヲ爲シ尙右日記帳同頁ニ記載セル渡邊松衛外三名ヘ假拂金トシテ金三千七百七十四圓二十三錢ヲ支拂ヒタルモノト合算スレハ金五萬五千九百七十七圓四十六錢トナルヲ以テ前同日同銀行總勘定元帳(證第二八號ノ第一六五頁)ニ同合算額ヲ假拂金トシテ拂出シタル旨不正ノ記載ヲ爲シ

(2) (イ) 田中善兵衛ハ右銀行ヨリ證書貸付トシテ昭和四年十二月末現在ニ於テ金十二萬三千九百八十圓七十九錢(證第一九三號ノ第三頁)ヲ借用シ居ルモ之ニ對スル利息金ノ支拂ヲ爲ササリシニ拘ラス同年十二月三十一日金千五百圓ヲ其ノ利息トシテ現實入金シタル如ク同銀行ノ損益勘定元帳(證第三〇號ノ第三三頁)ニ不正ノ記載ヲ爲シ

(ロ) 右ノ如ク未收入利息ヲ現實入金アリタルコトニ記帳セル結果帳簿上辻褄ヲ合セル爲昭和五年一月九日同銀行日記帳(證第二五八號ノ第一八四頁)ニ田中善兵衛外三名ヘ假拂金トシテ金四千四百七十七圓八十七錢(内金千五百圓ハ田中善兵衛ノ分)ヲ現金支拂ヲ爲シタル旨不正ノ記載ヲ爲シ又同日同銀行ノ總勘定元帳(證第二四號ノ第一六五頁)ニモ同額ノ假拂アリタル旨不正ノ記載ヲ爲シ

(3) (イ) 田中善兵衛ハ前項借入金十二萬三千九百八十圓七十九錢ヲ昭和五年三月十一日金三萬圓(擔保不動産)金九萬三千九百八十圓七十九錢(擔保有價證券)ノ二通ノ約束手形ニ改メタルカ其ノ利息ノ支拂ヲ爲ササリシ

ニ拘ラス同銀行ニ於テハ昭和五年六月三十日右擔保附手形貸付金ニ對スル同日迄ノ利息トシテ金二千圓ヲ現實ニ入金シタル如ク同銀行ノ損益勘定元帳(證第二二七號ノ第二六頁)ニ不正ノ記載ヲ爲シ

(ロ) 右ノ如ク未收入利息ヲ現實入金アリタルコトニ記載セル結果帳簿上ノ辻褄ヲ合セル爲昭和五年七月九日同銀行ノ總勘定元帳(證第一九二號ノ第一六五頁)ニ假拂金トシテ金二千圓ヲ支拂ヒタル旨不正ノ記載ヲ爲シ

第五 被告人ハ原審相被告人平光茂、伊藤定七ト共謀ノ上前同様株式會社蘇原銀行ニ於ケル各期末ノ營業狀態ヲ如實ニ記帳發表スルトキハ忽チ其ノ内容ノ不良ヲ暴露シ同銀行ノ信用ヲ失墜スルニ至ルヘキコト必定ナルヲ苦慮シ各期末ニ於ケル假裝利益ヲ捻出シ蝟配當ノ基礎ト爲シ以テ同銀行ノ内容ノ良好ト基礎ノ堅實ヲ裝ハンコトヲ企テ本來岐阜好融合會社ニ對スル貸付金ノ大部分ハ銀行ノ損失暴露ヲ防止センカ爲同會社ニ肩代リセシメタル爲ニ生シタルモノナルヲ以テ該貸付金自體不良ト云フ可ク況ヤ之ニ對スル利息ノ如キハ到底其ノ回收ノ見込ナキニ拘ラス左ノ如ク恰モ現實ニ收入アリタル如ク不正記帳ヲ爲シタリ

(1) 岐阜好融合會社ハ右蘇原銀行カ大野三郎ヨリ北海道十勝郡浦幌村所在ノ土地約八百四十町歩ヲ大正十四年頃金十三萬六千圓ノ代物辨濟トシテ其ノ所有權ヲ取得シタルモノヲ昭和二年十二月中同銀行ヨリ金十七萬七千六百七十圓ニテ買入レ即時之ヲ擔保トシテ同額ヲ借入レタルトコロ之ニ對スル昭和二年下半年期分ノ利息金一萬七千七百六十七圓ノ支拂ヲ爲ササルニ拘ラス右銀行ニ於テハ同年十二月二十八日恰モ右利息カ現實入金アリタル如ク損益勘定元帳(證第七七號ノ第一七〇頁)ニ其ノ旨不正ノ記載ヲ爲シ

(2) 同好融合會社カ同銀行ニ對スル從來ノ借入金ニ對スル昭和三年上半年期分ノ利息ハ金二萬一千六百六圓十六錢ナル處内金一萬三百七十三圓十錢ハ同好融合會社ノ銀行ニ對スル特別當座預金中ヨリ引出シ支拂ヒタルカ殘

金一萬千二百三十三圓六錢ハ其ノ支拂ヲ爲ササリシニ拘ラス同銀行ニ於テ同年六月三十日恰モ之カ現實入金アリタル如ク損益勘定元帳(證第七八號ノ第二三頁)ニ其ノ旨不正ノ記載ヲ爲シ

(3) 同好融合會社ノ同銀行ニ對スル從來ノ借入金ニ對スル昭和三年下半年期ノ利息金二萬八千三百六十四圓九十八錢ノ内金一萬五百三十一圓六十錢ハ好融合會社カ同銀行ニ對スル特別當座預金中ヨリ引出シ支拂ヒタルカ殘金一萬七千八百三十三圓三十八錢ノ支拂ヲ爲ササリシニ拘ラス同銀行ニ於テハ同年十二月三十一日恰モ之カ現實入金アリタル如ク損益勘定元帳(證第七九號ノ第一九頁)ニ其ノ旨不正ノ記載ヲ爲シ

(4) 同好融合會社ハ同銀行ニ對シ本項ノ如キ金員ヲ利息トシテ支拂フヘキ元本ナク固ヨリ之カ支拂ヲ爲シタルコトナキニ拘ラス昭和四年六月二十八日恰モ擔保手形金ニ對スル利息トシテ金二萬六千圓ノ現實入金アリタルカ如ク損益勘定元帳(證第二十九號ノ第二四頁)ニ其ノ旨不正ノ記載ヲ爲シ

(5) 同好融合會社ノ同銀行ニ對スル從來ノ借入金百三十四萬六千九百三十六錢ニ對スル昭和四年上半年ニ於ケル利息額ハ金五萬一千三百八錢ニシテ内金一萬二千四百四圓七錢ハ前第(3)項同様ノ方法ニ依リ支拂ヲ爲シタルカ殘金三萬八千五百九十九圓一錢ノ支拂ヲ爲ササリシニ拘ラス同銀行ニ於テハ同年六月二十八日恰モ現實入金アリタル如ク損益勘定元帳(證第二九號ノ第二四頁)ニ不正ノ記載ヲ爲シ

(6) 同好融合會社ノ同銀行ニ對スル從來ノ借入金ニ對スル昭和四年下半年期ノ利息ハ金四萬一千三十二圓三十九錢ニシテ内金二萬六千三十二圓三十九錢ハ前項同様ノ方法ニヨリ支拂ヒタルモ殘金一萬五千圓ノ支拂ヲ爲ササリシニ拘ラス同銀行ニ於テハ同年十二月三十一日恰モ現實入金アリタル如ク損益勘定元帳(證第三〇號ノ第二三頁)ニ不正ノ記載ヲ爲シ

第六 被告人ハ原審相被告人平光茂、伊藤定七ト共謀ノ上前同様株式會社蘇原銀行ノ各期末ニ於ケル營業ノ假裝利益

破産法第三百七十五條ノ各號ノ所爲ト包括一罪

ヲ抽出シテ蝟配當ノ基礎トシテ其ノ信用ヲ維持センカ爲頭取タル被告人平光圓四郎副頭取野々村佐一郎並各其ノ一族ノ同銀行ニ對スル債務ノ利息中現實入金トナラサルモノヲ恰モ現實ニ入金アリタル如ク不正ノ記帳ヲ爲シテ之ヲ處理センコトヲ企テ

(1) 被告人平光圓四郎及其ノ一族ノ右銀行ニ對スル債務ノ利息中全然入金トナラサルモノヲ恰モ大正十五年上半期以降昭和六年十二月三十一日迄ノ間ニ每半期ニ現實入金アリ其ノ合計ハ金十九萬五千四百七十九圓五十九錢トナルモノノ如ク同期間數十回ニ互リ

- (イ) 當座勘定元帳(證第四八號ノ一四五頁一四六頁一四七頁一四八頁證第三三號ノ一九九頁二〇〇頁二〇一頁)
 - (ロ) 同上(證第一六號ノ一頁)擔保附手形貸付元帳(證第二二號ノ一六四頁)
 - (ハ) 當座勘定元帳(證第三三號ノ二〇二頁)
 - (ニ) 同上(證第三八號ノ二八六頁證第四〇號ノ一七二頁)
 - (ホ) 同上(證第四三號ノ八八頁證第四四號ノ八一頁乃至八六頁九五頁證第一五號ノ一四七頁乃至一五一頁證第一七號ノ一二九頁乃至一三三頁)
 - (ヘ) 同上(證第三五號ノ一頁三頁證第四八號ノ一四七頁)
 - (ト) 當所割引手形元帳(證第二八三號ノ一〇五頁)當座勘定元帳(證第四八號ノ一四七頁)
 - (チ) 擔保附手形貸付金元帳(證第一四號ノ二二三頁證第一九四號ノ一九五頁證第二三號ノ一〇七頁)
 - (リ) 當所割引手形元帳(證第二八三號ノ二〇五頁二〇六頁)擔保附手形貸付金元帳(證第二八四號ノ五三頁)當座勘定元帳(證第四八號ノ一四七頁)擔保附手形貸付金元帳(證第二八四號ノ五四頁)
- 等ニ不正ノ記載ヲ爲シ

(2) 副頭取野々村佐一郎及其ノ一族ノ右銀行ニ對スル債務ノ利息中全然入金トナラサルモノヲ恰モ昭和三年五月一日以降昭和六年十二月三十一日迄ノ間ニ每半期ニ現實入金アリ其ノ合計ハ金四十九萬三千二百二十五圓九十五錢トナルモノノ如ク同期間數十回ニ互リ

- (イ) 當座勘定元帳(證第五〇號ノ二五一頁二五二頁證第四九號ノ一二三頁一二四頁)
- (ロ) 同上(證第五〇號ノ二五一頁證第四九號ノ一二三頁一二四頁)
- (ハ) 同上(同號ノ同頁)
- (ニ) 同上(證第五三號ノ二八三二八四頁二八七頁)
- (ホ) 同上(證第五〇號ノ二四二頁證第四九號ノ一一九頁)
- (ヘ) 擔保附手形貸付金元帳(證第五一號ノ一一頁)
- (ト) 當座勘定元帳(證第二八六號ノ一六五頁)
- (チ) 擔保附手形貸付金元帳(證第五一號ノ一二頁)
- (リ) 同上(證第二九〇號ノ三頁)
- (ヌ) 同上(證第五一號ノ一一頁)

等ニ不正ノ記載ヲ爲シ

但右(1)(2)合計金六十八萬五千八百五十四錢ノ不正ノ記載ヲ爲シタルモノナルカ伊藤定七ノ本項ニ共同加工シタル分ハ(一)平光圓四郎ニ對スル當座貸越ノ未收利息昭和四年六月二十四日ヨリ同六年十月一日迄ノ分金二萬六千五百七十二圓八十錢(二)同人ニ對スル擔保附手形貸付ノ未收利息昭和二年七月十四日同四年十二月三十一日ノ分合計金五萬一千七圓二十六錢(三)同人ニ對スル信用手形貸付未收利息ノ昭和五年十二月三十一日ノ分

破産法第三百七十五條ノ各號ノ所爲ト包括一罪

金四萬五圓四十四錢(四) 山田榮三郎ニ對スル無擔保手形貸付ノ未收利息大正十五年六月三十日ヨリ昭和四年十二月三十一日迄ノ分金二千三百六十九圓三十三錢(五) 安藤敬治ニ對スル擔保附手形貸付ノ未收利息昭和三年六月三十日ヨリ昭和五年十二月三十一日迄ノ分計金二萬八千三百十六圓三十三錢(六) 田中善兵衛ニ對スル證書貸付金ノ未收利息昭和三年十二月三十一日ノ分金千五百圓其ノ合計金十一萬八十一圓十五錢ニ付テナリ

第七 (甲) 被告人ハ原審相被告人平光茂、伊藤定七ト共謀ノ上株式會社蘇原銀行ニ於テハ昭和二年以來每期ノ預金ハ漸減ノ一方ヲ辿リ而モ之ヲ如實ニ發表センカ預金ノ減少ト共ニ他面支拂準備金ノ貧弱ヲ暴露シ遂ニ銀行ノ信用ヲ失墜スルコトヲ苦慮セル結果(1) 現金ヲ以テ預金アリタル如ク假裝シ(2) 借入金勘定ヲ振替ヘ預金セル如ク假裝シ或ハ(3) 手形貸付ヲ爲シ同時ニ債務者ヨリ同額ノ預金アリタル如ク假裝スル等ノ不正記載ヲ爲シテ毎期末ニ於ケル假裝預金ヲ増加セシメ翌期ノ當初ニ之ヲ拂戻シタル如ク仕做シ以テ帳簿上ノ辻褄ヲ合スル方法ニヨリ銀行ノ信用ヲ維持センコトヲ企テ昭和二年上半期ヨリ昭和五年上半期ニ於ケル七期間ニ互リ

(一) 昭和二年上半期末ニ於ケル假裝預金増加ハ金七十二萬五千圓ニシテ同年六月三十日同銀行本店ノ通知預金元帳(證第二〇五號ノ第二頁)ニ(イ)金十七萬五千圓(ロ)金四十萬圓(ハ)金十五萬圓ノ各預金アリタル旨不正ノ記載ヲ爲シ翌七月一日右帳簿同頁ニ各拂出ノ形式ヲ採リ

(二) 昭和二年下半期末ニ於ケル假裝預金増加ハ金百六萬圓ニシテ同年十二月三十一日同銀行本店ノ通知預金元帳(證第二〇五號ノ第二頁)ニ(イ)金十一萬圓(ロ)金三十萬圓同本店ノ別段預金元帳(證第二〇八號ノ第一〇七頁)ニ(ハ)金二十五萬圓(ニ)金四十萬圓ノ各預金アリタル旨不正ノ記載ヲ爲シ(イ)(ハ)(ニ)ニ付テハ翌三年一月四日(ロ)ニ付テハ同年二月四日各右帳簿ノ同頁ニ何レモ拂出シタル形式ヲ採リ

(三) 昭和三年上半期ニ於ケル假裝預金増加ハ金六十萬圓ニシテ同年六月三十日同銀行本店ノ別段預金元帳(證

第二一〇號ノ第一七七頁)ニ同金額ノ預金アリタル旨不正ノ記載ヲ爲シ同年七月二日同帳簿ニ拂出ノ形式ヲ採リ

(四) 昭和三年下半期ニ於ケル假裝預金増加ハ金百五萬圓ニシテ同年十二月三十一日同銀行本店ノ別段預金元帳(證第二一〇號ノ第八三頁)ニ(イ)金四十萬圓(ロ)金三十萬圓(ハ)金三十五萬圓ノ各預金アリタル旨不正ノ記載ヲ爲シ翌四年一月四日何レモ同帳簿ニ拂出ノ形式ヲ採リ

(五) 昭和四年上半期末ニ於ケル假裝預金増加ハ金百二十萬圓ニシテ同年六月二十九日同銀行本店ノ日記帳(證第二五四號ノ第九五頁) 並當座預金増補日記帳(證第二二三號ノ第一七四頁)ニ(イ)金四十萬圓同年六月二十八日同本店ノ日記帳(證第二五四號ノ第九二頁)ニ(ロ)金二十萬圓(ハ)金六十萬圓ノ各預金アリタル旨不正ノ記載ヲ爲シ同年七月二日各帳簿ニ拂出ノ形式ヲ採リ

(六) 昭和四年下半期末ニ於ケル假裝預金増加ハ金五十萬一千八百圓ニシテ同年十二月三十一日同銀行ノ

- (1) 米屋町支店ノ日記帳(證第二一六號ノ第二四頁)ニ金十萬圓
- (2) 木田支店ノ日記帳(證第二一八號ノ第一〇八頁)ニ金四萬圓
- (3) 北方支店ノ日記帳(證第二一九號ノ第二〇三頁)ニ金十萬圓
- (4) 南支店ノ日記帳(證第二二一號ノ第一二四頁)ニ金三萬二千圓
- (5) 柳ヶ瀬支店ノ日記帳(證第二二三號ノ第三五頁)ニ金五萬圓
- (6) 新加納支店ノ日記帳(證第二二五號ノ第九頁)ニ金十萬圓
- (7) 太田支店ノ日記帳(證第二二七號ノ第一五三頁)ニ四口ニ合計金五萬一千圓(即金三千圓金八千圓金二萬圓金二萬圓ノ四口)
- (8) 長良支店ノ日記帳(證第二二八號ノ第一八一頁)ニ金二萬八千八百圓

破産法第三百七十五條ノ各號ノ所爲ト包括一罪

ノ各不正ノ記載ヲ爲シ(1)ニ付テハ翌五年二月二十八日(2)ニ付テハ同年一月三十日(3)ニ付テハ同年三月三十一日其ノ他ハ同年一月四日何レモ該帳簿ニ夫々拂出ノ形式ヲ採リ

(七) 昭和五年上半期末ニ於ケル假裝預金増加ハ金百九十一萬七千八百十八圓五十錢ニシテ同年六月三十日同銀行

(1) 本店ノ當座預金増補日記帳(證第二三二號ノ二五九頁二六〇頁)ニ(イ)金十萬圓(ロ)金十萬圓(ハ)金十萬圓(ニ)金二十萬圓同特別當座預金増補日記帳(證第二三九號ノ九六頁)ニ(イ)金二十萬圓(ロ)金十萬圓(ハ)金十萬圓

(2) 高富支店ノ日記帳(證第二三三號ノ一〇八頁)ニ(イ)金三萬一千圓(ロ)金二萬九千五百圓(ハ)金二萬八千五百圓(ニ)金三萬一千圓

(3) 美濃町支店ノ日記帳(證第二三七號ノ一四〇頁)ニ金二萬九千九百六十八圓五十錢

(4) 北長森支店ノ日記帳(證第二三八號ノ一七九頁)ニ(イ)金五萬圓(ロ)金二萬圓(ハ)金三萬圓

(5) 加納支店ノ特別當座預金増補日記帳(證第二四三號ノ六三頁)ニ金五萬圓

(6) 長良支店ノ日記帳(證第二四四號ノ一〇二頁)ニ(イ)金五萬圓(ロ)金五萬圓

(7) 柳ヶ瀬支店ノ日記帳(證第二四八號ノ九六頁)ニ金二十萬圓

(8) 北方支店ノ日記帳(證第二四九號ノ七〇頁)ニ金十萬圓

(9) 米屋町支店ノ日記帳(證第二五〇號ノ九四頁)ニ(イ)金二萬五百圓(ロ)金二萬圓(ハ)金四萬七千圓

(ニ) 金二萬圓(ホ)金三萬圓(ヘ)金三萬圓

(10) 新加納支店ノ日記帳(證第二四七號ノ八七頁)ニ金十五萬圓

ノ各預金アリタル旨不正記載ヲ爲シ同年七月一日ヨリ八月二十八日迄ノ間ニ何レモ之カ拂出シタル形式ヲ採リ

(乙) 被告人ハ原審相被告人平光茂、伊藤定七ト共謀ノ上前第七同様株式會社蘇原銀行ノ各期末ニ於ケル營業利益ハ極メテ僅少ナルカ又絶無ナリシ爲此ノ内容ノ不良營業ノ不振ヲ隱蔽スルノミナラス却ツテ恰モ相當ノ營業利益ヲ抽出シテ稍配當ノ基礎トシ以テ其ノ信用ヲ維持センカ爲(1)利息ヲ生スヘキ元本ナキニ拘ラス恰モ現實ノ受入雜利息アリタル如ク(2)利息ヲ生スヘキ元本存スルモ到底利息收入ノ見込ナキニ拘ラス恰モ其ノ現實入金アリタル如ク不正記載ヲ爲サンコトヲ企テ

(1) 昭和二年六月二十八日同銀行本店ノ損益勘定元帳(證第七六號ノ一三三頁)ニ雜利息受入金二萬圓

(2) 同月二十九日右元帳(同頁)ニ雜利息受入金一萬七千圓

(3) 昭和二年六月三十日同損益勘定元帳(證第七八號ノ一四一頁)ニ雜利息受入金十萬圓

(4) 昭和三年十二月三十一日同損益勘定元帳(證第七九號ノ二〇頁)ニ擔保附手形貸付金利息トシテ(イ)金七萬五千圓(ロ)金一萬四千三百八十四圓三十八錢

(5) 昭和四年十二月三十一日同損益勘定元帳(證第三〇號ノ二三頁)ニ擔保附手形貸付金利息トシテ(イ)金三萬圓(ロ)金二萬圓

(6) 昭和五年六月三十日同損益勘定元帳(證第二七號ノ二六頁)ニ擔保附手形貸付金利息トシテ金一萬四百三十三圓

右合計金二十八萬七千七百八十七圓三十八錢ニ付テハ全然入金ナキニ拘ラス恰モ現實ニ入金アリタル如ク各不正ノ記載ヲ爲シ

(但伊藤定七カ本項ニ共同加工セルハ本店取扱ノ分竝(六)ノ(1)(3)(4)(6)(7)(七)ノ(1)(4)(5)

破産法第三百七十五條ノ各號ノ所爲ト包括一罪

第八 株式會社蘇原銀行カ其ノ所有ニ係ル有價證券不動産又ハ擔保物カ昭和二年以來ノ値下トナリ之ヲ處分スルトキハ直チニ銀行ノ損失トシテ表示セラレ可ク若シ之ヲ始メテ價格ト爲シ財產目錄營業報告書ニ記載スル時ハ一般顧客ニ其ノ基礎ヲ疑ハルルニ至ル虞アルヲ以テ被告人ハ原審被告人平光茂、伊藤定七ト共謀ノ上其ノ對策トシテ是等物件ヲ高價ニ前記第一ニ説明セル岐阜好融合會社ニ賣却シ即時之ヲ擔保トシテ該賣買代金ト同額ノ金員ヲ貸與シタルコトトシ又回收ノ見込ナキ不良貸金ヲ恰モ回收シタルコトニ假裝スルト同時ニ其ノ額面ニテ同會社ニ貸付タルコトトシ以テ永久ニ優良債權ナルカ如クシテ存續セシメテハ銀行ノ損失暴露ヲ免レ得ルト同時ニ右債權ニ付テノ利息ヲ生シ且其ノ現實入金アリタルコトニ記帳ヲモ爲シ得ヘク實ニ一石二鳥ノ妙案ナリトシ銀行ノ信用維持ノ目的ノ下ニ岐阜好融合會社ハ前記第五ノ(1)ニ記載シタル如ク昭和二年十二月二十三日株式會社蘇原銀行ヨリ北海道十勝郡浦幌村大字浦幌字下浦幌原野西三線地内土地約八百四十町歩ヲ金十七萬七千六百七十圓ニテ買受ケ即日之ヲ擔保トシテ同銀行ヨリ同額ヲ借入レタルモノナリ然ルニ右土地ハ同銀行カ大野三郎ニ對スル金十三萬六千五百圓ノ債權ノ爲大正十四年二月七日代物辨濟トシテ受取りタルカ當時ノ價格ハ恐ラク右債權額以下ニシテ其ノ後益々財界不況ノ度ヲ深メタル昭和二年十二月二十三日頃ニ於テハ其ノ價格一層低落セルモノナルコトハ之ヲ推知スルニ難カラズ從テ同銀行ハ好融合會社ヲ利用シテ金十三萬六千五百圓以下ノ右土地ヲ同會社ニ金十七萬七千六百七十圓ニ賣渡シ即時之ヲ擔保トシテ同額ヲ貸與シタル形式ヲ採リ以テ不動産ノ値下ニヨル同銀行ノ損失金四萬一千七百七十圓ヲ隱蔽シ斯ノ如キ方法ニ依リ昭和二年十二月三日ヨリ昭和五年六月二十一日迄ノ間ニ合計三十一口ニ互リ有價證券不動産又ハ擔保物ノ値下ニヨル同銀行ノ損失全部合計金四十六萬四千七百六十七圓三十五錢ヲ隱蔽シ以テ財產目錄營業報告書等ニ財產ノ現況ヲ知ルニ足ルヘキ記載ヲ爲ササリシモノナリ

被告人圓四郎ノ判示所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノナリ

法律ニ照スニ被告人圓四郎ノ判示所爲ハ破産法第三百七十五條第四號第三百七十六條刑法第五十五條第六十條ニ該當スルトコロ懲役刑ヲ選擇シ其ノ所定ノ刑期範圍内ニ於テ被告人圓四郎ヲ懲役二年ニ所斷スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ヲ適用シ主文掲記ノ如ク之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス、

○理 由

辯護人佐々木文平、赤井幸夫上告趣意書第一點原判決ハ本件判示第一乃至第八ノ事實ヲ以テ連續犯ナリトシ破産法第三百七十五條第四號同第三百七十六條刑法第五十五條第六十條ヲ適用處斷シタリ然レトモ本件各判示行爲ハ昭和七年八月二十七日岐卓區裁判所ニ於テ宣告ヲ受ケ同年十月十三日確定シタル破産ノ宣告確定ナル一個ノ處罰條件ニヨリ總括セラレタル包括一罪ニシテ連續犯トシテ刑法第五十五條ノ適用ヲ受クヘキモノニアラス然ルニ原判決カ之ヲ以テ連續犯ナリトシ刑法第五十五條ヲ適用シタルハ違法ニシテ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

【要旨】 按スルニ一定ノ處罰條件ノ下ニ包括セラレテ一罪ヲ構成スヘキ數個ノ行爲ハ之ヲ連續實行スルモ連續犯ヲ構成スルコトナキヲ以テ刑法第五十五條ノ適用ヲ受クヘキモノニアラス而シテ破産法第三百七十

破産法第三百七十五條ノ各號ノ所爲ト包括一罪

五條ハ債務者カ破産宣告ノ前後ヲ問ハス該宣告ヲ豫知シ又ハ認識シテ同條所定ノ行爲ノ全部又ハ一部ヲ實行スルニ於テハ其ノ所爲ヲハ總テ之ヲ破産宣告確定ナル處罰條件ノ下ニ包括シ一罪トシテ處斷スル趣旨ナリト解スルヲ相當トスヘク同條各號ノ各行爲カ連續シテ行ハルルモ連續犯トシテ處斷セラレヘキモノニアラス然ラハ原審カ判示被告人ノ所爲ニ對シ連續犯トシテ刑法第五十五條ヲ適用處斷シタルハ擬律錯誤ノ違法アルヲ免レスト雖之ヲ包括一罪トシテ處斷スルト將連續一罪トシテ處斷スルト其ノ間刑ノ量定其ノ他ニ於テ毫モ軒輊ナク原判決ノ前示違法ハ判決ニ影響ヲ及ホササルコト明白ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百十一條ニ依リ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得サルモノトス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上ノ理由ナルニヨリ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事有安堅三關與

○恐喝被告事件

(昭和十二年(九)第一五三八號
同年十一月十二日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 淺越孝三郎 辯護人 (平松市藏)

【第一審】 岡山地方裁判所 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

通謀者ニ於テ害惡ヲ加フヘキ旨ノ通告ノ性質

○判決要旨

他人カ害惡ヲ加フヘキ旨ヲ通告スルモ其ノ他人カ通謀者ナルトキハ之ヲ目シテ第三者ノ行爲ニ因ル害惡ノ通告ト爲スヘキニ非ス

【參照】 刑法第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

通謀者ニ於テ害惡ヲ加フヘキ旨ノ通告ノ性質

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役十月ニ處ス但三年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス訴訟費用ハ被告人ト第一審相被告人水畑鶴野ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ十數年前妻さかト死別シ其ノ後後妻ヲ迎ヘス三男茂夫婦ト肩書住居ニ同居セルモノニシテ昭和五年頃ヨリ岡山縣都窪郡早島町大字早島水畑國太郎ノ妻ニシテ亡妻ノ從姉妹ナル原審相被告人水畑鶴野ト情交ヲ結ヒ來リタルトコ
ロ鶴野ハ又豫テヨリ右早島町所在株式會社中備銀行頭取寺山研太郎トモ私通シ居リシカ昭和五年秋頃ヨリ研太郎カ鶴野トノ關係ヲ避ケントスルニ至リ同年三月十日頃研太郎ニ對シ金一萬二千圓ノ融通方ヲ申込ミタルモノ之ヲ拒絕セラレタル爲其ノ頃被告人ニ對シ其ノ經緯ヲ打明ケ且研太郎ニ宛テタル「金一萬二千圓ヲ貸與セラレタシ其ノ回答如何ニヨリテハ當方ニ考アル」旨ヲ認メタル手紙(證第一號)ヲ託シテ研太郎ニ對スル右金融要求ノ交渉方ヲ依頼スルヤ被告人ハ之ヲ承諾シ茲ニ鶴野ト共謀シテ研太郎ヲ恐喝シテ同人ヲシテ鶴野ニ對スル手切金名義ニテ多額ノ金員ヲ交付セシメンコトヲ企テ同月十八日頃右手紙ヲ携ヘ前記中備銀行ニ到リ之ヲ研太郎ニ手交シ該金員ノ貸與方ヲ要求シ且貴下ハ鶴野ト情交關係アリトコトナルカ同女ノ此ノ要求ヲ拒絕セハ彼ハ貴下ヲ殺害シテ自殺スルノ外ナシト云ヒ居ルニヨリ若シ斯ルコトカアラハ貴下ノ地位名譽ニモ關ハル譯ナルヲ以テ是非其ノ要求ヲ容レラレ度キ旨申向ケ爾來鶴野ト交々同銀行ニ赴キ研太郎ニ對シ其ノ應諾ヲ促シ以テ同人ヲシテ該要求ヲ拒絕スルニ於テハ鶴野カ自殺スルカ又自己ニ如何ナル不祥事ノ發生ヲ見ルヤモ測ルヘカラス延イテハ右姦通ノ事實暴露シ地位名譽ヲ失墜スルニ至ルヘキコトヲ感得畏怖セシメテ因テ同年十一月九日頃岡山市弓之町辯護士岡本佐市方ニ於テ研太郎ノ旨ヲ受ケタル同辯護士及前記銀

行庶務係納所浩等ト種々折衝ヲ爲シタル上研太郎ヨリ納所浩ノ手ヲ經テ鶴野ニ對スル手切金トシテ金四千圓ヲ交付セシメテ恐喝ノ目的ヲ遂ケタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第六十條第二百四十九條第一項ニ該當スルヲ以テ所定期刑ノ範圍内ニ於テ主文ノ刑ヲ量定處斷スヘキトコロ其ノ情狀該刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノト認メ同法第二十五條ニ依リ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニヨリ被告人ト第一審相被告人水畑鶴野ノ連帶負擔ト爲スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人平松市藏万城登上告趣意書第七點原判決ハ法律ノ解釋適用ヲ誤リ罪トナラサル事實ニ付有罪ノ認定ヲ爲シタル違法アルモノナリ原判決ハ被告人カ水畑鶴野ト共謀シテ寺山研太郎ヲ恐喝シ金四千圓ヲ交付セシメタル旨ノ事實ヲ認定シタルモノナルカ所謂恐喝罪ノ手段タル害惡ノ通告ニ該當スル被告人ノ行爲ナリトシテ判示セラレタル事實「被告人カ水畑鶴野ヨリ寺山研太郎ニ宛テタル……金一萬二千圓ヲ貸與セラレタシ其ノ回答ノ如何ニ依リテハ當方ニ考アル……旨ヲ認メタル手紙(證第一號)ヲ受取リ之ヲ携ヘテ寺山研太郎ノ許ニ到リテ同人ニ手交シ該金員ノ貸與方ヲ要求シ且貴下ハ鶴野ト情交關係アリトコトナルカ同女ノ此ノ要求ヲ拒絕セハ彼ハ貴下ヲ殺害シテ自殺スルノ外ナシト云ヒ居ル

通譯者ニ於テ害惡ヲ加フヘキ旨ノ通告ノ性質

ニヨリ若シ斯ルコトアラハ貴下ノ地位名譽ニモ關ハル譯ナルヲ以テ是非其ノ要求ヲ容レラレ度キ旨申向ケ爾來鶴野ト交々寺山研太郎ノ銀行ニ赴キ同人ニ對シ其ノ應諾ヲ促シ「タリト謂フニ在リ即被告人カ寺山研太郎ヲ恐喝スル手段トシテ同人ニ對シテ告知シタル害惡」同女ノ此ノ要求ヲ拒絕セハ貴下ヲ殺害シテ自殺スル外ナシト云ヒ居レリ」ト謂フニ在リテ害惡告知者タル被告人自身害惡ヲ加フヘキコトヲ告知シタルモノニアラスシテ被告人以外ノ第三者カ害惡ヲ加フル旨云ヒ居ル由ヲ告知シタルモノナルコト明ナリ凡ソ恐喝罪ニ於ケル恐喝タルヘキ害惡ノ告知ハ必スシモ直接行爲者自身ノ行爲ニ因ル害惡ノ告知タルコトヲ要セス第三者ノ行爲ニ因ル害惡ノ告知タルヲ妨ケスト雖モ第三者ノ行爲ニ因ル害惡ヲ告知シテ恐喝ヲ爲スニハ必ス行爲者自身ニ於テ自己カ第三者ノ害惡行爲ノ決意ニ對シ影響ヲ與ヘ得ル立場ニ在ルコトヲ相手方ニ知ラシムルカ又ハ相手方ニ於テ事態上之ヲ推測シ得ル場合ナラサルヘラカサルコトハ學說判例上爭ナキ所ナリ(大審院昭和五年(れ)第七八五號昭和五年七月十日第五刑事部判決大判第九卷刑事四九七頁)然ルニ右原判決判示ノ被告人ノ行爲ハ單ニ「彼ハ貴下ヲ殺害シテ自殺スル外ナシト云ヒ居レルニ依リ若シ斯ルコトアラハ貴下ノ地位名譽ニモ關ハル譯ナリ」ト告知シタリト謂フニ止マリ被告人カ水畑鶴野ノ害惡行爲ノ決意ニ對シ影響ヲ與ヘ得ル立場ニ在ルコトヲ相手方ニ示スカ如キ行爲ナカリシハ勿論又相手方タル寺山研太郎ニ於テ之ヲ推測シ得ヘキ事態ニアラサリシコト明白ナリ從テ假ニ被告人ニ判示ノ如キ行爲アリタリトスルモ右ハ水畑鶴野ノ當時ノ態度ヲ知

レル被告人ニ於テ事態ノ圓滿解決ヲ希望スルノ餘リ寺山研太郎ニ對シ好意的ニ警告シテ其ノ考慮ヲ求メタルニ過キササルモノト觀ルヲ相當トシ未タ以テ恐喝罪ニ於ケル恐喝ニ該當スヘキ害惡ノ告知ナリト謂フコト能ハサルモノナリ然ルニ原判決ハ被告人ノ右行爲ヲ以テ直ニ恐喝罪ニ問擬シタルモノニシテ竟畢恐喝罪ニ關スル法意ヲ誤解シ罪トナラサル事實ニ付有罪ノ認定ヲ爲シタル違法アルモノナリト云フニ在レトモ

原判決ニ事實誤認ノ疑ナキコト論旨第四點乃至第六點ニ對シテ説明シタル如クナルノミナラス所論水畑鶴野タルヤ被告人ト判示恐喝ヲ通謀シタル共犯者ニ外ナラサレハ被告人カ寺山研太郎ニ對シ判示ノ如ク鶴野ノ金圓要求ニ應セサルトキハ同人ニ於テ害惡ヲ加フヘキ旨通告シタルコトハ即被告人自身カ害惡ヲ加フヘキ旨通告シタルコトニモ比スヘク之ヲ目シテ第三者ノ行爲ニ因ル害惡ノ通告ト爲スヘキニ非ス然ラハ所論通告ヲ好意ノ警告乃至ハ被告人ニ於テ左右シ得サル第三者ノ行爲ニ因ル害惡ノ通告ナルコトヲ前提トシテノ攻撃ハ悉ク當ラス隨ツテ所論引用ノ判例ノ如キハ固ヨリ本件ニ適切ナラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事徳江治之助關與

○業務上過失致死被告事件(昭和十二年(れ)第一〇七九號 破毀無罪)

【上告人】 被告人 宮内健三郎 辯護人 長田三保二

【第一審】 稚内區裁判所 【第二審】 旭川地方裁判所

○判示事項

鐵道機關手ノ注意義務

○判決要旨

鐵道機關手力驛構内ニ於テ列車ノ入換作業ヲ爲スニ際シテハ一ニ操車掛ノ信號ニ從フヘキモ自己固有ノ作業ヲ爲シ仍ホ危害防止ノ爲特別ノ動作ヲ爲スヘキ餘裕アル場合ニ於テ初メテ他ノ係員ノ作業ノ範圍ニ互リテ危害防止ノ注意ヲ爲スヘキ義務アルモノトス

【參照】 刑法第二百一十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ

三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金三十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ鐵道機關手トシテ宗谷郡稚内町稚内驛機關庫ニ勤務シ汽車運轉ノ業務ニ従事シ居ルモノナルトコ昭昭和十一年五月十四日午前七時頃同町稚内港驛ニ於テ九二〇〇型第九二四三號機關車ニ機關手トシテ乗務シ其ノ前部ニ同町稚内驛車庫ニ收納スヘキ客車六輛及貨車一輛ヲ連結シ(機關車寄ニ客車六輛ヲ連結シ客車ノ最後部ニ貨車一輛ヲ連結ス)該機關車ヲ逆向ニ運轉南進シ同日午前七時十二、三分頃稚内驛構内臨港線ニ到着シ牽引シ來レル一輛目ノ客車ノ南端カ同驛構内第十五號轉轍器標識ノ北方約六十四米ノ地點ニ至リタル個所ニ於テ停車シタルカ操車掛代務海老名彌吉ヨリ直チニ客車ノ入換作業ニ著手シ客車庫山線ニ收納シアル客車六輛ヲ驛ホーム四番線ニ押込ムヘキ旨ノ合圖ヲ受ケタルヲ以テ連結手村越義治カ被告人ノ坐乗セル機關車ヲ前記連結仕立車輛ヨリ切離シタル後該車輛ヲ同個所ニ停メ置キ海老名操車掛代務ノ指揮ニ從ヒ機關車ヲ單機ニテ運車背進シ第十五號轉轍器ノ個所ヲ越エテ折返線ニ進ミ夫レヨリ同線ニ引返シテ前進シ第十一號轉轍器ノ個所ヨリ客車庫山線ニ入り同所ニ收納シアリタル客車六輛ヲ機關車ノ前部ニ連結(機關車ノ機關手座席ヨリ其ノ頭端迄約八米客車一輛ノ長サ約二十米ナルヲ以テ機關手座席ヨリ最後部客車ノ後端迄ハ全長約百二十八米アリ)シタル上再ヒ折返線ニ逆行南進シ最後部六輛目ノ客車ノ後端(北端)カ右第十一號轉轍器ノ標識ヨリ南方約二米前記第十五號轉轍器ノ標識ヨリ南方約五十一米ノ地點(此時被告人坐乗ノ機關手座席ヨリ第十五號轉轍器標識迄ノ距離ハ約百七十九米ナリトス)ニ至リタル個所ニ於テ一旦停車シタルカ被告人ノ運轉スル

鐵道機關手ノ注意義務

右仕立車輛ヲ折返線ヨリ驛ホーム四番線ニ押込マンカ爲ニハ右第十一號及第十五號ノ各轉轍器カ何レモ定位ニアルコトヲ要シ若シ第十五號轉轍器カ反位ニアルトキハ車輛ハ同個所ヨリ臨港線ニ進入スヘキモノナルトコロ其ノ際海老名操車掛代務ハ不注意ニモ右第十五號轉轍器カ轉轍手ノ手落ニ依リ反位ノ儘ニ放置シアリ未タ定位ニ轉換サレラザリシコトヲ看過シ該轉轍器ノ稍々南方ノ地點ヨリ被告人ニ對シ推進開始ノ信號ヲ送り被告人ハ自己ノ坐乗セル機關手座席ノ前窓ヲ通シ遙カニ右信號ヲ認メタルカ凡ソ汽車機關手カ機關車ヲ運轉スルニ當リテハ假令驛構内ニ在リテ操車掛ノ指揮合圖ニ從フヘキ場合ト雖モ單ニ其ノ合圖ニ從フノミニ止ラス自己モ亦常ニ細心ノ注意ヲ以テ進路ノ前方ヲ注視シ危險ヲ防避スルニ萬全ヲ期スヘキ業務上ノ注意義務アルニ拘ラス被告人ハ前記個所ニ停車セントシタル際機關手座席ノ右側橫窓ヨリ北方ヲ望見シ前記第十一號轉轍器カ定位ニ轉換サレタルコトヲ其ノ標識ニ依リテ認メタル爲更ニ其ノ先方ニ在ル第十五號轉轍器ハ轉轍ノ順序上既ニ當然定位ニ轉換サレアルモノト速斷シ又若シ被告人カ推進開始ノ際更ニ座席ノ右側橫窓ヨリ僅カニ顔面ヲ窓外ニ出シテ北方進路ノ方向ヲ注視シタランニハ前記第十五號轉轍器ノ標識ハ推進開始ノ地點ヨリ北方約五十五米ノ地點ニ進行スル迄ノ間終始被告人ノ視野ニ入ル狀況ニ在リタルカ故ニ該轉轍器カ未タ定位ニ轉換サレアラザリシコトヲ容易ニ確認シ得ヘカリシニ拘ラス被告人ハ當日偶々操車掛ノ勞務ヲ代行シ居リタル海老名彌吉ノ信號ヲ見慣レザリシ爲專ラ同人ノ示シタル信號ノミニ留意シテ之ニ注意ヲ奪ハレ特ニ橫窓ヨリ顔面ヲ出シテ進路ノ前方ヲ注視スル等斯ル場合ニ機關手トシテ當然用ユヘキ業務上必要ナル注意ヲ怠リ前叙ノ如ク自己ノ座席ノ前窓ヲ通シテ推進開始ノ信號ヲ認ムルヤ直チニ車輛ノ推進ヲ開始シ時速約十七、八軒ノ速力ヲ以テ之ヲ運轉北進シタル爲前記第十五號轉轍器カ反位ニアリタルコトニ氣付カス遂ニ同個所ヨリ右車輛ヲ臨港線ニ突進セシメ曩ニ被告人カ稚内港驛ヨリ牽引シ來リ同線上ニ停メ置キタル連結仕立車輛ノ南端ニ激突セシメ偶々其ノ六輛目ノ客車ト貨車トノ中間ニ在リテ之カ切離作業ニ從事シ居リタル連結手村越義治ノ左右兩下腿膝關節部下方ニ轢傷ヲ負ハシメ多

量出血ニ因リ同日午後三時二十分頃稚内町南濱通中澤病院ニ於テ同人ヲ死亡スルニ至ラシメタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百一十一條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ所定金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金三十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ則リ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

原判決ヲ破毀ス

被告人健三郎ハ無罪

○理 由

辯護人長田三保二上告趣意書第二點ノ論旨理由アリテ原判決ノ破毀ヲ免レサルコト本院カ昭和十二年九月二十四日言渡シタル事實審理開始決定ニ說示スルカ如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ更ニ被告事件ヲ審案スルニ

被告人ハ鐵道機關手トシテ北海道宗谷郡稚内驛機關庫ニ勤務シ汽車運轉ノ業務ニ從事シ居ルモノナルトコロ昭和十一年五月十四日午前七時頃同町稚内港驛ニ於テ九二〇〇型第九二四三號機關車ニ機關手トシテ乗務シ其ノ前部ニ同町稚内驛車庫ニ收納スヘキ客車六輛及貨車一輛ヲ連結シ(機關車寄ニ客車六輛ヲ連結シ客車ノ最後部ニ貨車一輛ヲ連結ス)該機關車ヲ逆向ニ運轉南進シ同日午前七時十二、三

鐵道機關手ノ注意義務

分頃稚内驛構内臨港線ニ到着シ牽引シ來レル一輛目ノ客車ノ南端カ同驛構内第十五號轉轍器標識ノ北方六十四米ノ地點ニ停車シタルカ操車掛代務海老名彌吉ヨリ直チニ客車ノ入換作業ニ著手シ客車庫山線ニ收納シアル客車及郵便車六輛ヲ驛ホーム四番線ニ押込ムヘキ旨ノ合圖ヲ受ケタルヲ以テ連結手村越義治カ被告人ノ坐乗セル機關車ヲ前記連結仕立車輛ヨリ切離シタル後該車輛ヲ同個所ニ停メ置キ海老名操車掛代務ノ指揮ニ從ヒ機關車ヲ單機ニテ運轉背進シ第十五號轉轍器ノ個所ヲ越エテ折返線ニ進ミ夫レヨリ同線ヲ引返シテ前進シ第十一號轉轍器ノ個所ヨリ客車庫山線ニ入り同所ニ收納シアリタル客車郵便車六輛ヲ機關車ノ前部ニ連結(機關車ノ機關手座席ヨリ其ノ頭端迄約八米客車一輛ノ長サ約二十米ナルヲ以テ機關手座席ヨリ最後部客車ノ後端迄ハ全長約百二十八米アリ)シタル上再ヒ折返線ニ逆行南進シ最後部六輛目ノ客車ノ後端(北端)カ右第十一號轉轍器ノ標識ヨリ南方約二米前記第十五號轉轍器ノ標識ヨリ南方約五十一米ノ地點ニ至リタル個所ニ於テ一但停車シタルカ被告人ノ運轉スル右仕立車輛ヲ折返線ヨリ驛ホーム四番線ニ押込マンカ爲ニハ右第十一及第十五號ノ各轉轍器カ何レモ定位ニアルコトヲ要シ若シ第十五號轉轍器カ反位ニアルトキハ車輛ハ同個所ヨリ臨港線ニ進入スヘキモノナルトコロ其ノ際海老名操車掛代務ハ不注意ニモ右第十五號轉轍器カ轉轍手ノ手落ニ依リ反位ノ儘ニ放置シアリ未タ定位ニ轉換サレ居ラサリシコトヲ看過シ該轉轍器ノ稍々南方ノ地點ヨリ被告人ニ對シ推進開始ノ信號ヲ送り被告人ハ自己ノ坐乗セル機關手座席ノ窓ヲ通シ遙ニ右信號ヲ認メ直チニ

車輛ノ推進ヲ開始シ時速約十七、八軒ノ速力ヲ以テ之ヲ運轉北進シタル爲前記第十五號轉轍器カ反位ニアリタルコトニ氣付カス遂ニ同個所ヨリ右車輛ヲ臨港線ニ突進セシメ曩ニ被告人カ稚内港驛ヨリ牽引シ來リ同線上ニ停メ置キタル連結仕立車輛ノ南端ニ激突セシメ偶々其ノ六輛目ノ客車ト貨車トノ中間ニ在リテ之カ切離作業ニ從事シ居リタル連結手村越義治ノ左右兩下腿膝關節部下方ニ轢傷ヲ負ハシメ多量出血ニ因リ同日午後三時二十分頃稚内町南濱通中澤病院ニ於テ同人ヲ死亡スルニ至ラシメタル事實ハ被告人ノ當公廷ニ於ケル供述及一件記録ニ徵シ之ヲ認メ得ヘシ因テ右死亡ハ被告人ノ業務上過失ニ歸スヘキヤ否ヤヲ案スルニ

凡ソ鐵道驛構内ニ於テ列車ノ入換作業ヲ爲スニハ機關手ハ原則トシテ操車掛ノ入換信號ヲ受クルニ非サレハ機關車ヲ運轉スルヲ得サルコト操車掛ハ機關手信號掛轉轍手及連結手ニ豫メ必要ノ通告ヲ爲シタル上更ニ機關手ニ對シ入換信號ヲ示スヘキコトト同時ニ信號標識ノ正當ナルコトヲ認メタル後ニ非サレハ入換ヲ爲スコトヲ得サルコトハ運轉取扱心得第五十三條以下ニ規定スル所ナリ故ニ機關手ハ操車掛ノ入換信號ニ從フヘキハ勿論ナリト雖鐵道機關手ノ如ク其ノ舉止カ人ノ身體生命ニ危害ヲ及ホスヘキ虞アル職務ニ從事スル者ノ義務ハ極メテ重大ナレハ服務又ハ運轉ニ關スル規定若ハ其ノ他取締規定ニ明示サレタル指揮命令ニ從ヒタルヲ以テ其ノ責ヲ盡シタルモノト謂フヲ得ス縱令此等ノ規定ニ明文ナシト雖臨機應變ノ處置ヲ講シテ危害ノ發生ヲ未然ニ防止スルニ勉ムヘキハ其ノ職務ノ性質ニ鑑ミ

條理上當然ニシテ此等明文ナキ一事ヲ以テ其ノ責任ヲ免除セラルヘキモノニ非ス然レトモ機關手ニハ
 複雑多種ナル固有ノ職務アルコト運輸運轉從事員職制及服務規程第二十一條以下ニ規定シアルヲ以テ
 右職務ヲ完全ニ施行スルコト既ニ容易ナラス從テ該職務ヲ放置シテ尙且他ノ掛員ノ爲スヘキ作業ニ互
 リテ注意ヲ爲スヘキ義務ヲ課シ過失ノ責ヲ論スルハ寧ロ苛酷ナリト謂ハサルヲ得ス故ニ機關手ハ當然
 容易ニ危害ノ發生ヲ豫知シ得ル場合ニ其ノ之カ防止措置ニ出ツヘキハ勿論ナルモ然ラサル場合ニ於テ
 ハ自己固有ノ作業ヲ爲シ仍ホ危害防止ノ爲特別ノ動作ヲ爲スヘキ餘裕アル場合ニ於テ初メテ他ノ係員
 カ注意義務ヲ負ヒ責ニ任スル作業ノ範圍ニ互リテ危害防止ノ爲注意ヲ爲スヘキ義務アルモノトス而シ
 テ操車掛カ機關手ニ對シ機關車ヲ運轉シウヘキ合圖ヲ爲スニ當リテハ轉轍器ノ標識ト一致シタル信號
 ヲ爲スヘキハ其ノ當然ニ課セラレタル注意義務ニ屬シ機關手ハ專ラ其ノ信號ニ基キテ運轉ヲ爲スヘキ
 モノナレハ機關手ニ於テ操車掛ノ信號カ轉轍器ノ標識ト一致セルヤ否ヤヲ檢討スルヲ要スル場合ハ機
 關手カ自己ノ座席ニ坐シツツ當然ニ之ヲ注意シ得ル場合ナルカ若クハ自己ノ作業ヲ爲シ而モ仍ホ之カ
 注視ノ爲ノ動作ヲ爲シ得ル餘裕ノ存スル場合ニ限ルモノト謂ハサルヘカラス翻テ敍上認定セル事實ニ
 基キ本件ヲ稽フルニ被告人ハ右ノ如ク九二〇〇型第九二四三號機關車ニ乗務シ客車及郵便車等六輛ヲ
 連結シタル客車ノ後端(北端)カ第十一號轉轍器ノ標識ヨリ南方約二米ノ地點ヨリ逆行セントセシ場
 合ニ操車掛代務海老名彌吉ノ推進信號ヲ受ケ左手ニ加減瓣ヲ操縱シ乍ラ座席右横窓ヨリ前方ヲ望見シ

タルニ右轉轍器ノ標識ハ定位ト爲リタルヲ認メ列車推進ヲ開始シタルトコロ間モナク曲線ヲ蛇行セル
 爲第十五號轉轍器ノ標識次テ第十一號轉轍器ノ標識モ順次車輛ニ遮斷サレ客車北端ハ四番線又ハ臨港
 線ノ何レニ進行セルヤヲモ認メ難キコト被告人ノ當公廷ニ於ケル供述及本院受命判事ノ檢證調書ニ徴
 シ明ナリトス若シ夫レ被告人ニシテ操縱セル加減瓣ヨリ左手ヲ放置シ右横窓ヨリ半身ヲ外部ニ出シテ
 望見シタランニハ或ハ全部標識ノ變化ヲ認メ得タリシナランモ之カ爲ニハ機關手トシテ其ノ際當然ニ
 爲スヘキ運轉ノ職務ヲ放置セサルヘカラサレハ此ノ如キ措置ニ出テサリシコトヲ以テ被告人ヲ責ムル
 ヲ得ス或ハ曰ク機關手ハ發車ノ前豫メ第十一號及第十五號各轉轍器ノ標識ヲ注視スヘシト云フ論ナキ
 ニ非スト雖右轉轍器ノ標識ハ一直線上ニ設置セラレサルヲ以テ發車前豫メ一目兩者ヲ注視スルヲ得サ
 ルコト檢證調書附屬圖面ニ依ルモ明カナルノミナラス斯ル場合豫メ一切ノ標識ヲ當初ニ於テ注視スヘ
 シト云フカ如キハ云フヘクシテ行ヒ難キコトヲ責ムルニ該リ機關手固有ノ職務ニ餘裕アル場合及容易
 ニ前方ヲ望見シ得ヘキ場合ニ注視義務ヲ課スルヲ相當トスル本件ニ於テハ到底相容レサル論タルヲ免
 レス要スルニ本件致死ノ結果ハ被告人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ發生シタルモノト解スルヲ相
 當ト認メ被告人ニ對シテハ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス然ルニ原判決ハ事茲ニ出テス有罪ノ言渡ヲ
 爲シタルハ失當ナリトス因テ刑事訴訟法第四百五十五條第三百六十二條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事村上常太郎關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件(昭和十二年(一九三七年)十一月十六日第三刑事部判決) 棄却

【上告人】 被告人 江崎 泰三 辯護人 牧野 良三
外一名 辯護人 川土新 家 井川 正修 進三

【第一審】 柳河區裁判所 【第二審】 福岡地方裁判所

○判示事項

押收物件ノ意義

○判決要旨

押收物件トハ差押處分ニ依リタルト將夕任意提出ニ基キタルトヲ問ハス汎ク證憑物件又ハ沒收スヘキ物トシテ官ノ領置シタルモノヲ包含スルモノトス

【參照】 刑事訴訟法第三百七十二條第一項 押收シタル物ニ付沒收ノ言渡ナキトキハ

押收ヲ解ク言渡アリタルモノトス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人江崎泰三同廣井萬吉ヲ各罰金百三十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間該被告人ヲ勞役場ニ留置ス押收ニ係ル證第一號ノ十圓紙幣一枚(廣井萬吉關係)ハ之ヲ沒收ス尙被告人泰三ヨリ金二十圓同萬吉ヨリ金十圓ヲ各追徵スル旨ノ判決ヲ爲シタリ而シテ記錄六丁領置物件目錄ニ依レハ檢事八十圓紙幣一枚ヲ領置シタル旨ノ記載アリ

被告人等ハ昭和十二年四月三十日施行セラレタル衆議院議員總選舉ニ際シ福岡縣第三區ノ選舉人ナリシトコロ

第一 被告人泰三八同月二十七日頃福岡縣山門郡東山村ノ自己居宅ニ於テ溝上松太郎カ前記選舉ニ立候補シタル野田俊作ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ候補者ノ爲投票方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ金二十圓ヲ供與スルヤ其ノ趣旨ヲ諒知シ乍ラ之カ供與ヲ受ケ

第二 被告人萬吉ハ同月二十三日頃同郡同村ノ自己居宅ニ於テ右溝上松太郎カ前同様ノ目的ヲ以テ野田候補ノ爲投票セラレ度キ旨依頼シ其ノ報酬トシテ金二十圓ヲ供與スルヤ該趣旨ヲ諒知シ乍ラ之カ供與ヲ受ケタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲ハ孰レモ衆議院議員選舉法第十二條第一項第四號ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人等ヲ各主文ノ刑ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサル場合ハ刑法第十八

押收物件ノ意義

條第一項第四項ニ則リ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人等ヲ各勞役場ニ留置スヘク押收ニ係ル證第一號ノ十圓紙幣一枚ハ被告人萬吉カ收受シタルモノナルヲ以テ衆議院議員選舉法第一百四條ニ則リ之ヲ沒收スヘク尙被告人泰三カ收受シタル金二十圓同萬吉カ收受シタル金員ノ内十圓ハ何レモ同被告人等ノ利益ニ歸シタルモノナルモ沒收スルコト能ハサルヲ以テ同法同條ニ則リ各之ヲ追徴スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ執レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人牧野良三、新家猛、土川修三上告趣意書第一點原判決ハ沒收スヘキ物件ノ表示ヲ遺脱シタルノ違法アリ當然破毀セラルヘキモノト信ス即原審判決ハ主文ニ於テ「押收ニ係ル證第一號ノ十圓紙幣一枚(廣井萬吉關係)ハ之ヲ沒收ス」ト判示シ理由ニ於テ「押收ニ係ル十圓紙幣一枚ハ衆議院議員選舉法第一百四條ニ則リ沒收ス」ト判示シタリ然レトモ本件一件記録ニ依レハ押收ニ係ル十圓紙幣ナルモノ全然ナク單ニ昭和十二年五月三日附領置物件目錄記載ノ領置物十圓紙幣一枚(福岡地方十二年領第七一號領置票十二年第一一〇號)アルノミナリ而シテ右領置ノ十圓紙幣ニ付テハ裁判所ニ於テ何等押收ノ手續ノ爲サレタル記録ナキノミナラス其ノ他本件一件記録上押收手續ヲ以テ押收サレタル紙幣ナルモノナク判示ノ如キ「押收ニ係ル十圓紙幣」ナルモノ全然ナシ原判決ハ如何ナル物件ヲ沒收

セントスルヤ判示ヲ以テシテハ全ク不明ナリ即原判決ハ沒收スヘキ物件ノ表示ヲ遺脱シタルノ違法アルカ又ハ押收手續ナキ物件ヲ押收物件トシテ取扱ヒタルノ違法アリ當然破毀セラルヘキモノナリト信スト云フニアリ

【要旨】

因テ案スルニ第一點押收物件トハ法律上ノ差押處分ニ依リタルト將タ任意提出ニ基キタルトヲ問ハス況ク證憑物件又ハ沒收スヘキ物トシテ官ノ領置シタルモノヲ包含スルヲ以テ記録第六丁領置物件目錄ニアル檢事ノ領置セル十圓紙幣一枚ハ則チ押收物件ニ外ナラス故ニ原判決主文ニ押收ニ係ル證第一號ノ十圓紙幣一枚トアルハ右領置物件目錄ノ十圓紙幣一枚ヲ指示セルモノトス原判決ハ所論ノ如ク沒收スヘキ物件ノ表示ヲ遺脱シタル違法アルモノニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事德江治之助關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件ニ附帶スル當選無効訴訟事件

(昭和十二年(れ)第一六九〇號
同年十一月十八日第二刑事部決定) 事實審理)

原告 檢事總長 泉二新熊

【上告人】 被告 大森 玉木 訴訟代理人 辯護士

杉本時三郎
益谷秀次郎
原村澤夫
澤義次郎

【第一審】 金澤地方裁判所七尾支部 【第二審】 名古屋控訴院

○判示事項

刑事訴訟法第五百七十條ト同法第五百八十七條トノ關係

○判決要旨

刑事訴訟法第五百八十七條ノ規定ハ同法第五百七十條ノ原則ニ依
據スヘキモノナルカ故ニ裁判所ハ公訴判決ニ於テ認定セサル事實
ニ基キテ私訴判決ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス

【參照】 刑事訴訟法第五百七十條 私訴ノ判決ハ公訴ノ判決ニ於テ認メタル事實ニ基
キ之ヲ爲スヘシ

同法第五百八十七條 裁判所ハ私訴判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ノ範圍内ニ於テハ請

求ノ原因タル事實ニ關スル原告ノ陳述ニ拘束セラレルコトナシ

○事實

第二審ハ左記ノ理由ニ依リ昭和十年九月二十四日石川縣鹿島郡選舉區ニ於テ施行セラレタル石川縣會
議員選舉ニ於ケル被告ノ當選ヲ無効トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

原告ハ主文同旨ノ判決ヲ求メ其ノ請求ノ原因トシテ被告大森玉木ハ昭和十年九月二十四日施行セラレ
タル石川縣會議員選舉ニ際シ同月三日訴外室木能邇郎ノ推薦届出ニヨリ同縣鹿島郡選舉區ニ於テ立候
補シ同日右室木能邇郎ヲ其ノ選舉事務長ニ選任シ選舉運動ノ結果當選シタルモノナルカ選舉事務長室
木能邇郎ハ右選舉運動中

(一) 其ノ居村同縣同郡熊木村公設消防組合ニ於テ同年八月初旬頃中古ガソリン唧筒購入ニ付同村當
局ニ對シ購入費ノ支出方ヲ申出テタルモ拒絶セラレシ爲已ムヲ得ヌ同消防組合頭木下吉松ハ自己ヲ
借主トシ右消防組合員下村久太郎、赤坂丈太郎、大谷英邇郎、成出安太郎、江川七郎平、井上助四
郎外消防手二名ヲ連帶保證人トシ室木能邇郎カ組合長タル同村熊木產業組合ヨリ金五百五十圓ヲ借
入レ同月十六、七日頃代金六百四十圓ニテガソリン唧筒ヲ購入スルコトヲ得タルモ右借入金ノ辨濟
竝附屬品ノ新調品ニ關シテハ消防員ノ手當及東京方面在住ノ居村出身者竝村内ヨリ寄附金ヲ募集シ
テ充當スヘキ計畫ナリシニ寄附金意ノ如ク集マラサリシニヨリ木下吉松ハ之ヲ苦慮シ同月二十八、

刑事訴訟法第五百七十條ト同法第五百八十七條トノ關係

九日頃室木能邇郎方ニ赴キ同人ニ謀リシトコロ室木能邇郎ハ先之同月中旬頃被告ヨリ同年九月施行サルヘキ縣會議員選舉ニ立候補スヘキヲ以テ宜敷援助セラレ度キ旨依頼セラレ居リシヲ想起シ木下吉松ニ對シ被告ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ被告ヲシテ熊木消防組ニガソリン唧筒購入費ノ一部トシテ相當額(金二、三十圓程)ヲ寄附セシムヘキヲ以テ同消防組合員ニシテ選舉人タル者ヲ誘導シ同人等ノ投票ヲ取纏メンコトヲ協議シ木下吉松ヲシテ同年九月十一日同村ナル木下吉松居宅ニ於テ右消防組員ニシテ選舉人ナル下村久太郎、赤坂丈太郎、大谷英瀧郎、成出安太郎、江川七郎平、岩本留造、井上助次郎ニ面接セシメ金五十圓位ヲ右候補者タル被告大森ヨリ消防組ニ寄附セシムヘキニ依リ同候補者ニ投票セラレ度キ旨依頼セシメ以テ同人等ノ組織スル熊木消防組ニ對スル特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ之ヲ誘導シ

(二) 被告ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ犯意ヲ繼續シ同年九月十日頃同縣同郡七尾町字一本杉町路上ニテ被告ノ選舉委員ナル訴外山本長次郎ニ對シ選舉運動報酬トシテ金十三圓ヲ供與シ

タル爲府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百十二條第一項第二號第一號ニ該當スルモノトシテ金澤地方裁判所七尾支部檢事ヨリ豫審ヲ請求シ昭和十一年二月二十九日豫審終結決定ヲ以テ公判ニ付セラレタリ而シテ被告ハ右選舉事務長ノ選任及監督ニ付相當ノ注意ヲ爲ササリシモノナルヲ以テ府縣制第三十四條ノ二第三項衆議院議員選舉法第百三十六條ニ據リ本訴ニ及ヒタリト陳述シ立證トシテ室木能邇郎外八名ニ對スル縣會議員選舉則違反被告事件ノ公訴記錄全部ヲ援用シタリ

被告訴訟代理人ハ原告ノ請求ヲ棄却ストノ判決ヲ求メ其ノ答辯トシテ原告主張事實中被告カ原告主張ノ選舉ニ際シ昭和十年九月ニ立候補シ室木能邇郎ヲ選舉事務長ニ選任シ選舉運動ノ結果當選シタルコトハ之ヲ認ムルモ選舉事務長室木能邇郎カ右選舉運動中原告主張ノ如キ(一)及(二)ノ縣會議員選舉則違反ノ所爲ヲ爲シタル事實ハ之ヲ否認ス假ニ原告主張ノ如キ罰則違反ノ行爲アリタリトスルモ右(一)ノ所爲ハ室木能邇郎ノ選舉事務長就任前ノコトニ係ルヲ以テ從テ事務長タル地位ニ於テ爲シタルモノニ非サルカ故ニ該行爲ハ被告ノ當選ノ效力ニ何等ノ影響ヲモ及ホスコトナシ次ニ右(二)ノ所爲ニ付テハ被告ノ毫末モ關知セサルトコロナルノミナラス被告ハ事務長タル室木能邇郎ノ選任監督ニ付相當ノ注意ヲ拂ヒタリ即室木能邇郎ヲ選任シタルハ同人ハ居村近郷ニ於ケル素封家ニシテ信望厚ク明治大學法科出身ノ學歷ヲ有シ其ノ人格識見共ニ選舉事務長タルニ好適ノ人物ナルヲ認メタルニヨルモノニシテ其ノ選任ノ注意ニ於テ寸毫ノ缺クルトコロナク又被告ノ選舉區内ニ於ケル當時ノ情勢ハ頗ル優勢ニシテ何人モ被告ノ當選圈内ニ在ルコトヲ疑ハサリシ程ナルヲ以テ敢テ選舉違反ノ行爲ニ出ツル要ナク事務長室木能邇郎ノ如キハ選舉運動ニ直接關與スルコトヲ回避シ居リタルモノニシテ選舉違反行爲ヲ爲スノ危険更ニナカリシモ同人カ事務長ニ就任スルヤ被告及選舉委員一同ト共ニ相互ニ違反行爲ナキ様相戒メ居タルモノナル旨陳述シ立證トシテ當審公訴ニ於ケル證人山本長次郎及原審ニ於

ケル證人井上憲一、榮山義太郎、祖濱由太郎、村田武次郎ノ證言竝被告本人訊問ノ結果ヲ利益ニ援用シタリ

理 由

被告カ昭和十年九月二十四日施行セラレタル石川縣會議員選舉ニ際シ同月三日同縣鹿島郡選舉區ヨリ立候補シ即日訴外室本能邇郎ヲ其ノ選舉事務長ニ選任シ選舉運動ノ結果當選シタルコトハ當事者間爭ナク其ノ後室本能邇郎カ原告主張ノ如キ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第二號ニ該當スル犯罪行爲アリトシテ同年十一月二十八日金澤地方裁判所七尾支部ノ豫審ニ付セラレ次テ昭和十二年二月二十九日同支部ノ公判ニ付スヘキ豫審終結決定アリ更ニ同年七月三日同支部ハ審理ノ末室本能邇郎ニ對シ右違反行爲ヲ認メテ罰金三百圓ニ處スル旨ノ判決アリタルコトハ右公訴一件記録ニ徴シテ明瞭ナリトス被告ハ原告主張ノ犯罪事實ヲ否認スルヲ以テ今姑ク敍上ノ點ニ付テノ判斷ヲ措クトスルモ職權ヲ以テ按スルニ公訴記録中豫審ニ於ケル被告人室本能邇郎ニ對スル第一、二、三回ノ各訊問調書竝證人山本長次郎ニ對スル訊問調書ノ各供述記載ニ依レハ室本能邇郎カ被告ノ選舉事務長ニ就任シタルハ元來室本能邇郎ニハ嘗テ選舉運動ヲ爲シタル經驗皆無ナリシヲ以テ被告ヨリノ選舉事務長就任方ノ懇請ニ對シ之ヲ肯セサリシモ被告ニ於テ室木ノ事務長ハ單ニ名義ノミニテ事實上ノ選舉事務長ノ事務ハ從來屢々ノ經驗ヲ有シ昭和十年九月四日室木事務長ヨリ選舉委員ニ選任セラレタル訴外山

本長次郎ヲシテ一切之ヲ總括主宰セシムヘキコトヲ承認セルカ爲ニシテ又實際ニ於テモ當該選舉ヲ通シテ事務長タル室木ハ殆ント選舉運動ニハ携ハラス舉ケテ之ヲ右山本長次郎ニ一任シ同人ニ於テ金錢出納選舉委員選舉運動ニ使用スル勞務者ノ選任解任文書發送等選舉ニ關スル一切ノ事務ヲ獨斷的ニ處理シ事實上選舉運動ヲ總括主宰シ居リタルコトヲ認定スルニ十分ナリ然リ而シテ右山本長次郎カ右選舉委員トシテ選舉運動中大森文ヨリ選舉運動ノ報酬トシテ金十圓室本能邇郎ヨリ同様金十三圓ノ各供與ヲ受ケタル外二、三ノ選舉罰則違反ノ行爲アリトシテ起訴セラレ昭和十一年四月十五日懲役四月ニ處セラレ同月二十三日確定シタルコトハ本件公訴記録ニ編綴シアル名古屋控訴院檢事局裁判所書記前田利雄ノ作成ニ係ル昭和十二年六月十八日附石坂貞二外四名ノ縣會議員罰則違反調(候補者大森玉木派)ト題スル書面ニヨリ明白ナリトス然ラハ本件選舉ニ於ケル被告ノ當選ハ其ノ事實上ノ選舉運動ノ總括主宰者山本長次郎ノ右處罰ニ因リ當然無効ニ歸スヘキモノト謂ハサルヲ得ス左レハ原告カ本訴ニ於テ主張スル請求ノ原因タル事實ニ付テノ當否ヲ判斷スル迄モナク原告ノ請求ハ正當ナルニヨリ府縣制第三十四條ノ二第四項衆議院議員選舉法第四百一條ノ二ニ則リ主文ノ如ク判決ス

主 文

本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

理 由

被告訴訟代理人辯護士杉本時三郎上告趣意書第二點假ニ數歩ヲ譲リ原判決ノ如ク訴外山本長次郎カ事實上本件選舉運動ノ總括主宰者ナリシトスルモ被告ハ唯山本長次郎ハ選舉事務長室本能邇郎ノ監督ノ下ニ金錢出納其ノ他ノ手續上ノ仕事ヲスルモノナリト信シ居リタルモノニシテ山本長次郎カ自己ノ爲ニ總括主宰者トシテ選舉運動ヲ爲シ居ルモノトハ夢ニモ知ラサリシコトハ第一審ニ於ケル證人村田武次郎ノ供述中(一)選舉事務所ヘハ候補者ノ大森ヤ事務長ノ室木ハ度々來タ(二)山本長次郎モ選舉委員テ事務所ニ寢泊リシテ事務ヲ見テ居ツタ(三)大森ハ選舉委員ヤ事務長ニ吳レ吳レモ間違ノナイヤウ又經費モ不用ナコトニ使ハヌ様法定ノ金額内ニ濟スヤウ色々微細ナ點ニモ注意シテ十分監督シテ居ツタトアリ又同證人祖濱由太郎ノ供述中(一)問大森ハ事務長ヤ委員達ヲ常ニ監督シテ居ツタカ(四六)答今度ノ選舉ハ肅正テ喧シイカラ減多ナコトハセヌヤウ言論戰ニ死力ヲ盡シテヤラウトテ常ニ各員ヲ戒メテ居リマシタ私共モ其ノ心算テ立働イテ居ツタノデアリマス(二)問其處テ大森モ室木ハソウ輕々シク違反行爲ヲヤルヤウナ人テハナイト信シ安心シテ事務長ニシタト云フ譯カ(五〇)答ソノ通りニ相違ナイト思ヒマス(三)第五五問ノ答ニ大森ハ私等ニ對シテハ今度ハ理想選舉ヲ標榜シテ非ルノタカラ絶対ニ違反行爲カアツテハナラヌト常ニ注意シテ居リマシタカラ事務長ニモ當然同様ノ注意カアツタコトト思ヒマストアリ又同被告大森玉木ノ供述中(被告本人トシテ)又室木ハ平素テモ他出ノ場合ニハヨク料理屋等テ食事ヲスル習慣ニナツテキルカ之モ選舉ノ終ルマテハ止メテ貫ヒ度イト

云フテ居ツタ位テ尙又室木ニハ前以テ決シテ迷惑ヲ掛ケヌト斷言シタ手前モアツタノテ出來得ル限り私自身モ事務所ヘ行キ帳簿ノ檢閲演說會ノ手配等ノ指圖ヲ爲シ怠リナク十分事務長ヤ委員達ノ監督ニハ注意シテ居リマシタトアルコトニヨリ之ヲ認ムルニ足ルモノニシテ之等ノ證據ニ依レハ被告ハ飽ク迄選舉事務長タル室本能邇郎カ訴外山本長次郎ヲ指揮シテ選舉運動ヲ爲シ居レルモノト確信シ山本長次郎自ラ選舉運動ノ事實上ノ總括主宰者ナルコトハ全然知ラサリシコトヲ推認シ得ヘキカ故ニ衆議院議員選舉法第三百三十六條但書ニヨリ被告ノ當選ヲ無効ト爲スヘキモノニアラサルモノトス然ルニ原審ニ於テハ原告ノ主張スル請求ノ原因タル事實ニ付テノ當否ヲ判斷セス又被告ニ於テモ防禦ノ方法ヲ盡スニ由ナキ意外ノ事實ヲ認定シテ被告ノ當選ヲ無効ナリト判定シタルハ審理不盡ノ不法アルモノト信ス何トナレハ若シ原告ノ本訴請求原因カ判示ノ如キ事實ナリトセハ被告ハ十二分ニ之カ立證ヲ爲シ得タルヲ以テナリ裁判所ハ私訴判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ノ範圍内ニ於テハ請求ノ原因タル事實ニ關スル原告ノ陳述ニ拘束セラルルモノニ非サルコトハ刑事訴訟法第五百八十七條ニヨリ明カナリト雖被告ヲシテ之ニ對シ答辯ヲ爲スヘキ機會ヲ與ヘ且之ニ對スル證據方法ヲ盡クセシムルコトハ訴訟ノ本旨ニシテ同法第五百七十條ニモ私訴ノ判決ハ公訴ノ判決ニ於テ認メタル事實ニ基キ之ヲ爲スヘシトアル立法ノ精神モ亦實ニ茲ニ存スルモノト信ス要スルニ原判決ハ原被ノ事實上ノ爭點以外ノ事實ヲ獨斷シテ被告ヲシテ之ニ對シ證據方法ノ提出並辯論ノ機會ヲ與ヘスシテ不意打的ノ判決ヲ爲シタルハ訴訟ノ精

神ヲ没却シタル審理不盡ニシテ破毀スヘキモノト信スト云ヒ」同上村澤義二郎上告趣意書第一(一)凡ソ原告ト被告ト對立スル訴訟手續ニ於テハ原告ハ其ノ請求ト請求ノ原因タル事實ヲ陳述シ被告ハ之ニ對スル答辯ヲ爲シ裁判所ハ之ヲ聽キ請求原因ヲ吟味シ其ノ請求ノ當否ヲ判斷スルヲ以テ原則トシ當事者ノ主張スル原因事實ニ付テハ審理判斷ヲ爲サス却テ當事者カ主張セス又豫想セサル事實ヲ捉ヘ來ツテ之ニ判斷ヲ加ヘ請求ノ當否ニ及フト云フカ如キコトハ特別ナル規定ノナキ限り許サレサルトコロテアルト思料シマス(二)本件ハ被告人室木能邇郎ノ選舉罰則違反被告事件ニ附帶シ提起サレタル當選無效訴訟テアツテ原告檢察ノ以テ請求原因事實トスルコロハ(一)昭和十年九月二十四日施行サレタ石川縣會議員選舉ノ議員候補者タル上告人ノ選舉事務長テアツタコロノ右室木カ(二)夫々原判決判示ノ如キ違反行爲ヲ爲シ(三)上告人ハ右同人ノ選任監督ニ付相當ノ注意ヲ怠リタルモノナリト云フニアリマス裁判所トシテハ須ク此ノ檢察ノ主張スル事實ニ付テ且其ノ範圍ニ於テ審理判斷ヲ爲スヘク夫ニテ足り又夫以上ニ出ツル能ハサルモノト思料シマス然ルニ原判決ハ御覽ノ如ク此ノ請求原因事實ニ付判斷ヲ省略シ却テ職權ヲ以テ山本長次郎ナルモノノ違反事件ヲ捉ヘ來リ且山本ヲ選舉運動ニ關スル總括主宰者ナリト獨斷シ「然ラハ本件選舉ニ於ケル被告ノ當選ハ其ノ事實上ノ選舉運動ノ總括主宰者山本長次郎ノ右處罰ニ依リ當然無効ニスヘキモノト言ハサルヲ得ス」「サレハ原告カ本訴ニ於テ主張スル請求ノ原因タル事實ニ付テノ當否ハ判斷スル迄モナク」トシテ原告ノ請求ヲ容レラレタ

ノテアリマス此ノ點カ上告人ノ不服トスルトコロテス室木ニ對スル公訴ニ附帶スル本件ニ山本ノ違反事件ノ内容ヲ採リ來ツテ窮極ノ判斷ヲ爲スト云フコトハ之ハ筋違ヒノ誤ツタ見解テアリマス結果カラ觀レハ當事者ノ申立ヤ豫期ニ反シ室木事件ノ附帶訴訟カ山本事件ノ附帶訴訟ニ變ツタカ如キ觀カアリマス原判決カ何故斯様ナ筋違ヒノ審理判斷ヲ爲サレタカ吾々ニハ判リマセヌカ兎ニ角違法テアルコト丈ケハ明瞭ナコトテハアリマスマイカ尤モ斯種訴訟手續ニ準用サルル刑事訴訟法第五百八十七條ニハ裁判所ハ請求ノ原因タル事實ニ關スル原告ノ陳述ニ拘束サレヌト規定シテアリマスカ此ノ法條ノ趣旨ハ裁判所ハ原告ノ請求原因事實ヲ離レテ審理判斷カ出來ルト云フ意味テナクシテ裁判所ハ請求原因事實ニ關スル原告ノ見解ヤ判斷ヤ答辯事實ニ對スル認否等ノ陳述ニ拘束サレヌ原告主張ノ請求原因事實ニ付テハ全ク獨自ニ審理判斷カ出來ルト云フ趣旨テアルト思料致シマス即原告ノ請求原因事實ヲ外ニシテ裁判所カ檢察ニ代ツテ新シイ請求原因事實ヲ提出シ之ニ自判ヲ加ヘヨトノ趣旨テハ斷シテアリマセヌ原判決ハ之ヲ通讀致シマスト檢察カ欲スルト否トニ不拘自ラ新請求原因ヲ提出シ之ヲ自判シタヤウナ貌ニナツテ居マス全ク違法ナコトト思料致シマスト云ヒ」第二、一、斯種訴訟ニ準用セラルル刑事訴訟法第五百七十條ニハ「私訴ノ判決ハ公訴ノ判決ニ於テ認メタル事實ニ基キ之ヲ爲スヘシ」トアリマス之ヲ本件ニ付テ言ヒマスト原判決ハ山本長次郎ヲ「上略選舉ニ關スル一切ノ事務ヲ獨斷的ニ處理シ事實上選舉運動ヲ總括主宰シ居リタル」モノナリト判斷シ右總括主宰者ノ選舉罰則違反行爲アリ且

處罰サレタル限り上告人ノ當選ハ當然ニ無効ナリト判示致シテアリマスカ室木ニ對スル選舉罰則違反事件判決ニハ右山本ヲ總括主宰者ナリトハ認メテハ居マセヌ室木ニ對スル判決ニ於テ認メサル事實ニ基キテ判決ヲ爲シタ原裁判所ノ態度ハ全ク前記法條ノ趣旨ニ反スルノテアリマス尤モ室木ニ對スル判決ニハ室木カ山本ニ金十三圓ヲ供與シタルコトハ認メテアリマスカ選舉運動ニ於ケル山本ノ地位カ總括主宰者ニ該ルヤ否ヤニ付テハ之ヲ認メテアリマセヌ山本ノ右十三圓ノ授受ノ行爲カ直チニ上告人ノ當選ニ影響スルノテハナイノテ山本カ總括主宰者ナリヤ否ヤカ重要ナル點ナノテアリマスカ此ノ重要ナ點ニ付テ室木事件判決カ未タ認メテ居ナイニ不拘原判決カ新ニ之ヲ認定シタ次第テアリマシテ全ク違法ト云フノ外アリマセヌト云ヒ」第三、一、原判決ハ「本件選舉ニ於ケル被告ノ當選ハ其ノ事實上ノ選舉運動ノ總括主宰者タル山本長次郎ノ右處罰ニヨリ當然無効ニスヘキモノト言ハサルヲ得ス」ト判示シマシタ然シナカラ假令山本カ違反行爲ヲ爲シ且總括主宰者テアツテモ上告人ノ當選カ當然ニ無効テナイコトハ衆議院議員選舉法第三百三十六條ニ明カナコトテアリマス當選人カ其ノ事實ヲ知ラス又ハ制止シタ場合ハ此ノ限りニアラストアリマス之ハ當選人ノ權利ト利益ヲ尊重シタ規定テアルコトハ申ス迄モアリマセヌカ裁判所カ凡ソ當選無効訴訟ヲ審理スルニハ當然ニ此ノ規定ヲモ念頭ニ置キ被告ヲシテ此ノ點ニ付テノ立證ヲ盡サシムヘキハ勿論此ノ點ニ付審理シ且判決ニ於テ判斷ヲ爲スヘキモノト思料シマス然ルニ原判決ニハ此ノ審理判斷カナインノテアリマス原告モ此ノ點ニ付テハ何モ言ヒマセヌ

被告モ言ツテ居マセヌ原判決ニハ山本ノ違反行爲及選舉主宰者タルコトヲ認定スルニ該リ冒頭ニ「職權ヲ以テ按スルニ」トアリマス職權ヲ以テ審理シテ下サルナラハ被告(上告人)ニ取ツテ生命線トモ云フヘキ衆議院議員選舉法第三百三十六條但書後段ノ事實アリヤ否ヤノコトモ充分ニ判斷シテ頂キタイノテス然ルニ何故カ此ノ點ノ判斷カ示サレテアリマセヌ只當然無効ニスヘキモノト謂ハサルヲ得ス」トアルノミテスコレハ明カニ原判決ノ失策テス裁判所カ職權ヲ以テ而モ原告モ申立テス被告モ豫想セサル事實ヲ審理判斷シテ下サルナラハ當然ニ被告ニ取ツテ利益ナル事項ニ付テモ判斷シテ下サルヘキテセウ前記法第三百三十六條ハ但書モ共ニ含メテ適用スヘキモノト信シマス但書ノ部分ヲ看過シテ「當然無効ニスヘキ」モノト判斷セラレテハ法カ但書ヲ特ニ作ツタ趣旨カ没却サレテシマヒマス凡ソ當選ヲ無効ニスルニハ充分ニ慎重ニ審理判斷シテ戴キタイモノト存シマス當選者一身ノ權義ノ問題テハナクシテ多數ノ投票カ活キルカ無駄ニナルカノ大キナ問題テアリマス之ヲ要スルニ原判決ニハ上記三點ノ違法カアリマス御廳ノ御審理ニヨリ破毀サルルモノト信シテ疑ヒマセヌト云ヒ」同上原夫次郎上告趣意書第一點原判決ノ事實ノ部ニ摘示スルトコロニヨレハ本件附帶私訴ニ於ケル原審原告(原審檢事)ノ請求原因ハ結局被告大森玉木ノ選舉事務長タル原審公訴被告人室木能邇郎カ其ノ選舉ニ關シ衆議院議員選舉法第一百二十二條第一項第二號第一號ニ該當スル犯罪ヲ犯シタルノ故ヲ以テ金澤地方裁判所七尾支部ノ公判ニ付セラレ被告大森玉木ハ其ノ事務長ノ選任及監督ニ付相當ノ注意ヲ爲ササ

リシモノナルヲ以テ本訴ニ及ヒタリト陳述シ之カ立證ヲ爲シ原審被告大森玉木ハ其ノ答辯トシテ原告主張ノ右室木事務長ノ右犯罪事實ヲ否認シ假ニ其ノ事實アリシトスルモ自分ハ其ノ選任監督ニ付相當ノ注意ヲ拂ヒタルヲ以テ本訴請求ハ理由ナシト陳述シ之カ立證ヲ爲シタルコト一見明瞭ニシテ之ヲ原審公判調書ニ徵スルモ亦些ノ相違アルコトナシ果シテ然ラハ本件訴訟ハ公訴被告人タル選舉事務長室木能邇郎ノ公訴ニ附帶シ右原告ノ請求原因ニ關スル攻撃方法ト被告人ノ之ニ對スル防禦方法ノ對立爭訟ナレハ縱令刑事訴訟法第五百八十七條ノ規定アリトスルモ其ノ爭訟範圍ハ衆議院議員選舉法ニ於ケル連坐法條ノ本旨ト相俟テ室木事務長トノ相關關係ノ外ニ越脱シ得サルハ事理ノ當然ナリト言ハサルヘカラス然ルニ原判決ハ此ノ法意ヲ無視シ其ノ理由ノ部ニ於テ「……被告ハ原告主張ノ犯罪事實ヲ否認スルヲ以テ今姑ク如上ノ點ニ付テノ判斷ヲ措クトスルモ職權ヲ以テ按スルニ公訴記録中豫審ニ於ケル被告人室木能邇郎ニ對スル第一、二、三回ノ各訊問調書竝證人山本長次郎ニ對スル訊問調書ノ各供述記載ニ依レハ……又實際ニ於テモ當該選舉ヲ通シテ事務長タル室木ハ殆ント選舉運動ニハ携ハラス舉ケテ之ヲ右山本長次郎ニ一任シ……事實上選舉運動ヲ總括主宰シ居リタルコトヲ認定スルニ十分ナリ」ト判示シ次テ又「然リ而シテ右山本長次郎カ右選舉委員トシテ選舉運動中大森文ヨリ選舉運動ノ報酬トシテ金十圓室木能邇郎ヨリ同様金十三圓ノ各供與ヲ受ケタル外二、三ノ選舉則違反ノ行爲アリトシテ起訴セラレ昭和十一年四月十五日懲役四月ニ處セラレ同月二十三日確定シタルコトハ本件公

訴記録ニ編綴シアル名古屋控訴院檢事局裁判所書記前田利雄ノ作成ニ係ル昭和十二年六月十八日附石坂貞二外四名ノ縣會議員選舉則違反調題スル書面ニヨリ明白ナリトス」ト判示シ以テ其ノ結論トシテ「然ラハ本件選舉ニ於ケル被告ノ當選ハ其ノ事實上ノ選舉運動ノ總括主宰者山本長次郎ノ右處罰ニ因リ當然無効ニスヘキモノト謂ハサルヲ得ス左レハ原告カ本訴ニ於テ主張スル請求ノ原因タル事實ニ付テノ當否ヲ判斷スル迄モナク原告ノ請求ハ正當ナルニヨリ府縣制第三十四條ノ二第四項衆議院議員選舉法第四百一十一條ノ二ニ則リ主文ノ如ク判決ス」ト判示シタリ然レトモ衆議院議員選舉法第八十四條第二項ニ於テ付與セラレタル本件檢事ノ公訴附帶私訴ハ同條所定ノ如ク選舉事務長又ハ選舉事務長ニアラスシテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者ノ何レカヲ對象トシ同法第三百三十六條ニ於ケル其ノ各異リタル立場ト其ノ各異リタル條件ニヨリテ果シテ右何レノ對象者ヲ以テ當選無効ノ原因ト爲ス可キヤヲ確定シ是レニ因リテ以テ其ノ對象者ノ公訴審理ニ附帶シテ當選無効ノ私訴提起ニ及フヘキハ右法條ニ於テ毫モ疑ナキコトニ屬ス從テ本件私訴モ亦前掲請求原因ニ示スカ如ク室木事務長ヲ對象者トシテ同人ニ對スル公訴事實ヲ原因トシ同人ニ對スル公訴審理ニ附帶シテ提起シタルモノナレハ原裁判所ハ須ク此ノ確立シタル請求原因ニ依據シテ之カ判斷ヲ下ササルヘカラス然ルニ原判決ハ前掲理由ノ判示ニ於テ毫モ其ノ點ノ判斷ヲ下スコトナクシテ濫リニ職權ヲ揮擢シ何等原告ノ請求ナキトコロニ而モ全ク別途ノ公訴事件タル過去ニ終結セシ山本長次郎ノ公訴事實ヲ援用シ且同人ヲ本件選舉運動ノ

總括主宰者ト認定シ因テ以テ同人ノ一、二犯行ヲ對象トシ本件上告人(被告)ノ當選無効ヲ裁斷シタルハ衆議院議員選舉法第八十四條第二項第三百三十六條ノ法意ヲ誤リ延イテ刑事訴訟法第五百七十條第四十九條ニ違背シタルモノニシテ原判決ハ結局審判ノ請求ヲ受ケタル當事者間ノ訴訟ニ付何等之ニ副フ可キ理由ヲ付セサルコトニ歸スルノ重大ナル不法アルモノトスト云ヒ」被告上告趣意書第一點原判決ハ法令ニ違反スルモノナリ(イ)選舉法第八十四條ノ二項ニ「檢事ハ第一百十二條乃至第一百十三條ノ罪ニ該ル事件ノ被告人カ選舉事務長又ハ選舉事務長ニ非スシテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者ナルニヨリ第三百三十六條ノ規定ニヨリ當選ヲ無効ナリト認ムルトキハ公訴ニ附帶シ當選人ヲ被告トシテ訴訟ヲ提起スルコトヲ要ス」トアルヲ以テ當選無効附帶訴訟ノ判決ハ公訴ノ被告人ノ選舉事務長又ハ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者タル地位ヲ條件トシテ之ニ對シテ選舉法第三百三十六條ノ連坐規定ヲ適用スヘキヤ否ヲ決スヘキモノナルニモ不拘原判決ハ公訴ノ被告人タル選舉事務長室木能邇郎ノ違反行爲及當選人カ之ニ對シテ選任並監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルヤ否ヲ不問ニ付シ職權ヲ以テ公訴ノ被告人以外ノ山本長次郎ヲ拉シ來リ之ヲ以テ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者トナシ當選人ノ當選ヲ無効トシタルモノニシテ明ニ法令ノ違反ナリ(ロ)原判決ハ刑事訴訟法第五百八十七條ノ「裁判所ハ私訴判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ノ範圍内ニ於テハ請求ノ原因タル事實ニ關スル原告ノ陳述ニ拘束セラルルコトナシ」トアルニヨリ原告請求ノ原因タル事實ノ審理ヲ俟ツノ要ナシトスルモノナレトモ如

斯ハ基本タルヘキ選舉法ヲ無視シ其ノ訴訟手續ノ準用ノ點ニ捉ハレタルモノニシテ本末輕重ヲ顛倒スルモノト言ハサルヘカラス抑々選舉法ハ公法ノ中ニ於テモ最重要ナルモノニシテ其ノ解釋運用ハ頗ル嚴肅タラサルヘカラサルハ論ヲ俟タサルトコロナルヲ以テ原判決ノ如ク準用スヘキ訴訟手續ニ捉ハレテ公訴ノ被告人以外ノ者ノ行爲ニ牽連シテ當選人ノ當選ヲ無効トスルハ重大ナル錯誤ニ陷レルモノナリ(ハ)選舉法第四百一條ノ二ノ二項ニ「第八十四條第二項ノ規定ニヨリ訴訟ニ付當選無効ノ判決確定スト雖其ノ判決ハ公訴ニ付有罪ノ判決確定スルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス」トアルハ前述(イ)(ロ)ノ論旨ヲ裏書スルモノニシテ若シ公訴ノ被告人以外ノモノノ行爲ヲ以テ當選人ノ當選ヲ無効トスルカ如キコトアランカ本條文ハ全ク無意義ニ歸スルモノニシテ如斯適用ノ場合無キ不用ノ法文ノ存在スルコトハ絶對ニアルヘキ理ナシト云ヒ」第二點刑事訴訟法第五百七十條ニハ「私訴ノ判決ハ公訴ノ判決ニ於テ認メタル事實ニ基キ之ヲ爲スヘシ」トアリ然ルニ本公訴ノ判決(第一審判決ノ確定)ニハ山本長次郎ヲ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者トスル點ナキヲ以テ附帶訴訟ノ原判決ハ公訴ノ判決ニ於テ認メタル事實ニ基カサル判決ナルヲ以テ法令ノ違反ナリト云フニ在リ

仍テ審按スルニ刑事訴訟法第五百八十七條ノ裁判所ハ私訴判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ノ範圍内ニ於テハ請求ノ原因タル事實ニ關スル原告ノ陳述ニ拘束セラルルコトナキ旨ノ規定ハ裁判所カ原告ノ請求原因トシテ主張シタル事實ノ變更ニ因リ原告ノ申立テサル事物ヲ之ニ歸セシムルコトハ許ストコロニ非

【要旨】

サルモ原告ノ主張シタル事實ト異リタル事實ヲ認メテ其ノ請求シタル事物ヲ之ニ歸セシムルコトヲ妨ケサル趣旨ナリ然レトモ同法第五百七十條ノ私訴判決ハ公訴ノ判決ニ於テ認メタル事實ニ基キ之ヲ爲スヘシト規定シ私訴ノ判決ト公訴ノ判決トハ同一ノ事實ヲ基礎トスヘキコトヲ要シ其ノ間相抵觸スルコトヲ許ササルヲ以テ原則トスルカ故ニ裁判所カ原告ノ主張事實ト異リタル事實ヲ認定シ得ヘシトスルモ右原則ニ依據セサルヘカラサルコト勿論ニシテ公訴判決ニ依リ認定シタル事實カ原告ノ主張事實ト相違スルモ裁判所ハ判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ノ範圍内ニ於テハ原告主張ノ事實ニ拘束セラルルコトナク公訴判決ニ依リ認定シタル事實ニ基キテ原告ノ請求ヲ認容シ得ルニ過キスシテ裁判所ハ濫ニ原告ノ主張セス且公訴判決ニ於テ認定セサル全然別個ノ事實ヲ認定シテ之ニ基キ私訴判決ヲ爲スカ如キハ前記法文ノ精神ニ反シ許スヘカラサルモノト爲ササルヘカラス蓋シ斯ノ如キ判決ヲ爲シ得ヘシトセシカ附帶私訴タル性質ヲ没却スルト同時ニ被告ニ對シテ之カ防禦ノ方法ヲ施スノ途ヲ杜絶シ訴訟ノ原則ニ背馳スルニ至ルヘケレハナリ衆議院議員選舉法第四百一條ノ二ニ依リテ私訴ニ關スル規定ヲ準用シテ當選無効訴訟ノ附帶判決ヲ爲ス場合ニ於テモ亦敍上説明ノ趣旨ニ則ルヘキモノタルコト勿論ナリ今原判決ヲ查スルニ原告ノ本訴請求原因トシテ陳述シタル所ハ被告大森玉木ハ昭和十年九月二十四日施行セラレタル石川縣會議員選舉ニ當選シタルモノナルカ選舉事務長室木能邇郎カ原判示ノ如キ犯罪ヲ爲シタルモノトシテ金澤地方裁判所七尾支部ノ公判ニ付セラレタルニ被告ハ右選舉事務長ノ選任

及監督ニ付相當ノ注意ヲ爲ササリシモノナルヲ以テ府縣制第三十四條ノ二第三項衆議院議員選舉法第百三十六條ニ則リ室木能邇郎外八名ニ對スル縣會議員選舉罰則違反被告事件ノ公訴ニ附帶シ被告ノ右當選ヲ無効トストノ判決ヲ求ムト謂フニ在ルヲ以テ原裁判所ハ右公訴事件ノ判決ニ於テ認メタル事實ニ基キテ判決ヲ爲スヘキモノナルニ拘ラス原告ノ主張スル右請求原因事實ニ付テハ全然判斷ヲ與ヘス職權ヲ以テ記録ニ編綴シアル前記選舉ニ於テ山本長次郎カ選舉委員トシテ選舉運動中大森文ヨリ選舉運動ノ報酬トシテ金十圓室木能邇郎ヨリ同様な金十三圓ノ供與ヲ受ケタル外二、三ノ選舉罰則違反ノ行爲アリタル事實ニ依リ處罰セラレタル判決謄本ニ基キ山本長次郎カ事實上選舉運動ノ總括主宰者ニシテ且選舉罰則違反ノ行爲アリトシテ處罰セラレタリトノ事實ヲ認定シ之ニ基キテ本訴被告ノ當選ハ當然無効ニ歸スヘキ旨ヲ判定シタルモノナルコト明カナリ而シテ右山本長次郎ハ本件公訴事件ノ被告人ニ非サルノミナラス同人カ事實上選舉運動ノ總括主宰者ナルコトハ同人ニ對スル選舉違反事件ニ於テモ之ヲ認定シ居ラサル所ナレハ原判決ハ公訴判決ニ全然依據スル所ナク且原告ノ主張セサル事實ニ基キテ判決ヲ爲シタルモノニシテ右ハ法令ニ違反シタル判決ナリト謂フヘシ論旨孰レモ理由アリ右ノ理由ニ依リ原判決ハ之ヲ破毀スヘク而シテ右ハ事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスヘキモノナルコト明カナルヲ以テ爾餘ノ上告論旨ニ對スル説明ヲ省略シ刑事訴訟法第四百四十條ノ趣旨ニ則リテ事實ノ審理ヲ爲スヘキモノトシ主文ノ如ク決定ス

○詐欺未遂被告事件(昭和十二年(れ)第一六七九號
同年十一月十六日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 今野眞佐男 辯護人 赤井幸夫

【第一審】 秋田地方裁判所 【第二審】 宮城控訴院

○判示事項

支拂命令ノ申請ト詐欺ノ著手

○判決要旨

債權ヲ有スル如ク装ヒ支拂命令ノ申請ヲ爲スハ裁判所ニ對スル欺罔行爲ノ著手ナリトス

【參照】 刑法第二百五十條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

同法第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

支拂命令ノ申請ト詐欺ノ著手

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役六月ニ處ス但シ未決勾留日數中六十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用中豫審ニ於ケル證人仁部於菟三郎、堀藤一郎(但シ昭和十一年九月十四日出頭ノ分ヲ除ク)添田秀雄、木内健治郎、木内甚三郎、博田富治、細谷精一、木内麻男、阿部芳平、永井重悅及當審ニ於ケル證人須田恒太郎ニ支給シタル分ハ被告人ノ負擔トス一般毀棄被告事件ニ付テハ被告人ハ無罪トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ秋田縣由利郡鮎川村堰口字西上原一番田九畝二十五步外十八筆合計約十町歩ノ土地(俗稱西上原農場合計二十一筆ノ内ノ十九筆)及右十九筆ノ土地中字西上原後谷地十六番十八番地上ニ建設セラレタル小屋二棟ヲ所有シ且右農場ニ隣接スル鮎川村所有ノ字西上原十二番十三番ノ内原野實測約二十町三反步外原野三筆合計實測約二十町七反一畝歩ニ付耕作牧畜木草ノ採取等前記農場經營ノ爲必要ナル一切ノ用途ニ供シ得ル權利ヲ有シ居リ前記土地十九筆内ノ田地合計四町六歩ハ被告人カ豫テ佐々木作治外六名ニ對シ小作料トシテ毎春秋同田地ヨリ刈取りタル稻ノ二分ノ一ヲ右七名カ連帶シテ被告人ニ支拂フ約ノ下ニ小作セシメ居リタルトコロ昭和十年五月三十一日右十九筆ノ土地及小屋二棟並鮎川村所有地ニ對スル前記一切ノ權利ニ付仁部菟於三郎ト代金ヲ合計一萬五百圓トシテ賣買契約ヲ締結シ該代金ノ支拂ニ付内二千圓ハ被告人カ當時株式會社勸業銀行ニ對シ負擔シ居リタル金二千圓ノ債務ヲ買主仁部ニ於テ引受ケ内金千五百圓ハ即日支拂ヒ殘代金ハ同年九月三十日限り右賣買ニ因ル移轉登記ト引換ニ授受スルコトト定メ同時ニ前

記小作人佐々木作治等ニ對スル昭和十年度ノ小作料債權ヲ仁部ニ讓渡シ仁部ハ該小作料ノ取立ヲ爲シ其ノ三分ノ一ヲ同人ヨリ被告人ニ交付スヘキ契約ヲ爲シタルカ其ノ後被告人ト仁部トノ間ニ前記仁部ノ引受ケタル金二千圓カ右賣買代金一萬五百圓中ニ計上包含セラレタルモノナリヤ否ヤ又右賣買契約同時ニ該賣買ノ目的タル土地及小屋ハ仁部ニ引渡シ前記使用收益權ハ同人ニ移轉シタルモノナリヤ否ヤニ付紛爭ヲ惹起シタルヨリ同年九月二十八日ニ至リ被告人ト仁部トノ協議ノ結果右仁部ノ引受ケタル債務額ハ前記一萬五百圓ノ賣買代金中ニ包含セラレ又賣買ノ目的物件ハ全部仁部ニ引渡シ前記土地ノ使用收益權モ同人ニ移轉シタルコトヲ明白ニスル趣旨ニテ追加契約ヲ爲シ同日殘代金全部ノ支拂ヲ了シタルモノニシテ前記小作料債權讓渡契約ノ點ニ付テハ何等ノ變更ナク而モ其ノ後ニ於テ該契約カ解除セラレタル等ノ事實モナク從テ右佐々木作治等ニ對スル昭和十年度ノ小作料債權ハ既ニ仁部ニ移轉シ被告人ハ只仁部ニ對シ同人ノ取立テタル同年度ノ小作料ノ三分ノ一ヲ請求スル權利アルニ過キスシテ右小作人等ニ對シテハ其ノ小作料ノ請求權ナキモノナルニ拘ラス該小作契約書カ未タ被告人ノ手裡ニ存スルヲ奇貨トシ管轄裁判所ヲ欺罔シテ右小作人等ヨリ小作料名義ノ下ニ梗稻ヲ騙取セムコトヲ企テ昭和十年十一月二日日本莊區裁判所ニ對シ右作治外六名ヲ連帶債務者トシ被告人カ右作治等七名ニ對シ昭和十年度ノ小作料トシテ梗稻二千五百束ノ請求權ヲ有スル旨虛偽ノ事實ヲ主張シ右作治等ハ連帶シテ被告人ニ對シ右小作料ノ支拂ヲ爲スヘントノ支拂命令ノ申立ヲ爲シ其ノ頃同裁判所ヲシテ其ノ旨誤信セシメテ該命令ヲ發セシメタルモ右小作人中佐々木作治外三名ヨリ異議ノ申立アリタル爲同事件カ秋田地方裁判所民事部ニ繫屬スルヤ情ヲ知ラサル辯護士高橋唯雄ヲ訴訟代理人トシテ前記虛偽ノ事實ヲ主張シ以テ其ノ請求ノ趣旨トシテ右作治等四名ハ連帶シテ被告人ニ對シ梗稻二千三百束ヲ支拂フヘントノ判決ヲ求メシメタルモ同廳ニ於テ審理セラレタル結果右小作料債權ハ既ニ仁部ニ讓渡セラレ被告人ニ其ノ請求權ナキモノナリトノ理由ノ下ニ昭和十一年四月二十四日被告人敗訴ノ判決ヲ受クルヤ更ニ同代理人ヲシテ宮城控訴院ニ控訴セシメタルモ同年七月四日同様ノ理

支拂命令ノ申請ト詐欺ノ著手

由ニ依リ控訴棄却ノ判決ヲ受ケタル爲其ノ騙取ノ目的ヲ遂ケサリシモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百四十六條第一項第二百五十條ニ該當スルトコロ右ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ヲ適用スヘキモ其ノ刑ニ輕重ナキヲ以テ結局詐欺未遂罪ノ所定期刑範圍内ニ於テ處斷スヘキトコロ前示前科アルヲ以テ同法第五十六條第一項第五十七條ニ則リ累犯ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六月ニ處シ同法第二十一條ヲ適用シ未決勾留日數中六十日ヲ右本刑ニ算入シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ主文掲記ノ如ク其ノ負擔ヲ定ムヘク

本件公訴事實中被告人カ犯意ヲ繼續シ(一)鮎川村所有ノ判示字西上原後谷地十三番所在ノ約一反歩ノ畑ニ細矢清一カ播種生育中ノ大豆ヲ情ヲ知ラサル今野金造等ヲシテ削取ラシメ(二)判示農場十九番等所在ノ田地ニ木内麻男カ植付ケタル稻立毛約六畝歩ヲ昭和十一年七月四日頃情ヲ知ラサル今野九一郎等ヲシテ拔取ラシメ以テ右清一所有ノ大豆及麻男所有ノ稻立毛ヲ損毀シタリトノ點ハ其ノ犯罪ノ證明ナキヲ以テ刑事訴訟法第四百七條第三百六十二條ニ則リ此ノ點ニ付無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人赤井幸夫上告趣意書第一點原判決ハ其ノ事實理由ニ於テ「被告人ハ(前略)佐々木作治等ニ對スル昭和十年度ノ小作料ノ債權ハ既ニ仁部ニ移轉シ被告人ハ只仁部ニ對シ同人ノ取立テタル同年度ノ小作料ノ三分ノ一ヲ請求スル權利アルニ過キスシテ右小作人ニ對シテハ其ノ小作料ノ請求權ナキモノ

ナルニ拘ラス該小作契約書カ未タ被告人ノ手裡ニ存スルヲ奇貨トシ管轄裁判所ヲ欺罔シテ右小作人等ヨリ小作料名義ノ下ニ粳稻ヲ騙取セムコトヲ企テ昭和十年十一月二日日本莊區裁判所ニ對シ右作治外六名ヲ連帶債務者トシ被告人カ右作治等七名ニ對シ昭和十年度ノ小作料トシテ粳稻二千五百束ノ請求權ヲ有スル旨虛偽ノ事實ヲ主張シ右作治等ハ連帶シテ被告人ニ對シ右小作料ノ支拂ヲ爲スヘシトノ支拂命令ノ申立ヲ爲シ其ノ頃同裁判所ヲシテ其ノ旨誤信セシメテ該命令ヲ發セシメタルモ右小作人中佐々木作治外三名ヨリ異議ノ申立アリタル爲同事件カ秋田地方裁判所民事部ニ繫屬スルヤ情ヲ知ラサル辯護士高橋唯雄ヲ訴訟代理人トシテ前記虛偽ノ事實ヲ主張シ以テ其ノ請求ノ趣旨トシテ右作治等四名ハ連帶シテ被告人ニ對シ粳稻二千三百束ヲ支拂フヘシトノ判決ヲ求メシメタルモ同應ニ於テ審理セラレタル結果右小作料債權ハ既ニ仁部ニ讓渡セラレ被告人ニ其ノ請求權ナキモノナリトノ理由ノ下ニ昭和十一年四月二十四日被告人敗訴ノ判決ヲ受クルヤ更ニ同代理人ヲシテ宮城控訴院ニ控訴セシメタルモ同年七月四日同様ノ理由ニ依リ控訴棄却ノ判決ヲ受ケタル爲其ノ騙取ノ目的ヲ遂ケサリシモノナリト判示シ刑法第二百四十六條同第二百五十條ヲ適用シテ有罪ノ言渡ヲ爲シタリ然レトモ請求權ヲ有セサル者カ民事ノ訴訟ヲ提起シテ權利アリト主張シタル場合(又ハ反對ニ義務ヲ負擔スル者カ訴ヲ受ケテ之ヲ争ヒタル場合)ニ於テハ其ノ虛偽ナリト認メラルル主張(又ハ抗辯)ヲ維持スル爲證據ヲ偽造シ又ハ偽證ヲ爲サシメ若クハ不法ニ相手方ノ利益トナルヘキ證據方法ノ提出ヲ妨害スル等裁判所ノ公

支拂命令ノ申請ト詐欺ノ著手

正ナル審判ヲ妨クヘキ不正手段ヲ用ヒタル場合ニ限り詐欺罪ヲ構成スルモノト云ハサルヘカラス蓋國民力裁判所ニ民事ノ訴ヲ提起スルハ争アル事項ニ付國家ニ對シ公正ナル審判ヲ求ムルモノナルカ故ニ前示ノ如キ不正手段ヲ用ヒサル限り國家ハ當事者ニ欺カルコトナク該訴訟ニ付正當ナル判斷ヲ爲スヘキモノナルヲ以テナリ若シ然ラスシテ訴訟ニ於テ虛偽ノ事實ヲ主張シタリトノ一事ヲ以テ直ニ詐欺罪ヲ構成スルモノナリトセンカ民事訴訟ニ於ケル敗訴ノ當事者ハ特ニ其ノ犯意ナカリシコトノ立證セラレサル限り常ニ詐欺罪ヲ犯セルモノト云ハサルヘカラス如キハ決シテ妥當ナル解釋ナリトハ云フヘカラスルモノト信ス然リ而シテ原判決ノ認定スル處ハ前示ノ如クニシテ上告人カ裁判所ニ對シ自己ノ主張ヲ立證スル爲或ハ人ヲシテ偽證ヲ爲サシメ若クハ偽造ニ係ル證據ヲ提出シタル等裁判所ヲ欺キ不當ノ判斷ヲ爲サシムルカ爲不正ノ手段ヲ弄シタル事實ハ全ク之ヲ知ルヘカラスルヲ以テ罪トナラサル所爲ニ對シテ刑ヲ科シタルノ違法アルカ少クトモ理由不備ノ違法アルモノニシテ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在リ

【要旨】

仍テ按スルニ形式上適法ナル支拂命令ノ申請アリタル場合ニ於テハ裁判所ハ申請人カ其ノ申請ノ原因タル債權ヲ有スルモノト推定シ支拂命令ヲ發スルモノナルカ故ニ虛偽ノ債權ニ基キ支拂命令ノ申請ヲ爲スノ行爲ハ裁判所ニ對スル欺罔手段タリ得ヘキモノトス從テ裁判所ヲシテ虛偽ノ債權ニ基キ支拂命令ヲ發セシメタル後相手方ノ異議申立ニ依リ裁判所ニ訴訟繫屬スルニ至リ更ニ前同様虛偽ノ債權ヲ主張シタルモ遂ニ敗訴ノ判決ヲ受ケ其ノ目的ヲ遂ケサリシトキハ詐欺未遂罪ヲ構成スルコト明カナリ然ラハ原審カ論旨摘録ノ如キ事實ヲ認定シ被告人ニ對シ刑法第二百五十條第二百四十六條ヲ以テ問擬所斷シタルハ洵ニ相當ニシテ原判決ニハ所論ノ如キ違法ナク論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事德江治之助關與

○名譽毀損被告事件(昭和十二年(一九三七年)十一月十九日第三刑事部判決 破毀無罪)

【上告人】 被告人 佐久間順三 辯護人 大道寺慶男

【第一審】 大垣區裁判所 【第二審】 岐阜地方裁判所

○判示事項

公然ノ意義

公然ノ意義

○判決要旨

少數ノ役員ヨリ成リ秘密ノ保タレ得ヘキ狀況ノ下ニアル會合ノ席上ニ於テ他人ノ名譽ヲ毀損スル言辭ヲ爲シタル者ハ公然人ノ名譽ヲ毀損シタルモノト言フヲ得ス

【參照】刑法第二百三十條 公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其ノ事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ岐阜縣海津郡海西村消防第二部ノ小頭ナリシ處昭和十一年七月七日頃同村大字蛇池團體事務所内ニ於テ前記消防第二部ノ小頭ノ辭職理由トシテ近藤喜士外七名ノ消防組役員ニ對シ消防組第二部ノ後援會長大橋完ハ同村民カ組織セル保證責任財信用購買販賣利用組合ノ組合長當時組合ノ金八千圓ヲ横領シタルモノナレハ斯ル不正行爲ヲ爲シタル者ノ後援ヲ受クルコトハ自分トシテハ忍ビ難キ旨告ケテ公然事實ヲ摘示シテ大橋完ノ名譽ヲ毀損シタルモノナリ法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第二百三十條第一項ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於

テ被告人ヲ罰金二十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ依リ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

原判決ヲ破毀ス

被告人ハ無罪

○理 由

辯護人大道寺慶男上告趣意書第二點ノ理由アルコトハ曩ニ當院ノ事實審理開始決定ニ説明スル所ノ如シ仍テ更ニ本件ニ就テ審按スルニ本件公訴ノ事實ハ被告人ハ岐阜縣海津郡海西村消防第二部ノ小頭ナリシ處昭和十一年七月七日頃同村大字蛇池團體事務所ニ於テ前示消防第二部ノ小頭ノ辭職理由トシテ近藤喜士外七名ノ消防組役員ニ對シ消防第二部ノ後援會長大橋完ハ同村民カ組織セル保證責任財信用購買販賣利用組合ノ組合長當時組合ノ金八千圓ヲ横領シタルモノナレハ斯ル不正行爲ヲ爲シタル者ノ後援ヲ受クルコトハ自分トシテハ忍ビ難キ旨告ケテ公然事實ヲ摘示シテ大橋完ノ名譽ヲ毀損シタルモノナリト謂フニ在リテ被告人カ昭和十一年九月三、四日頃右場所ニ於テ開催セラレタル近藤喜士外七名ノ消防組役員會ノ席上前記事實ヲ摘示シタルコトハ被告人ノ當公庭ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニ依リ之ヲ認定スルニ十分ナルノミナラス刑法第二百三十條ニ所謂公然ヲ解シテ必スシモ不特定且多數人タ

公然ノ意義

ルコトヲ要セス苟モ多數人ナルトキハ其ノ特定セル場合ト雖公然ト解スルヲ妨ケスト爲ス本院近來ノ判例ノ趣旨トスル所ニ依レハ本件ニ就テモ亦名譽毀損罪ノ成立ヲ認メサルヘカラサルニ似タリ然レトモ元來法律カ公然ト規定シ而シテ判例カ之ヲ不特定又ハ多數人ト解スルニ至リタル所以ノモノハ蓋多數人ナルトキハ動モスレハ祕密ノ保タレ得サルノ虞アルカ故ニ外ナラサルヲ以テ多數人ナリト雖其ノ員數ノ點ニ顧ミ又其ノ集合ノ性質ニ鑑ミ克ク祕密ノ保タレ得テ絕對ニ傳播ノ虞ナキカ如キ場合ニ於テハ公然ト稱スルノ要ナキモノト解スルヲ相當トスヘシ

今本件事案ヲ按スルニ右蛇池團體事務所ニ於ケル會合ハ一定ノ範圍ニ限ラレタル近藤喜士外七名ノ役員會ニシテ而カモ同役員會ニ於テ被告人ハ消防組小頭辭職ノ理由ノ釋明ヲ求メラルルヤ人事ニ關スル問題ナルノ故ヲ以テ當初理由ノ開示ヲ拒ミタルニ列席者ニ於テ右會合力懇意ナル役員ノ會合ナルコトヲ擧ケ強イテ其ノ釋明ヲ求メタルヨリ已ムナク其ノ理由ヲ開陳シタルモノナレハ其ノ經緯ニ鑑ミ列席者ハ當然被告人ノ開示シタル事項ニ付祕密ヲ保ツヘキ責アルモノト謂フヘク從テ被告人カ祕密ノ保タルヘキコトヲ豫期シ右會合ニ於テ小頭辭職ノ理由トシテ開示セルトコロカ偶々大橋完ノ名譽ヲ毀損スル事項ニ涉レリトスルモ之ヲ目シテ公然事實ヲ摘示シテ名譽ヲ毀損シタリト爲スコトヲ得ス果シテ然ラハ被告人ノ行爲ハ名譽毀損罪ヲ構成セサルモノト謂フヘク被告人ニ對シテハ無罪ノ宣告ヲ爲スヘキモノニシテ此ノ點ニ於テ原判決ハ到底破毀ヲ免レサルモノトス

仍テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條第四百五十五條第三百六十二條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事武松久吉關與

○町會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和十二年(九)第一七〇〇號 棄却)
(同年十二月二十四日第五刑事部判決)

【上告人】 被告人 佐藤喜惣 辯護人 小林龜郎
 【第一審】 弘前區裁判所 【第二審】 青森地方裁判所

○判示事項

町會議員選舉ニ於ケル個々面接罪ノ判示

○判決要旨

町會議員選舉ニ於ケル個々面接罪ニ付テハ犯行ノ時期カ立候補ノ前後如何ヲ判示スルノ要ナキモノトス

町會議員選舉ニ於ケル個々面接罪ノ判示

【參照】町村制第三十六條ノ二 町村會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法第九十一條、第九十二條、第九十八條、第九十九條第二項、第一百條、第一百條ノ二、第四百二十二條及第四百四十七條ノ規定ヲ準用ス

同第三十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

衆議院議員選舉法第九十五條ノ二 選舉運動ハ第六十七條第一項乃至第三項ノ届出アリタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

同法第九十八條第二項 何人ト雖前項ノ目的ヲ以テ連續シテ個個ノ選舉人ニ對シ面接シ又ハ電話ニ依リ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金三十圓ニ處ス(罰金不完納ノ場合ニ於ケル勞役場留置ノ點省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十二年五月七日施行ノ青森縣南津輕郡尾上町町會議員選舉ニ際シ立候補ヲ爲シタルモノナルトコロ自己ノ投票ヲ得ル目的ヲ以テ

第一 同年四月中旬頃同町大字高木ノ選舉人長内永治郎ニ對シ同町大字尾上五十嵐湯屋浴場内ニ於テ面接シ自己ニ投票方ヲ依頼シ

第二 同年四月中旬頃同町大字尾上ノ選舉人西谷金作ニ對シ同町金田小學校建築場ニ於テ面接シ自己ニ投票方ヲ依頼シ

第三 其ノ頃同町大字李平ノ選舉人佐藤喜佐ニ對シ被告人肩書居宅ニ於テ面接シ自己ニ投票方ヲ依頼シ

第四 同年四月中旬頃同町大字李平ノ選舉人成田定義ニ對シ同町内田圃ニ於テ面接シ自己ニ投票方ヲ依頼シ以テ連續シテ個々ノ選舉人ニ面接ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ町村制第三十六條ノ二第三十七條衆議院議員選舉法第九十八條第二項第二百二十九條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ所定金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金三十圓ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人小林龜郎上告趣意書第一點ハ原判決ハ判示第一事實ニ於テ「被告人ハ昭和十二年四月中旬頃同町(尾上町)大字高木ノ選舉人長内永治郎ニ對シ同町大字尾上五十嵐湯屋浴場内ニ於テ面接シ自己ニ投票方ヲ依頼シ」云々ト判示シ町村制第三十六條ノ二第三十七條衆議院議員選舉法第九十八條第二項同第二百二十九條ニ該當スルモノトシテ有罪ヲ斷スルニ當リ其ノ證據トシテ被告人並長内永治郎ニ對スル司法警察官ノ聽取書ヲ有罪ノ資料トナシタリ然ルニ其ノ選舉ニ關シ立候補届出前ニナシタル個々面接運動ト立候補届出後ニ個々面接運動ヲナシタルコトトハ法律ノ適用ヲ異ニスルコトハ衆議院議員選舉法ニ明定スルトコロナリ而シテ原判決ハ其ノ事實認定ニ於テハ立候補ヲナシタル上五十嵐湯屋ニ於テ長内永治郎ニ面接シテ自己ニ投票方ヲ依頼シタルカ如ク判示シ其ノ證據理由ニ於テハ未タ立候補セサル

町會議員選舉ニ於ケル個々面接罪ノ判示

以前ニ同運動ヲナシタルコトヲ援用シタルモノナリ即被告人ニ對スル司法警察官ノ聽取書中ニモ「今度ノ町會ニハ出ル考故應援云々」トアリ長内永治郎ノ同聽取書中ニモ「同人ヨリ今回町會議員ニ出ル積リニ付若シ自分ニ入レテ吳レテヨイナラ」云々トノ記載ヲ援用シタリ然ラハ原判決ハ其ノ事實ニ於テ立候補届出後ノ個々面接運動ヲ認メナカラ其ノ證據理由ニ於テ立候補届出前ニ運動ヲナシタルコトヲ採ツテ有罪トナシタルハ理由齟齬ノ不法アルモノニシテ結局事實ノ誤認アルカ理由不備ノ不法アルニ歸スルノ不法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノトスト云ヒ」同第二點ハ選舉運動ニ關シ法律違反アルトキハ其ノ違反カ立候補届出前ナリヤ否ヤニ付法律ノ適用ヲ異ニスルモノトス即立候補届出前ニ同法第九十八條違反ノ行爲アルトキハ同法第九十五條ノ二同第九十八條同第二百二十九條ヲ適用シテ處斷スヘク立候補届出後ニ於テハ同法第九十八條同第二百二十九條ヲ適用スヘキモノニシテ罪質並擬律ニ相違ヲ來スモノトス而シテ本件ニ於テ被告人ノ違反行爲タル個々面接運動カ立候補届出前ニナサレタリヤ又ハ其ノ後ニナサレタリヤハ重要ナル事項ニシテ其ノ罪質ヲ異ニスルト共ニ其ノ法律ノ適用ヲモ異ニスルモノナルコトハ前段所述ノ如シ從テ原判決ハ此ノ立候補届出ノ有無ヲ明確ニシ本件事實カ果シテ何レニ該當スルヤヲ審理判斷セサルヘカラス而シテ原判決ハ此ノ事實關係ヲ明確ニセサル結果其ノ第一事實ニ於テハ立候補届出後ノ選舉ニ關スル個々面接運動ヲナシタリト云ヒ其ノ證據理由ニ於テハ立候補前ニ個々面接運動ヲ爲シタリト云フニ在リテ其ノ矛盾セル判示ヲ爲スニ至リタルモノトス果

シテ然ラハ原判決ハ選舉届出ニ關スル事實ヲ明確(昭和十二年四月二十五日届出)ニセサルハ基本タル事實關係ヲ審理並判示セサルコトナリ結局審理不盡並理由不備ノ不法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノトスト云ヒ」同第五點ハ本件ニ付原判決ノ認メタル理由ニヨレハ「被告人ハ昭和十二年五月七日施行ノ青森縣南津輕郡尾上町町會議員選舉ニ際シ立候補ヲ爲シタルモノナルトコロ自己ノ投票ヲ得ル目的ヲ以テ第一、同年四月中旬頃同町大字高木ノ選舉人長内永治郎ニ對シ同町大字尾上五十嵐湯屋浴場内ニ於テ面接シ自己ニ投票方ヲ依頼シ第二、同年四月頃同町大字尾上ノ選舉人西谷金作ニ對シ同町金田小學校建築場ニ於テ面接シ自己ニ投票方ヲ依頼シ第三、其ノ頃同町大字李平ノ選舉人佐藤喜佐ニ對シ被告人肩書居宅ニ於テ面接シ自己ニ投票方ヲ依頼シ第四、同年四月中旬頃同町大字李平ノ選舉人成田定義ニ對シ同町内田圃ニ於テ面接シ自己ニ投票方ヲ依頼シ」云々ト判示シテ有罪ヲ斷シタリ然ルニ右事實中第一事實ニ付其ノ日私カ五十嵐湯屋ト云フ湯屋ニ行キマシタトコロ浴場ニ長内永治郎ヤ其ノ他多數人ヤ子供達カ居ツテ其ノ中ノ氏名ノ判ラナイ人カ私ニ「佐藤サン應援スルソ」ト云ヒマシタソコテ私ハ其ノ云フタ人又長内ト特ニ指シタノテハアリマセンカ冗談交リノ話ニ「御願ヒシマス」ト云フタノテアリマス(記錄九一丁參照)其ノ後同人カ私方ニ私ヲ訪ネテ來テ「貴方ニ入レマス」ト云フタノテアリマスソコテ私ハ「今ハ喧シイカラ早ク歸ツテ吳レ」ト云フタノテアリマス(記錄九二丁參照)(記錄五一、二丁參照)第二事實ニ付問其ノ際西谷金作ニ對シ自己ニ投票方ヲ依頼シタカ答依

頼シマシタ然シソレハ私カラ頼ンタノテハナク同人カラ「貴方ニ入レマス」ト云ハレタノテ私カ「御願ヒシマス」ト云フタノテアリマス（記録九四丁参照）（記録五二丁参照）第三事實ニ付問其ノ頃被告人人居宅テ佐藤喜佐ト會ヒ同人ニモ前同様依頼シタカ答左様テス依頼シマシタ然シソレモ同人カラ「貴方カ立ツナラ應援シテ入レルカラ」ト云ハレタノテ私ハ「宜シク御願ヒシマス」ト云フタノテス（記録九五丁参照）（記録五三丁参照）第四事實ニ付問同月中旬頃成田定義ト同町田圃テ會ツタカ答會ヒマシタ其ノ日私ハ同人ト同町田圃苗代テ一緒ニナリマシタ問其ノ際同人ニモ前同様依頼シタカ答頼ミマシタソレモ同人カラ「應援スル」ト云ハレタノテ私ハ「宜シク頼ミマス」ト云フタノテアリマス（記録九六丁参照）（記録五四丁参照）以上ノ事實竝證據ノ關係ニヨルトキハ被告人ヨリ特ニ個々面接ヲ求メタルモノニアラサルコトノ顯著ナル事由アルノミナラス各選舉人ト偶然面接シ相手方ヨリ應援スヘシトノコトナリ而シテ地方ニ於ケル選舉ノ如キハ其ノ地域狹隘ニシテ相當ノ地位ニアルモノカ立候補スレハ顔見知りノ者多ク浴場ニ於テ道路ニ於テ將又田圃ニ於テ何レノ場所ニ於テモ立候補ヲ爲スカ如キ者ヲ見レハ直ニ應援スヘシト云フカ如キハ其ノ地方ノ慣習トシテ之ヲ絶止スルニ由ナキモノニシテ此ノ點都會ト異リ又人情ノ美點トシテ賞讃スヘキモノナリト信ス從テ應援スヘシトノ言辭ニ對シ「勝手ニセヨ」トノ暴言モ出來ス社交的辭令トシテ「御願イタシマス」ハ尤モ相當ニシテ選舉法カスルコト迄モ禁止シ美俗ヲ破壊スルカ如キ事ヲ目的トシテ制定セラレタルモノニアラス然ラハ原判決ハ此ノ

選舉人ヨリ候補者ニ對シテ申出テタル言葉ニ對スル社交的義禮ノ言辭ヲ捕ヘテ直ニ選舉違反ノ事實アリトスル原判決ハ事實誤認ノ顯著ナル事由アルノミナラス罪トナラサル事實ニ對シ有罪ヲ斷シタル不法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在レトモ

原判示事實ハ原判決舉示ノ證據ニ徴シ孰レモ之ヲ證明スルニ足り被告人カ判示ノ如ク個々面接ノ犯行ニ及ヒタルコト明瞭ナルノミナラス記録ヲ查スルモ右事實ノ認定ニ重大ナル誤謬アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由存スルコトナシ而シテ所論衆議院議員選舉法第九十五條ノ二ハ町村制ノ準用セサルトコロナルヲ以テ町會議員選舉罰則違反タル本件個々面接罪ニ於テハ其ノ連續シタル各所爲ノ一部カ立候補届出ノ前後孰レナルカハ其ノ罪質又ハ法ノ適用ニ關シ何等消長アルコトナシ從テ所論各所爲カ判示ノ目的ニ出テタル以上立候補ノ前後孰レナリシヤハ必スシモ之ヲ判示スルノ要ナキモノトス原判決亦此ノ意味ニ於テ被告人ノ立候補ノ事實ヲ判示スルニ止マリ其ノ時期又ハ之ト個々面接罪ノ各所爲トノ前後如何ニ付敢テ判示セサリシモノニシテ原判決ニハ所論理由齟齬ノ主張ヲ容ルルノ餘地ナキハ勿論理由不備事實誤認等何等ノ違法アルコトナシ論旨孰レモ理由ナシ（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事有安堅三關與

○區會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和十二年(九)第一二八五號 同年十一月三十日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 小田 治 敬 辯護人 齋藤 昌 司

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京刑事地方裁判所

○判示事項

選舉委員ト勞務者トノ兼任

○判決要旨

選舉委員ハ之ヲ勞務者ニ選任スルコトヲ得サルモノトス

【參照】 衆議院議員選舉法第九十三條 選舉委員ハ議員候補者一人ニ付二十人ヲ超ユルコトヲ得ス其ノ異同アリタル場合ト雖モ通シテ五十人ヲ超ユルコトヲ得ス 選舉ノ一部無効ト爲リ更ニ選舉ヲ行フ場合又ハ第三十七條ノ規定ニ依リ投票ヲ行フ場合ニ於テハ選舉委員ハ前項ノ規定ニ依ル定數ヲ超エサル範圍内ニ於テ地方長

官(東京府ニ在リテハ警視總監)ノ定メタル數ヲ超ユルコトヲ得ス

地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)前項ノ規定ニ依リ選舉委員ノ數ヲ定メタル場合ニ於テハ選舉ノ期日ノ告示アリタル後直ニ之ヲ告示スヘシ

同法第九十三條ノ二 第八十九條第一項ノ規定ニ依リ選任スル勞務者ハ議員候補者一人一日ニ付三十人ヲ超ユルコトヲ得ス前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ勞務者ニ關シ之ヲ準用ス

同法第九十六條 議員候補者、選舉事務長又ハ選舉委員ニ非サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

第八十九條第一項ノ規定ニ依リ選任セラレタル勞務者ニ非サレハ選舉運動ノ爲勞務ヲ提供スルコトヲ得ス但シ議員候補者ト同居スル親族、家族及常備ノ使用人ハ此ノ限ニアラス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金三十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス被告人ヨリ金十五圓ヲ追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人田中彌之次ハ昭和十一年十一月二十七日施行セラレタル東京市豊島區區會議員選舉ニ際シ同年九月頃ヨリ議員候補者タランコトヲ決意シ同年十一月六日立候補ノ届出ヲ爲シ同日自ラ其ノ選舉事務長ト爲リタルモノ被告人西村友選舉委員ト勞務者トノ兼任

馬同香川四郎ハ同年九月中旬頃被告人田中彌之次ヨリ同被告人ノ爲選舉運動ヲ爲スヘキコトノ依頼ヲ受ケ被告人香川四郎ハ同年十一月六日其ノ選舉委員ト爲リタルモノナルトコロ
第一 被告人田中彌之次ハ

(中略)

(二) 右選舉終了後自己ノ爲選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬トシテ

(中略)

(ハ) 選舉委員タリシ被告人小田治教ニ對シ同月三十日頃自宅ニ於テ金十五圓ヲ供與シ

(中略)

第五 被告人小田治教ハ同年十一月十一日頃被告人田中彌之次ノ選舉委員トナリタルモノナルトコロ被告人田中彌之次ヨリ第一ノ(二)(ハ)記載ノ日時場所ニ於テ同記載ノ趣旨ヲ諒承シテ金十五圓ノ供與ヲ受ケタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ市制第四十條衆議院議員選舉法第一百二十二條第一項第四號ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金三十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第八條ニ則リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク被告人ノ收受シタル利益ハ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ市制第四十條衆議院議員選舉法第一百四條後段ニ則リ其ノ價額タル主文末項掲記ノ金額ヲ被告人ヨリ追徴スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人齋藤昌司上告趣意書第一點原判決ハ其ノ理由ニ於テ「被告人小田治教ハ同年(昭和十一年)十一月十一日頃被告人田中彌之次ノ選舉委員トナリタルトコロ」ト判示シタリト雖モ上告人カ昭和十一年十一月十一日頃田中彌之次ノ選舉委員ノ届出ヲ爲シタル事實ハ何等ノ爭ナキ事實ニシテ上告人カ田中彌之次ノ選舉委員トナリタルノミニシテ上告人カ田中彌之次ノ勞務者トナリ又ハ選舉後ノ殘務整理ヲ爲シタルヤ否ヤニ就テハ何等言及スルトコロナク上告人カ選舉委員タルノ事實ノミヲ確定シタルハ事實ノ片鱗ヲ捉ヘテ重大ナル誤認ニ没入シタルノ不法アリ選舉委員カ勞務者ヲ兼任シ得ルノ法理ハ市制ニ準用セラルル衆議院議員選舉法ノ解釋上異論ヲ聞カサルトコロニシテ「司法省行刑局編纂衆議院議員選舉法輯覽第一一頁ニ選舉委員又ハ選舉事務員カ同一議員候補者ノ選舉委員又ハ選舉事務員ヲ兼ヌルコトハ法ノ禁スル處ニ非ス云々(内務省合議)又(問)議員候補者甲ノ選舉事務長選舉委員又ハ選舉事務員ハ議員候補者乙ノ選舉事務長選舉委員又ハ選舉事務員ヲ兼ヌルコトヲ得ルヤ(名古屋檢事長問合)(答)積極ニ解ス」本件ニ就テ之ヲ見レハ上告人カ選舉委員ノミナルヤ將又選舉委員ト勞務者トヲ兼任セルヤ或ハ選舉後ノ殘務整理ヲ爲セルヤハ重大ナル處斷ノ岐路ニシテ上告人カ選舉委員選任ノ届出ヲ爲サレタル事實ヲ目シテ之ヲ選舉委員ニノミ確定セサルヘカラサルカ如キ偏見ニ膠著スルハ重大ナル誤認ニシテ原判決ノ援用セル「被告人小田治教ニ對スル檢事ノ聽取書(記録三五五丁以下)

選舉委員ト勞務者トノ兼任

中同被告人ノ供述トシテ(中略)田中彌之次ノ選舉委員トシテ同月十一日届出ヲ爲シ云々」及「被告人田中彌之次ノ當公廷ニ於ケル(中略)自ラ選舉事務長トナリタルカ(中略)右選舉ニ際シ自分ハ同人ヲ自分ノ勞務者ニ選任シタルコトナシ」ナル證據ニヨレハ一見上告人ハ選舉委員ノミニシテ勞務者トシテ選任セラレタルノ事實ヲ窺フノ餘地ナキカ如シト雖モ凡ソ勞務者ノ選任ナルモノカ選舉事務長ノ專權ニ屬シ選舉委員カ勞務者ヲ選任スルコト不可能ナル法令ノ下ニ於テハ原判決ノ判斷ハ寔ニ當ヲ得タルノ榮譽ヲ擔ヒ得ヘキモ選舉委員カ許サレタル權限ニ於テ隨時隨所ニ勞務者ヲ選任シ得ヘキ現行法ノ下ニ於テハ候補者田中彌之次カ上告人ヲ勞務者トシテ選任シタル事實ナキコトト上告人カ選舉委員ノ届出ヲ爲サレタル事實ノミヲ捉ヘテ上告人カ選舉委員ノミニシテ勞務者ニアラスト斷シ得サルハ極メテ明白ナル事理ニシテ原判決ハ先ツ此ノ點ニ於ケル法律ノ解釋ニ於テ重大ナル錯誤ニ陥入り仍テ以テ重大ナル事實ノ誤認ヲ惹起シタル次第ニシテ上告人カ第一審以來主張スル選舉委員ノ名稱ヲ冠シタル(選舉費用ノ公表ヲ少カラシムル爲)勞務者(此ノ點ニ就テハ選舉委員ト勞務者トヲ兼任シタル者ト見ルモ所論ニ影響ナシ)タルノ事實ハ法律上可能ニシテ又真正銘ノ事實ナルニ拘ラス原判決カ上告人カ選舉委員ノ届出ヲ爲サレタル事實及田中彌之次カ事務長トシテ上告人ヲ勞務者ニ選任シタルコトナキ旨ノ供述ノミヲ捉ヘ(前示法律解釋ノ錯誤ト相待チ上告人カ選舉委員ノ届出ヲ爲シタルト同時ニ勞務者タリシ事實ヲ看過シタルハ推理ノ依據ノ衡平ヲ缺キテ其ノ歸納ヲ誤リ重大ナル事實ノ誤認ヲ

【要旨】

爲シ以テ法律ノ適用ヲ誤リタルモノト云フヘシト謂フニアリ
 仍テ案ズルニ、第一點、原判決ハ被告人ガ東京市豊島區區會議員選舉ニ際シ議員候補者田中彌之次ノ爲昭和十一年十一月二十七日頃選舉委員ニ選任セラレタル事實ヲ認定シタルコト所論ノ如クナルヲ以テ、其ノ當然ノ結果トシテ、被告人ハ當時同候補者ノ勞務者ト爲ラザリシコト明ナリ、蓋市制第三十五條ノ二ニ依リ準用セララルル衆議院議員選舉法第九十三條、第九十三條ノ二、第九十六條ハ、改正前ノ同法第九十三條、第九十六條ト異ナリ、選舉委員ト勞務者ノ法定制限數ヲ各別ニ規定シタル上、選舉委員ハアラユル選舉運動ヲ爲シ得ルモノト爲シタルニ對シ、勞務者ハ議員候補者、選舉事務長又ハ選舉委員ニ隸屬シテ選舉運動ノ爲機械的勞務ニノミ從事スルモノト爲シタルヲ以テ、選舉委員ハ更ニ勞務者トシテ選任セララルベキ何等ノ實益ナク、兩者ヲ兼ネシムルカ如キハ、其ノ兩者ヲ區別シテ認メタル改正法ノ趣旨ニ反スルモノナレハナリ、所論ノ解釋ハ、改正前ノ衆議院議員選舉法第九十六條ニ於ケル選舉委員ト選舉事務員トノ關係ニ付テハ正當ナルモ、右ハ改正後ノ同條ニ於ケル選舉委員ト勞務者トノ關係ト同一視シ得ベキニアラザルヲ以テ本件ニ適切ナラズ、又論旨ハ選舉委員モ亦勞務者ヲ選任スルコトヲ得ルガ如ク主張スレドモ、選舉運動ノ爲使用スル勞務者ハ、選舉事務長ニ非ザレハ選任スルコト能ハザルコト、市制第三十九條ノ二ニ依リ準用セララルル衆議院議員選舉法第八十九條第一項ノ規定スルトコロナレバ、該主張ハ固ヨリ採用ノ限ニアラズ其ノ他、記録ヲ精査スルモ、原判決ガ

被告人ノ選舉委員ニ選任セラレタル事實ヲ認定シタルコトニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ル顯著ナル事由ナク、畢竟被告人ガ勞務者ニ選任セラレタリトスル所論ハ理由ナキコト明白ナレバ論旨ハ理由ナキモノトス。(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事徳江治之助關與

○和歌山縣令漁業取締規則違反被告事件 (昭和十二年(九)第一八六七號 同年十二月二日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 高木政吉 辯護人

菊池邦三
鈴木喜三郎
石川忠

【第一審】 下田區裁判所 【第二審】 靜岡地方裁判所

○判示事項

和歌山縣漁業取締規則ノ效力ノ範圍

○判決要旨

和歌山縣漁業取締規則ノ效力ハ同縣知事力從來取締竝監督ヲ爲シ來リタル海面ニ及フモノトス

【參照】 和歌山縣漁業取締規則第一條 左ニ掲クル漁業ヲ爲サントスル者ハ知事ノ許可ヲ受クヘシ但シ專用漁業權又ハ入漁權ニ依リテ漁業ヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス

- 一 巾着網漁業及揚繰網漁業
- 二 罾網漁業
- 三 鰯卷網漁業及燈籠旋網漁業
- 四 鱈、鯉、鯖、鮓、秋刀魚各流網漁業
- 五 打瀬網漁業
- 六 桁網漁業(貝卷網ヲ含ム)
- 七 手繰網漁業(方言瀬戸曳網)
- 八 鯛、魷各五智網漁業
- 九 蟹、雜魚各漕網漁業
- 十 飼取網漁業
- 十一 火元ヲ利用スル網漁業
- 十二 鵜飼漁業
- 十三 鵜繩抄網漁業(方言ウカリ形網又ハウナリ網)
- 十四 卷川漁業

和歌山縣漁業取締規則ノ效力ノ範圍

- 十五 瀬張網漁業(定置漁業ニ該當セサルモノ)
 - 十六 動力附船舶ニ依リテ爲ス船曳網漁業(特別漁業ニ該當セサルモノ)
- 同法第三十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留ニ處ス
- 一 第一條第十六條第二十條及第二十一條ノ規定ニ違反シタル者
 - 二 許可ヲ受ケタル漁業ノ場所又ハ漁業ノ時期ニ違反シテ漁業ヲ爲シタル者
 - 三 鑑札面ニ記載ナキ船舶ニ依リ漁業ヲナシタル者

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金三十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス被告人ヨリ金二百七十八圓三十錢ヲ追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ和歌山縣知事ノ許可ヲ受ケテシテ昭和十一年十一月十九日頃ヨリ同年十二月一日頃マテノ間犯意ヲ繼續シテ數回ニ互リ和歌山縣東牟婁郡勝浦町地先ノ沖合海面及同郡大島ノ沖合海面ニ於テ秋刀魚流網七十六帖ヲ使用シテ秋刀魚流網漁業ヲ爲シ因テ合計金二百七十八圓三十錢相當ノ秋刀魚ヲ採捕シタルモノナリ

被告人竝辯護人ハ本件流網漁業ノ操業場所ハ所謂公海上ニシテ和歌山縣漁業取締規則ノ效力ノ及フヘキ區域外ニ在ル旨辯疏スレトモ右漁業取締規則ノ效力ノ及フヘキ海面上ノ範圍ハ他ニ格段ナル事情ノ認ムヘキモノナキ限リ和歌山縣ノ管轄地先ニ於ケル海面ニシテ當該取締官廳タル和歌山縣知事カ取締若クハ監督ニ關スル實力ヲ行使シ得ヘキ區域ニ及フモノト解スルヲ相當トシ其ノ所謂「地先海面」ノ領海ナルト公海ナルト間ハサルモノト謂フヘク而モ帝國臣民タル限リ右區域ニ於ケル操業者ハ總テ其ノ適用ヲ受クヘキモノト解セサルヘカラス而シテ判示操業場所カ何レモ和歌

山縣ノ管轄地先海面ニシテ從來同縣知事カ取締乃至監督ノ實力ヲ行使シ居リタル區域ニ屬スルコトハ前段舉示ノ各證據殊ニ石原秀雄ニ對スル檢事聽取書ニ於ケル供述記載ニ依リ明瞭ナルヲ以テ右辯疏ハ之ヲ採用スルニ由ナシ

法律ニ照スニ被告人ノ右所爲ハ和歌山縣漁業取締規則第一條第四號第三十條第一號刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ罰金刑ヲ選擇シ其ノ刑ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金三十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間同被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク判示操業ニ因リ採捕シタル秋刀魚ハ犯人ノ所有ニ歸シタル漁獲物ニシテ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ前示漁業取締規則第三十二條ニ依リ其ノ價格二百七十八圓三十錢ヲ追徴スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人菊地邦三、鈴木喜三郎、石川忠上告趣意書第一點ハ原判決ハ罰スヘカラサル行爲ニ付不當ニ法令ヲ適用處斷シタル違法アリ即原裁判所ハ本件被告人ノ犯罪事實ヲ認定スルニ付和歌山縣漁業監視吏員石原秀雄ニ對スル檢事聽取書中「私ハ昭和十一年十一月二十一日以來和歌山縣漁業取締吏員トナリ同縣ノ漁業取締船紀の國丸船長トシテ漁業取締ノ任ニ當リ居ルモノナルカ昨年(昭和十一年)十二月二日西牟婁郡潮岬ノ沖合海上ニ於テ高木政吉ヲ責任者トスル春日丸ヲ取調ヘタルニ(中略)私ハ同人ノ指示ト春日丸ノ速力漁獲物ヲ勝浦港ニ陸揚セル時刻等ヲ考慮シテ其ノ操業場所ヲ勝浦港沖合約八哩

ノ海上ナリト認メタリ(後略)云々トアル供述記載ヲ證據トシテ援用シ(記録一四七丁表五行目以下)本件行爲カ帝國領海内ニ非スシテ公海ニ於テ遂行セラレタル事實ヲ確認シ乍ラ他面ニ於テ「被告人竝辯護人ハ本件流網漁業ノ操業場所ハ所謂公海上ニシテ和歌山縣漁業取締規則ノ效力ノ及フヘキ區域外ニ在ル旨辯疏スレトモ右漁業取締規則ノ效力ノ及フヘキ海面上ノ範圍ハ他ニ格別ナル事情ノ認ムヘキモノナキ限り和歌山縣ノ管轄地先ニ於ケル海面ニシテ當該取締官廳タル和歌山縣知事カ取締若クハ監督ニ關スル實力ヲ行使シ得ヘキ區域ニ及フモノト解スルヲ相當トシ其ノ所謂「地先海面」ノ領海ナルト公海ナルトヲ問ハサルモノト謂フヘク而カモ帝國臣民タル限り右區域ニ於ケル操業者ハ總テ其ノ適用ヲ受クヘキモノト解セサルヘカラス(記録一四八丁裏二行目以下)ト判示シテ此ノ點ニ關スル被告人及辯護人ノ主張ヲ排斥シタリ然レトモ這ハ縣令タル和歌山縣漁業取締規則ノ適用範圍ヲ誤解シ罰スヘカラサル行爲ニ對シ不當ニ擴張適用シタルモノニシテ違法ナル判斷ト言ハサルヘカラス今公海上ニアル船舶ニ付考覈スルニ公海ニ於テハ國際法上公海自由ノ原則アリト雖這ハ一國カ公海上ニアル自國船舶ニ對シ規制スルコトヲ許ササル意味ニアラサルコト明瞭ニシテ之ニ對シ一定ノ義務ヲ課シ取締ヲ爲スヲ得ルコト固ヨリ當然ナレハ右ノ範圍ニ適用スヘキ旨明定シタル法律ニ基キ之ヲ罰スル處罰法令ヲ設クルコト固ヨリ有效適法ナリト謂フヘク昭和七年七月二十一日御院判決(大審院刑事判例集第十一卷一一二四頁以下御參照)ハ實ニ此ノ趣旨ヲ闡明シタルモノニシテ又昭和八年八月十二日農林

省令第十六號秋刀魚漁業ノ制限ニ關スル件第一條ニ「オホーツク海及日本海ヲ除ク北緯三十四度五十四分(野島崎燈臺ヲ通過スル緯度)以北ノ大平洋ニ於テハ七月一日ヨリ九月二十日迄流網刺網又ハ旋網ヲ使用シテ秋刀魚漁業ヲ爲スコトヲ得ス」ト規定シ同第二條ニ「前條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス云々」ト規定セルハ公海タルト領海内タルトヲ區別セス處罰スル趣旨ナルヘク其ノ處罰ノ適法ナルコトハ前述ノ如シ夫レ然リト雖右ハ當該法令カ法律勅令又ハ省令ノ形式ヲ以テ公布セラレ其ノ適用セラルル地域的範圍ニ付テ無制限ノ廣キ推定ヲ受クル結果刑法第一條第二項同第八條ノ規定ニ基キテ然ルモノニシテ反之若シ處罰規則ニシテ府縣令應令ノ形式ヲ採ル結果其ノ適用セラルル地域的範圍カ國內ノ一部分ニ限定セラルルカ如キ場合ニ於テハ自ラ別論ナラサルヘカラス(此ノ點ニ付原審公判ニ於テ檢事カ和歌山縣漁業取締規則ハ刑法第一條第二項及第八條ノ規定ニヨリ公海ニモ適用アル旨陳述シ居ルハ(記録一四二丁表四行目以下)明ニ謬テアリ若シ論旨ノ如クンハ和歌山縣漁業取締規則ハ地先海面タルト否トヲ問ハス普ク帝國外ニ在ル帝國船舶内ニ悉ク適用セラルルコトト解スルノ外ナキニ至ルヲ以テナリ)之ヲ換言スレハ府縣令カ公海上ニアル船舶ニモ適用アリト言ハシカ爲ニハ公海上ノ該地域カ府縣知事ノ本來ノ管轄區域即府縣ノ區域ニ屬スルカ然ラスンハ府縣知事ハ其ノ發スル命令ノ效力ヲ自己ノ權限ニ於テ其ノ管轄地域外ニ及ホシ得サルヲ以テ中央官廳ノ特別ノ委任ニヨリ該府縣令ノ效力ヲ府縣外ノ地域タル公海上ニ及ホシ得ル場合ナラサルヘカラス而シテ今府縣

ノ區域ハ公海上ニ及ヒ得ルヤ否ヤヲ按スルニ府縣制第一條ニハ「府縣ハ從來ノ區域ニ依リ市町村及島嶼ヲ包括ス」トアルノミニテ直接ニ右ノ疑問ヲ解決スルニ由ナク地先水面カ如何ナル範圍ニ於テ該府縣ニ屬スルヤヲ知ルヲ得スト雖固ト府縣ノ區域タルヤ帝國領土上ニ區劃ヲ設ケタルコト自明ニシテ尠クトモ公海カ府縣區域ニ屬スルコトヲ得サルハ法律常識ノ容易ニ認ムル所ナラスンハアラス果シテ然ラハ結局府縣令カ府縣知事ノ本來ノ管轄區域外タル公海上ニモ適用ヲ見出サンカ爲ニハ中央官廳ノ特別ノ命令ヲ要スヘキコト恰モ一府縣知事ノ發シタル府縣令其ノ他行政處分カ隣接府縣ノ區域内ニモ效力ヲ及ホサントスル場合ト同斷ナリト言フニ歸スヘキモノナリ(例ヘハ明治二十八年三月十三日法律第十四號質屋取締法第十八條第一項ニ「質屋法律命令ニ違反シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止又ハ停止スルコトヲ得」ト規定シ同第二項ニ「禁止及停止ノ效力ハ全國ニ及フ」ト規定セル場合ノ如シ)然リ而シテ明治四十三年四月二十日法律第五十八號漁業法及昭和八年八月十二日農林省令第十六號秋刀魚漁業ノ制限ニ關スル件ヲ綜合シテ自由漁業ナルコトヲ推知シ得ル秋刀魚流網漁業ニ付和歌山縣知事カ縣令ヲ以テ之ヲ許可漁業ト爲シ得ル所以ノモノハ前述漁業法第三十四條ノ委任ノ趣旨ニ基カスンハアラス然ラハ右第三十四條中ニ本委任ニ基キテ地方長官ノ發スル命令ヲ府縣區域外ニ及ホシ得ヘキ趣旨ノ規定ナキ本件ノ場合ニ於テ和歌山縣ノ區域外タル公海ニ於テ秋刀魚流網漁業ヲ爲シタル被告人ニ右和歌山縣漁業取締規則ノ條規ヲ適用セントスルハ違法ニ非スシテ何ソヤ若シ秋

刀魚流網漁業ヲ禁止シタル和歌山縣令ニシテ當然ニ其ノ地先海面タル公海ニ及ヒ得ルト言ハンカ秋刀魚流網漁業ヲ禁止セサル大正十三年九月四日靜岡縣漁業取締規則モ亦其ノ地先海面タル公海ニ屬スル和歌山縣東牟婁郡勝浦町八湊ノ沖ニモ適用アリト言ハサルヘカラサルコトトナリ結局水掛論ニ終ルノ外ナカラン然ルニ原判決ハ其ノ主張ヲ辯明シテ前記ノ如ク「右漁業取締規則ノ效力ノ及フヘキ海面上ノ範圍ハ他ニ格別ナル事情ノ認ムヘキモノナキ限リ和歌山縣ノ管轄地先ニ於ケル海面ニシテ當該取締官廳タル和歌山縣知事カ取締若ハ監督ニ關スル實力ヲ行使シ得ヘキ區域ニ及フモノト解スルヲ相當トシ其ノ所謂「地先海面」ノ領海ナルト公海ナルトヲ問ハサルモノト謂フヘク云々(記錄第一四八丁裏四行目以下)ト判示シ「判示操業場所カ何レモ和歌山縣ノ管轄地先海面ニシテ從來同縣知事カ取締乃至監督ノ實力ヲ行使シ居リタル區域ニ屬スル」ヲ以テ本取締規則ノ效力モ亦本件操業場所ニ及フ旨說示スレトモ(記錄第一四九丁裏一行目以下)這ハ甚シキ謬論ト言ハサルヘカラス夫レ和歌山縣知事カ漁業取締官廳トシテ取締若ハ監督ニ關スル實力ヲ行使スルハ恣意的ニ斯クスルモノナリヤ法令ニ根據ヲ有シテ然ルモノナリヤ其ノ本來ノ管轄區域外ニ於テ法令ニ基カスシテ實力ヲ行使スルハ暴力ノミ何ソ之ニ基キテ縣令ノ及フヘキ範圍ヲ定ムルヲ得ンヤ却テ縣令タル本規則ノ地域的適用範圍ニ於テコソ初メテ適法ニ其ノ實力ヲ行使シ得ルニアラスヤ即實力ノ行使アルカ故ニ命令ノ適用アルニ非スシテ逆ニ命令ノ適用アルカ故ニ實力ヲ行使シ得ルモノナラサルヘカラス原判決ノ言フカ如キハ本末ヲ顛倒セル

議論ニシテ同義語反覆ノミ之ヲ要スルニ原判決中ニ認定セラレタル如キ被告人ノ行爲ハ未タ以テ和歌山縣令和歌山縣漁業取締規則ヲ適用シ罰スヘキ行爲ニアラス之ヲ適用アリトシテ罰シタル原判決ハ不當ニ處罰法令ヲ適用シタル違法ノ裁判ナリ又假リニ原判決ノ趣旨ニシテ本件行爲カ和歌山縣ノ地先タル帝國領海内ニ於テ行ハレタリト認定スルノ趣旨ナリトセンカ前述ノ如ク其ノ引用セル證據(石原秀雄ニ對スル檢事聽取書)自體齟齬セルモノニシテ判決ノ理由ニ齟齬アルモノニアラスンハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノナルヘク何レニセヨ破毀ヲ免レサルモノト信スル次第ナリト云ヒ」同第二點ハ原判決ハ法令ノ明文ニ依ラスシテ被告人ノ行爲ヲ處罰シタル違法ノ裁判ナリ即原裁判所カ被告人ノ本件行爲ヲ處罰スルニ當リ適用法條トシテ引用シ居ル和歌山縣漁業取締規則ノ適用セラレル地域の範圍ハ本件行爲ノ行ハレタル和歌山縣東牟婁郡勝浦港沖合八湮ノ地點ニハ及ハサルモノナルコト隨ツテ本件行爲ニ對シ右縣令ヲ適用シタルハ刑罰法令ノ適用ヲ誤リタル違法アルモノナルコトハ曩ニ第一點ニ於テ縷述シタル處ナルカ假リニ百歩ヲ讓リテ本規則ノ效力ヲ和歌山縣ノ地先海面タル公海ニ及フモノトスルモ猶本規則中ノ罰則タル第三十條以下ノ規定ヲ濫リニ本件ノ如キ場合ニ適用シ得ルヤ否ヤハ自ラ別論ニシテ此ノ點ニ於テモ亦原判決ニハ破毀セラルヘキ違法アルモノト言ハサルヘカラス抑モ我國法上處罰ニ關シテハ一面ニ於テ帝國憲法第二十三條カ日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシト規定シ凡ソ處罰ト名ノ付クヘキモノハ所

謂刑罰タルト行政罰タルトヲ問ハス普ク帝國議會ノ協贊ヲ經タル成文法律ノ明文ニ基礎アリテ始メテ處罰權限アルモノナルコトヲ闡明シ臣民カ處罰ニ名ヲ藉リテ不當不法ニ權利利益ヲ侵害セラレザランコトヲ保シ如何ニ輕微ナル場合ニ於テモ處罰ヲ忽ニセザランコトヲ保障シタルアリ又他面ニ於テハ舊刑法時代ヨリ罪刑法定主義ノ原則カ明文ヲ以テ規定セラレ凡ソ帝國臣民ハ法令ニ明文ヲ以テ罰條ノ規定セラレタルモノアルニ非スンハ單純ニ道德上非議セラルヘキ行爲ト雖之ヲ以テ處罰ノ理由ト爲サルルコトナキ旨保障サレタリ現行刑法中ニハ右原則ノ明定セラレルモノナシト雖前述憲法ノ明文ニ照シ又刑事訴訟法第三百六十條カ有罪判決ヲ爲スニ當リ處罰法令ノ適用セラレタルモノヲ舉示スヘキ旨要求シ居ルニ徴シ本原則ノ行ハルルコト之ヲ何人モ疑ハス學者ノ指稱シテ「刑法ハ被告人ノマガナカタルタナリ」ト謂フ所以ノモノ又此ノ點ニ歸スヘク憲法發布以後ノ我刑事裁判史上單ナル道德感情ニヨリ又ハ單ナル慣習條理ニヨリテ處罰セラレタル事例ハ未タ一モ聞カサル所ナリ然ラハ進ンテ一行爲ヲ處罰スル法條アリト言ハンカ爲ニハ如何ナル要件ヲ要スルヤト言フニ當該行爲ヲ可罰行爲ナリト定ムル法令ノ明文アルヲ要スルハ其ノ第一ナリ右法令ノ罰條カ具體の場合ノ當該行爲ニ對シ人的ニ又ハ地域的ニ適用ヲ有スル旨明定セラレアルコトハ第二ナリ換言スレハ一被告人ノ行爲ニ對スル處罰カ適法ナリト言ハンカ爲ニハ罰條ト其ノ適用範圍トカ成文ヲ以テ明定セラレ當該案件カ之ニ該當スル場合ナルコトヲ要スルカ故ニ今當該行爲ヲ罰スヘキ法令ノ明規アリト雖右法令ノ適用範圍ノ明規ナキ場合ニ

於テハ該法令ハ有リテ無キニ同シク之ヲ適用スルニ由ナキヲ以テ竟ニ當該行爲ハ之ヲ罰スル能ハサルニ歸スヘク此ノ理ハ當該法令中ノ罰則ヲ除キタル他ノ條規ノ效力如何トハ凡ソ峻別シテ之ヲ考覈スヘキモノナラスンハアラス之ヲ要スルニ當該法令中處罰ニ關セサル條規ノ適用範圍ニ付明文ナキ場合ニ於テハ其ノ適用ノ有無ヲ或ハ慣行ヲ以テ定メ或ハ關係官廳ノ協議ヲ以テ定メテ不可ナキ場合アリトセシム事苟クモ處罰ニ關スル限リ斯ノ如キコトハ法ノ許容スル處ニ非ス若シ萬一斯ノ如キコトノ許サレルトセンカ罪刑法定主義ノ原則ハ根本ヨリ崩壞スルコトナルヘシ翻テ本件ノ場合ヲ見ルニ原判決ノ引用スル和歌山縣漁業取締規則カ其ノ第一條第四號ニ於テ秋刀魚流網漁業ヲ以テ知事ノ許可ヲ要スルモノト爲シ其ノ第三十條第一號ニ於テ第一條ノ規定ニ違背シタル者ニ對シ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留ヲ規定シ居ルコトマコトニ判示ノ如シト雖然ラハ本縣令ノ適用セラルル地域的範圍ハ如何ト言フニ第一點ニ於テ既ニ屢々述ヘタル如ク其ノ範圍カ和歌山縣知事ノ本來ノ管轄區域タル和歌山縣内ニ凡テ及フコトハ之ヲ肯クニ足ルモ更ニ進ンテ右縣令カ同縣地先ノ公海タル海面ニ及フト斷スル場合ニ於テハ其ノ如何ナル範圍ニ於テ之カ及フモノナルヤハ原判決ニ引用セラレタル右縣令ノ各條規ノ何等規定スル處ニアラサルノミナラス其ノ他右取締規則ノ基礎法タル漁業法中ニモ何等之ヲ推知スヘキ規定ヲ見出スニ由ナク原判決中ニ舉示セラレタル全證據ニヨルモ其ノ適用範圍ヲ明定シタル法令アルコトヲ知ルヲ得ス尤モ原判決中ニ「右漁業取締規則ノ效力ノ及フヘキ海面上ノ範圍ハ他ニ格別ナル事情ノ認ム

ヘキモノナキ限リ和歌山縣ノ管轄地先ニ於ケル海面ニシテ當該取締官廳タル和歌山縣知事カ取締若クハ監督ニ關スル實力ヲ行使シ得ヘキ區域ニ及フモノト解スルヲ相當トシ其ノ所謂「地先海面」ノ領海ナルト公海ナルトヲ問ハサルモノト謂フヘク云々」ノ判示アルモ地先海面ノ概念自體曖昧模糊タルヲ免レサルノミナラス第一點ニモ論述シタル如ク和歌山縣知事カ取締若クハ監督ニ關スル實力ヲ行使シ得ヘキ區域ト言フカ如キハ本末顛倒ノ議論ニシテ結局問ヲ以テ問ニ答ヘタルモノ右取締規則ノ適用範圍ニ付具體的ニ何モノヲモ説明シタリト言フヲ得ス更ニ處罰法令ノ適用範圍ヲ定ムルニ法令ノ明文ヲ舉示スルコトナク漫然「實力ヲ行使シ居リタル區域ニ屬スル」ヲ以テ適用範圍内ニ屬スト爲スカ如キハ罪刑法定主義ノ趣旨ニ悖リ憲法ノ條規ニ反スルコト太シキモノニシテ斯ノ如クンハ和歌山縣管轄地先ノ公海ニ於テ漁業ヲ爲スモノハ其ノ遠近ヲ問ハス法令ノ遵守スヘキモノニ迷フヘク今後安ンシテ其ノ生業ヲ營ムヲ得サルニ至ルヲ如何セントスルモノナリヤ辯護人ノ憂慮措ク能ハスト爲ス所以ノモノ亦實ニ茲ニ存スルオヤ(原審公判被告人訊問中ニ被告人ハ「極ク近イ所テ岸カラ八哩遠イ所テハ二十哩沖合テ漁ヲシタノテアツテ岸ニ近イ所テ漁ヲシタコトハアリマセヌ」ト陳述シ居レリ(記録第一三五丁裏五行目以下)此ノ陳述ト原判旨ト彼此照合シテ見レハ和歌山縣漁業取締規則ハ二十哩三十哩ノ沖合ニモ及フトスルモノノ如ク其ノ限度ヲ窺ヒ知ルコト能ハサルニ至リテハ上述ノ憂ヒ益々深キヲ痛感セサルヲ得ス)尤モ辯護人ハ適用範圍明定サレ居ラストシテ和歌山縣漁業取締規則ノ全部ヲ排斥

スルモノニ非ス唯事處罰ニ關スル限り即其ノ罰則ニ關シテハ先ツ以テ公海上ニ於ケル適用範圍ヲ法令ノ條規ニヨリ明定スルヲ要スト主張スルモノナリ之ヲ要スルニ原裁判所ハ被告人ノ罪責ヲ追求スルノ急ナル餘リ適用範圍ノ曖昧ナル和歌山縣漁業取締規則ヲ漫然被告人ニ適用シ「疑ハシキハ被告人ノ利益ニ從フ」ノ原則ヲ無視シタルモノニシテ結局法令ノ明文ニ依ラスシテ被告人ノ行爲ヲ處罰シタルノ違法アリ然ラストスルモ適用範圍曖昧ナル本件取締規則ヲ適用スルニ當リ其ノ適用法條ヲ示ササルノ違法アルモノニシテ到底破毀ヲ免レサルモノト信スル次第ナリト云フニ在レトモ

原判示事實ニヨレハ被告人カ本件秋刀魚流網漁業ヲ爲シタル場所ハ和歌山縣東牟婁郡勝浦町地先ノ沖合海面及同郡大島ノ沖合海面ナリト判示スルノミニテ其ノ沖合何湮ノ海面ナリヤ明瞭ナラスト雖原判決ノ證據説明ニ對照スルトキハ敍上ノ海面ハ右沖合約八湮ノ海上ナリシコトヲ推認シ得ヘシ然ラハ本件和歌山縣漁業取締規則ノ效力カ右沖合約八湮ノ海上ニ及フヤ否ヤニ付案スルニ同規則カ和歌山縣管轄地先海面ニ於ケル水産動植物ノ蕃殖保護漁業者ノ利益保持漁業者間ノ利害ノ調和等ヲ圖ル目的ヲ以テ制定セラレタルモノナルコトハ同規則並其ノ基礎法タル漁業法ノ規定ニ徴シ推知シ得ヘク右立法ノ趣旨並原判決舉示ノ證據就中證人石原秀雄ニ對スル檢事聽取書ノ判示供述記載ニヨリ認め得ヘキ右沖合約八湮ノ海面ハ何レモ和歌山縣管轄地先海面ニシテ從來同縣知事カ取締若ハ監督ノ實力ヲ行使シ來リタル區域内ニ屬スル事實ヨリ考察スルトキハ右和歌山縣漁業取締規則ノ效力カ本件被告人ノ同縣知

【要旨】

事ノ許可ヲ受ケスシテ秋刀魚流網漁業ヲ爲シタル右沖合約八湮ノ海面ニ及フモノト解スルヲ相當トス既ニ右規則カ該海面ニ適用アル以上同規則中特ニ罰則規定ヲ除外スヘキ理由毫モ存在セサルヲ以テ原判決カ被告人ノ判示行爲ニ付同規則第一條第四號第三十條第一號等ヲ適用處斷シタルハ正當ナリ原判決ニ所論ノ違法ナク論旨ハ孰レモ其ノ理由ナキニ歸ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事横田麟二關與

○偽造證憑偽造偽造證憑使用教唆被告事件(昭和十二年(九)第一二五二號
同年十一月九日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 佐々木家壽治 辯護人

伊藤 三重 藤田 三秋
北村 利夫 菅野 助
鈴木 義廣 木沼 外四名

【第一審】 仙臺區裁判所 【第二審】 仙臺地方裁判所

○判示事項

家宅搜索ニ於ケル偽造證憑ノ任意提出ト偽造證憑使用罪ノ教唆
憑使用罪ノ教唆ト偽造罪ノ教唆トノ關係——共謀ニ因ル共同正犯ト
身分ニ因リ構成スヘキ犯罪——他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑偽
造力同時ニ自己ノ刑事被告事件ニ關係アル場合ト犯罪ノ成否

○判決要旨

家宅搜索ニ於ケル偽造證憑ノ任意提出ト偽造證憑使用罪ノ教唆
ト偽造罪ノ教唆トノ關係ニ關シ共謀ニ因ル共同正犯ト身分ニ因リ構成スヘキ犯罪
ト犯罪ノ成否トノ關係アル場合

一家宅搜索ヲ受ケタル際豫審判事ニ問ハレテ偽造證憑タル手形ヲ任意提出スルハ偽造證憑ノ使用罪ニ該當ス【要旨第一】

二偽造證憑使用教唆ハ當然ニ偽證教唆ヲ伴フモノニ非ス【要旨第二】

三共謀ノ事實アレハ假令實行行爲ヲ分擔セサルモ共同正犯ノ責ニ任スヘキノ理ハ偽證罪ノ如キ犯人ノ身分ニ因リテ構成スヘキ犯罪ニ付テモ異ルコトナシ【要旨第三】

四苟クモ他人ノ刑事被告事件ニ關シ證憑ヲ偽造スルニ於テハ偶々該偽造證憑力同時ニ自己ノ刑事被告事件ニ關係ヲ有スル場合アリトスルモ證憑偽造罪ノ成立ニ何等ノ消長ヲ來ササルモノトス

【要旨第四】

【參照】 刑法第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス

教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

同法第四條 他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造變造シ若クハ偽造變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

同法第六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役四月ニ處ス第一審ニ於ケル未決勾留日數中十五日ヲ右本刑ニ算入ス押收ニ係ル證第三號ノ二約束手形一通ハ之ヲ沒收ス訴訟費用ハ被告人及相被告人淺水屋ケイノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人家壽治ハ昭和十一年二月二十日施行セラレタル衆議院議員選舉ニ際シ宮城縣第一區ヨリ立候補シ當選セルモノ被告人ケイハ被告人家壽治ノ妾ニシテ肩書住居ニ於テ藝妓置屋業ヲ營メルモノ被告人淺ハ右兩名ト親シク交際アリシモノナルトコロ右選舉ニ際シ豫テ被告人家壽治ノ財政ニ與リ居タル青山松吉ニ於テ被告人家壽治ノ爲投票買收運動ヲ爲シタルコト發覺シ同月中旬頃仙臺地方裁判所古川支部檢事局ニ檢舉取調ヲ受ケタル結果同人ハ右買收運動ノ資金トシテ同年一月末頃被告人家壽治ノ選舉事務長菅井良助ヨリ金千二百圓ノ交付ヲ受ケタル旨供述セルコトヲ同月下旬頃覺知シタル被告人家壽治ハ該供述ニ因リ良助ニ於テモ亦右選舉違反被告事件ニ連座シ其ノ結果自己ノ失格ヲ招來センコトヲ憂ヘ被告人ケイト之カ對策ニ付謀議ヲ遂ケタル結果良助ニ於テ右買收資金交付ノ事實ヲ否認シ居レルト相呼應シテ該買收資金ノ出所ヲ他ニ假想シ以テ良助ヨリ之カ資金ヲ仰キタリト爲ス松吉ノ敘上供述ノ信憑力ヲ抹殺スルニ如カスト爲シ前年中松吉カ被告人家壽治ノ意ヲ受ケ被告人ケイノ爲金八百圓ヲ調達セルコトアリタルヲ奇貨トシ被告人ケイニ於テ藝妓抱入ノ費用トシテ原審被告人十吉ヨリ約束手形ヲ以テ金八百圓ヲ借受ケ所持シ居タルカ偶々松吉ヨリ右貸金辨濟方督促ヲ受ケタル結果一月下旬頃該債務ノ辨濟トシテ右八百圓ヲ松吉ニ交付セル旨事實ヲ虛構シ之ニ吻合スルカ如キ約束手形一通ヲ偽造シタル上當局ノ取調進展ニ伴ヒ被告人ケイニ於テ右虛構事實ヲ申立ツルト共ニ右十吉ヲ教唆シ同人ヲシテ右偽造手形ヲ物的證據トシテ被告人ケイノ右申立ヲ裏書セシメ以テ恰モ松吉ニ於テ右八百圓ヲ其

家宅搜索ニ於ケル偽造證憑ノ任意提出ト偽造證憑使用罪ノ構成ニ關シ
 被告人ケイノ偽造證憑ノ關係ニ關シ共謀ニ因リ共同正犯ト身分ニ因リ構成スヘキ犯罪他
 人ノ刑事被告事件ニ關係スル證憑偽造方同時ニ自己ノ刑事被告事件ニ關係アル場合
 卜犯罪ノ成否

ノ買收運動費ニ充當セルカノ如キ形跡ヲ作為シ同人ノ敍上供述ニ對スル反證ノ用ニ供セムコトト爲シタルカ同年三月二十六日ニ至リ果シテ良助モ亦右選舉違反事件ニ連座檢舉セラレ次テ松吉外七名ト共ニ前記裁判所支部豫審ニ付セラレタルヨリ茲ニ被告人家壽治同ケイハ前記計畫ヲ遂行シテ良助ノ急ヲ救ヒ併セテ被告人家壽治自身ノ失格ヲモ防止セムコトヲ圖リ

第一 被告人家壽治同ケイハ共謀ノ上

(イ) 被告人ケイニ於テ同年四月上旬頃東京市四谷區鹽町三丁目十九番地佐々木早苗方ニ於テ右良助等ニ對スル選舉違反被告事件ニ關シ敍上假裝事實證明ノ用ニ供スヘキ目的ヲ以テ自己振出森十吉宛金額八百圓振出日同年一月二十三日支拂期日同年三月二十二日ナル約束手形一通(證第三號ノ一)ヲ作成シ以テ右他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ偽造シ

(ロ) 被告人ケイハ同年五月十八日前記裁判所古川支部豫審廷ニ於テ豫審判事代理判事縣宏ヨリ右良助等ニ對スル選舉違反被告事件ノ證人トシテ訊問ヲ受クルヤ宣誓ノ上自分ハ同年一月二十二、三日頃森十吉ヨリ藝妓抱入資金トシテ金八百圓ヲ借受ケ所持シ居タルカ偶々青山松吉ヨリ豫テ同人ニ借受ケ居タル金八百圓ノ債務辨濟方督促ヲ受ケタル爲之カ辨濟トシテ同月下旬頃右八百圓ヲ松吉ニ交付セル旨虛偽ノ陳述ヲ爲シ更ニ同年六月一日及翌二日ノ兩回ニ互リ前回ニ引續キ仙臺地方裁判所廳内ニ於テ同判事ヨリ同被告事件ノ證人トシテ重ネテ訊問ヲ受クルヤ其ノ都度前回ト同趣旨ノ虛偽ノ陳述ヲ爲シテ各偽證シ

(ハ) 被告人家壽治同ケイハ前記約束手形一通ヲ偽造スルヤ敍上計畫ニ基キ原審相被告人十吉ヲ教唆シ同人ヲシテ右被告事件ニ付取調ヲ受クルニ至ラハ前記假裝事實ニ吻合セシムル爲右偽造ニ係ル約束手形ヲ以テ之カ立證ヲ爲サシムル目的ノ下ニ同年四月上旬頃被告人家壽治ニ於テ被告人ケイヨリ右手形ヲ受取り仙臺市ニ持歸リタル上被告人渡ヲ介シ仙臺市荒町所在株式會社七十七銀行荒町支店ニ於テ森十吉ニ對シ右良助等ニ對スル選舉違反被告事件ニ關シ必要アルニ付右手形ヲ以テ其ノ振出日附ノ當時ナル同年一月二十三日ニ週リ同人ヨリ被告人ケイニ對シ金八百圓ヲ貸付ケタルコトニ事實ヲ假裝シ置カレ度キ旨依頼シテ該手形ヲ同人ニ交付シ次テ同月下旬頃被告人家壽治八十吉ヲ同支店ニ訪レ右手形ヲ入手セリヤ否ヤヲ質シ以テ暗ニ前同趣旨ノ依頼ヲ爲シ更ニ同年五月二十日被告人ケイニ於テ同支店ニ到リ十吉ニ對シ被告人ケイカ同月十八日前掲(ロ)ノ如ク虛偽ノ證言ヲ爲シタル顛末ヲ告ケ同事件ニ付當局ノ取調ヲ受クルニ至ラハ前記約束手形ヲ以テ被告人ケイノ右證言ニ符合スルカ如ク貸借ヲ假裝セラレ度キ旨重ネテ懇請シ以テ十吉ヲ教唆シ因テ同人ヲシテ之ニ應シ同年六月一日同被告事件ノ家宅搜索ノ爲仙臺市田町ナル右十吉方ニ臨ミタル前記縣判事ニ對シ前掲偽造ノ約束手形一通(證第三號ノ一)ヲ提出シ敍上假裝事實證明ノ用ニ供シ以テ他人ノ刑事被告事件ニ關スル偽造ノ證憑ヲ使用スルニ至ラシメ

(中略)

タルモノニシテ敍上被告人ノ各偽證ノ所爲ハ夫々任意繼續ニ出テタルモノトス
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中證憑偽造ノ點ハ刑法第六十條第六十條ニ偽證ノ點ハ同法第六十五條第一項第六十條第六十九條第五十五條ニ偽造證憑使用教唆ノ點ハ同法第六十一條第一項第六十條第六十條ニ各該當スルコロ右證憑偽造ト偽造證憑使用教唆トハ其ノ間手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ヲ適用シ犯情重キ後者ノ罪ノ刑ニ從ヒ懲役刑ヲ選擇シ以上ハ同法第四十五條所定ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ則リ重キ偽證罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シ其ノ刑期範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役四月ニ處シ同法第二十一條ニ依リ原審ニ於ケル未決勾留日數中十五日ヲ右本刑ニ算入スヘク押收ニ係ル約束手形一通(證第三號ノ一)ハ本件證憑偽造行爲ヨリ生シタル物ニシテ被告人等以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ刑法第十九條第一項第三號第二項ニ依リ之ヲ沒收シ訴訟費用ハ刑事

家宅搜索ニ於ケル偽造證憑ノ任意提出ト偽造證憑使用罪 偽造證憑使用罪ノ教唆ト偽證罪ノ教唆トノ關係 共謀ニ因リ共同正犯ト身分ニ因リ構成スヘキ犯罪 他ト犯罪ノ成否ト犯罪ノ成否ト關係アル場合

訴訟法第二百三十七條第二百三十八條ニ則リ被告人家壽治同ケイヲシテ之ヲ連帶負擔セシムヘキモノトス
本件公訴事實中被告人家壽治カ被告人ケイ同凌ト共謀シ同人等ノ判示偽證教唆行為ニ共同加功シタリトノ點及被告人
凌カ被告人家壽治ケイト共謀ノ上同人等ノ判示證憑偽造行為並右偽證憑使用ノ教唆行為ニ共同加功シタリトノ點
ハ孰レモ犯罪ノ證明ナキモ前者ハ判示第一ノ(ロ)ノ偽證ノ罪ト連續一罪ノ關係ニ在リトシテ公判ニ付セラレタルモ
ノト認ムヘキヲ以テ特ニ主文ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲サス後者ニ付テノミ刑事訴訟法第三百六十二條ニ則リ無罪ノ言渡
ヲ爲スヘキモノトス

●主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

●理 由

辯護人袴田重司上告趣意書第一點原判決ハ「被告人家壽治同ケイハ共謀ノ上(中略)被告人家壽治同
ケイハ前記約束手形一通ヲ偽造スルヤ敍上計畫ニ基キ原審相被告人十吉ヲ教唆シ同人ヲシテ右被告事
件ニ付取調ヲ受クルニ至ラハ前記假裝事實ニ吻合セシムル爲右偽造ニ係ル約束手形ヲ以テ之カ立證ヲ
爲サシムル目的ノ下ニ同年四月上旬頃被告人家壽治ニ於テ被告人ケイヨリ右手形ヲ受取リ仙臺市ニ持
歸リタル上被告人凌ヲ介シ仙臺市荒町所在株式會社七十七銀行荒町支店ニ於テ森十吉ニ對シ右良助等
ニ對スル選舉違反被告事件ニ關シ必要アルニ付右手形ヲ以テ其ノ振出日附當時ナル同年一月二十三日
ニ遡リ同人ヨリ被告人ケイニ對シ金八百圓ヲ貸付ケタルコトニ事實ヲ假裝シ置カレ度キ旨依頼シテ該

手形ヲ同人ニ交付シ次テ同月下旬頃被告人家壽治ハ十吉ヲ同支店ニ訪レ右手形ヲ入手セリヤ否ヤヲ質
シ以テ暗ニ同趣旨ノ依頼ヲ爲シ更ニ同年五月二十日被告人ケイニ於テ同支店ニ到リ十吉ニ對シ被告人
ケイカ同月十八日前掲(ロ)ノ如ク虛偽ノ證言ヲ爲シタル顛末ヲ告ケ同事件ニ付當局ノ取調ヲ受クル
ニ至ラハ前記約束手形ヲ以テ被告人ケイノ右證言ニ符合スルカ如ク貸借ヲ假裝セラレ度キ旨重ネテ懇
請シ以テ十吉ヲ教唆シ因テ同人ヲシテ之ニ應シ同年六月一日同被告事件ノ家宅搜索ノ爲仙臺市田町ナ
ル右十吉方ニ臨ミタル前記縣判事ニ對シ前掲偽造ノ約束手形一通(證第三號ノ一)ヲ提出シ敍上假裝
事實證明ノ用ニ供シ以テ他人ノ刑事被告事件ニ關スル偽造ノ證憑ヲ使用スルニ至ラシメト判示シタ
リ然レトモ原判決援用ニ係ル第一審第一回公判調書中第一審相被告人森十吉ノ供述記載ニ依レハ判示
ノ如ク最初原審相被告人木下凌カ證第三號ノ一ノ約束手形ヲ持參シ森十吉ニ對シ判示ノ如ク依頼シタ
ル際ニハ同人ハ之ヲ承諾セサリシモノナルモ木下凌ハ無理ニ該手形ヲ置キテ歸リタルモノナリ其ノ爲
森十吉ハ該手形ノ存否ヲスラ失念シテ其ノ後來訪シタル被告人佐々木家壽治ニ對シ該手形ハ來テ居ラ
ヌ旨答ヘタル程ナリ而シテ森十吉ハ該手形ヲ使用スル意思ナカリシ爲同人ハ昭和十一年五月二十三日
仙臺地方裁判所古川支部豫審廷ニ於テ豫審判事代理判事縣宏ヨリ證人トシテ訊問ヲ受ケタル際ニ該手
形ヲ提出シタル事蹟ナカリシ其ノ後昭和十一年六月一日判示ノ如ク縣判事カ森十吉宅ノ家宅搜索ニ臨
ミタル際同判事ヨリ一八百圓ノ手形カアルカト尋ネラレ止ムヲ得ヌ同人ハ同判事ノ求メニヨリ該手

家宅搜索ニ於ケル偽造證憑ノ任意提出ト偽造證憑使用罪ノ偽造證憑使用罪ノ教唆
ト偽證罪ノ教唆トノ關係ニ共謀ニ因リ共同正犯ト身分ニ因リ構成スヘキ犯罪他
人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑偽造カ同時ニ自己ノ刑事被告事件ニ關係アル場合
ト犯罪ノ成否

形ヲ提出スルニ至リタルモノニシテ(森十吉ニ對スル昭和十一年六月二日附檢事聽取書第十項御參照)即換言スレハ當時縣判事ハ強制力ヲ以テ家宅搜索中ナレハ假ニ森十吉ニ於テ該手形ノ提出ヲ拒ミタリトスルモ同判事ハ同人ノ意思如何ニ拘ラス之ヲ押收シ得ル狀況ニアリシモノナルニ依リ右ノ事實ヲ目シテ偽造證憑ヲ使用シタリト爲スハ甚タ事ノ真相ニ遠サカリタル認定ナリト謂ハサルヘカラス從ヒテ被告人佐々木家壽治ニ對シ右犯罪ニ關シ其ノ教唆ノ責ヲ問ヒタル原判決ハ理由不備ノ違法若クハ重大ナル事實ノ誤認アリト思料スト謂フニ在リ

然レトモ原判決カ證據ニ依リテ認定セル事實ニ依レハ被告人佐々木家壽治ハ原審相被告人淺水屋ケイト共謀ノ上菅井良助ニ對スル衆議院議員選舉法違反被告事件ニ關シ同事件ニ於ケル被告人青山松吉ノ選舉運動費金千二百圓ハ佐々木家壽治ノ選舉事務長菅井良助ヨリ之カ交付ヲ受ケタル旨ノ供述ヲ覆シ以テ自己ノ當選失格ヲ防止センコトヲ圖リ右選舉費ハケイカ森十吉ヨリ約束手形ヲ以テ借受ケタル金員ヲ青山松吉ニ融通シタリトノ事實ヲ虛構センカ爲前記菅井良助ニ對スル被告事件ニ關シ之カ證憑トシテケイ振出森十吉宛約束手形ヲ作製シテ之ヲ森十吉ニ交付シタル上同人ニ對シテ若シ右被告事件ニ付當局ノ取調ヲ受クルニ至ラハ右手形ヲ提出シテ貸借關係ノ存在スルカ如ク假裝セラレンコトヲ懇請教唆シ遂ニ同人ヲシテ豫審判事代理判事縣宏ヨリ家宅搜索ヲ受クルヤ右約束手形ヲ提出シテ貸借關係存在ノ證明ノ用ニ供セシメ以テ他人ノ刑事被告事件ニ關スル偽造ノ證憑ヲ使用スルニ至ラシメタリト

【要旨第一】

謂フニ在リテ右事實ハ右證據ニ依リテ優ニ之ヲ認ムルニ足リ記錄ニ徵スルモ事實認定ニ疑アルヲ見ス然ラハ右偽造證憑タル手形ノ使用ハ所論ノ如ク判事ヨリ「八百圓ノ手形カアルカ」ト尋ネラレ其ノ求ニ應シテ右手形ヲ提出シタルモノナル以上十吉ノ任意ノ提出ニ係ルモノト解スルヲ相當トスルカ故ニ原判決カ被告人ノ右偽造證憑使用罪ノ教唆ヲ認メ之ヲ刑法第四百條第六十一條ニ問擬シタルハ相當ニシテ論旨ハ理由ナシ

同第二點原判決ハ被告人佐々木家壽治ニ對シ原審相被告人淺水屋ケイ竝木下凌ト共謀シ同人等ノ森十吉ニ對スル偽造教唆行爲ニ共同加功シタリトノ事實ニ關シ犯罪ノ證明ナキ旨判示シタリ然ルニ本件公訴事實ニ於テハ森十吉ニ對スル偽造教唆ト偽造證憑使用教唆トハ其ノ事實構成上可分シ得サル關係ニアルモノナリ即森十吉ニ對スル偽造教唆行爲ハ必然同人ニ交付シアリタル證第三號ノ一ノ約束手形ノ使用即偽造證憑使用ノ教唆行爲ヲモ意味スル關係ニアルモノニシテ原判決モ亦斯ク本件事實ヲ觀念シテ審判ヲ爲シタルモノナルコト其ノ判文上ヨリ窺知シ得ラルルナリ故ニ此ノ兩個ノ教唆行爲ハ斷シテ分離シタル觀察ヲ許ササルモノトス從ヒテ原判決ノ如ク偽造教唆ノ關係ニ付犯罪ノ證明ナシトスルナラハ須ク偽造證憑使用教唆ノ關係ニ付キテモ亦同趣旨ノ判斷ヲ爲スヘキモノナルニ拘ラス事茲ニ出サリシ原判決ハ理由齟齬ノ違法アリト思料スト謂フニ在レトモ

【要旨第二】

偽造證憑使用罪ト偽造トハ等シク國家ノ審判權ヲ危殆ナラシムル犯罪ナリト雖モ一カ物的證憑ニ關ス

家宅搜索ニ於ケル偽造證憑ノ任意提出ト偽造證憑使用罪ノ教唆ト偽造罪ノ教唆トノ關係共謀ニ因リ共同正犯ト身分ニ因リ構成スヘキ犯罪ト人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑偽造カ同時ニ自己ノ刑事被告事件ニ關係アル場合ト犯罪ノ成否

ルモノナルニ反シ他ハ人的證憑ニ關スルモノニシテ自ラ其ノ犯罪構成要件ヲ異ニスルカ故ニ偽造證憑
使用ヲ教唆シタレハトテ當然ニ偽造教唆ヲ伴フモノニ非ス然ラハ原判決カ被告人ニ對スル公訴事實中
偽造證憑使用教唆罪ヲ認メナカラ偽造教唆罪ニ付犯罪ノ證明十分ナラストシテ同罪ノ成立ヲ認定セサ
リシトテ何等理由齟齬ノ違法存スルモノト謂フヘカラス論旨ハ理由ナシ

辯護人鈴木義男、北村利夫上告趣意書第四點原判決ハ其ノ事實理由第一ニ於テ「被告人家壽治同ケイ
ハ共謀ノ上……(ロ)被告人ケイハ同年五月十八日前記裁判所古川支部豫審廷ニ於テ豫審判事代理判
事縣宏ヨリ右良助ニ對スル選舉違反被告事件ノ證人トシテ訊問ヲ受クルヤ宣誓ノ上自分ハ同年一月二
二十三日頃森十吉ヨリ藝妓抱入資金トシテ金八百圓ヲ借受ケ所持シ居タルカ偶々青山松吉ヨリ豫テ同
人ニ借受ケ居タル金八百圓ノ債務辨濟方督促ヲ受ケタル爲之カ辨濟トシテ同月下旬頃右八百圓ヲ松吉
ニ交付セル旨虛偽ノ陳述ヲ爲シ更ニ同年六月一日及翌二日ノ兩回ニ互リ前回ニ引續キ仙臺地方裁判所
應内ニ於テ同判事ヨリ同被告事件ノ證人トシテ重ネテ訊問ヲ受クルヤ其ノ都度前回ト同趣旨ノ虛偽ノ
陳述ヲ爲シテ各偽證シ」ト認定シ被告人家壽治ヲ偽證罪ノ共同正犯トシテ處斷シタリ然レトモ犯罪ノ
共同正犯ハ其ノ實行行爲ニ加功スルニ因リテ成立スルモノニシテ之カ實行ニ加功セサルニ於テハ教唆
又ハ幫助犯トナルハ格別共同正犯トナルモノニアラス偽證罪ハ法律ニ因リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述
ヲ爲スニ因リテ成立スルモノナルヲ以テ證人ニアラサル者カ該犯罪ノ實行行爲ニ加功スルコト能ハサ

ルモノナリトス從テ同罪ニ於テハ教唆又ハ從犯關係アリトシテ處斷スルハ格別共同正犯トシテ處斷ス
ルコトヲ得サルモノトス故ニ本件ニ於テ被告人家壽治ヲ偽證罪ノ共同正犯ナリトシテ處斷スルニハ被
告人家壽治ハ被告人淺水屋ケイノ偽證ニ付如何ナル加功ヲ爲シタルモノナリヤヲ事實理由ニ明示セサ
ルヘカラサルモノナリトス況ヤ原審公判調書ニ依レハ被告人家壽治ハ被告人ケイノ右證人トシテ虛偽
ノ陳述ヲ爲スニ付何等ノ協議ヲ爲シタルコトナシト主張スルノミナラス被告人ケイモ亦右證人トシテ
出頭スルニ付被告人家壽治ト何等ノ打合セヲ爲シタルコトナシト供述スルニ於テヤ然ルニ原判決ハ
被告人家壽治ハ被告人ケイノ右偽證ヲ爲スニ付如何ナル加功ヲ爲シタルヤヲ明ニスル所ナク輒ク被告
人家壽治ヲ偽證ノ共同正犯トシテ處斷シタル原判決ハ事實理由不備ノ違法アルカ又ハ擬律錯誤ノ違法
アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云フニ在レトモ

共謀ノ事實アレハ假令實行行爲ヲ分擔セサルモ共同正犯ノ責任ヲ生スルコトハ夙ニ本院判例ノ趣旨ト
スル所ナルノミナラス此ノ理ハ偽證罪ノ如キ犯人ノ身分ニ因リテ構成スヘキ犯罪ニ依リ宣誓シ
タル身分ナキ者カ加功シタル場合ニ於テモ理ニ於テ異ルナシ原判決カ被告人ニ於テ判示ノ如ク豫メ原
審相被告人淺水屋ケイト偽證ヲ謀議シ其ノ結果ケイカ判示ノ如ク偽證ヲ遂行シタル旨判示セル以上偽
證罪ノ共同正犯ノ判示トシテ何等缺クルトコロナク又原判決カ判示事實ヲ認メ被告人ノ行爲ヲ偽證罪
ニ問擬シタルハ洵ニ正當ニシテ原判決ニハ所論ノ如キ違法ナク論旨ハ畢竟獨自ノ見解ニ基キ原判決ヲ

【要旨第三】

家宅搜索ニ於ケル偽造證憑ノ任意提出ト偽造證憑使用罪ノ構成ニ關シテ
ト偽證罪ノ教唆トノ關係ニ關シテ共同正犯ト身分ニ因リ構成スヘキ犯罪他
人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑偽造方同時ニ自己ノ刑事被告事件ニ關係アル場合
ト犯罪ノ成否

非難スルモノニ外ナラサルカ故ニ理由ナシ

同第七點原判決ハ第一點舉示ノ判示ヲ以テ被告人家壽治ヲ證憑偽造罪ニ問擬シタリ然レトモ百歩ヲ讓リテ判示ノ如キ文書ノ作成アリタリトスルモ記録上明ナル如ク淺水屋ケイカ松吉ニ鑛山用トシテ交付シタル八百圓ヲ選舉ニ流用セラレタルモノナルカ故ニケイニシテ選舉違反被疑者トシテ取調ヘテ受クルニ至ランカ第一ニ出資者ト認メラルルハ家壽治ニシテ此ノ場合家壽治ハ自ラ刑事被告人トナルノ虞レアリタルモノニシテ自己防衛上斯クノ如キ行爲ニ出テタルモノニシテ發意作成ノ時ハ菅井良助カ未ダ檢舉セラレサル以前ニシテ自己ノ罪責ヲ免レントシタルニ出テ未タ以テ他人ノ刑事事件ニ付證憑ヲ偽造シタリト云フコト能ハス證憑偽造罪ハ他人ノ刑事事件ニ關スルコトヲ要シ自己カ刑事責任ヲ免レシカ爲爲ストキハ偽造罪トナルモノニアラス即原判決ハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト謂フニアレトモ

【要旨第四】

苟クモ他人ノ刑事被告事件ニ關シ證憑ヲ偽造スルニ於テハ偶々該偽造證憑カ同時ニ自己ノ刑事被告事件ニ關係ヲ有スル場合アリトスルモ證憑偽造罪ノ成立ニ何等ノ消長ヲ來スモノニ非ス然ラハ原判決ハ所論判示事實ヲ認定シ之ヲ刑法第四百四條ニ問擬シタルハ當然ニシテ毫モ所論ノ如キ違法アルモノト謂フヘカラス若シ夫レ手形作製ノ時期カ菅井良助檢舉前ナリトノ事實ヲ主張スルニ至リテハ事實ヲ誣フルノ甚シキモノナリ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事武松久吉關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件(昭和十二年(九)第一六五九號 棄却)

【上告人】 被告人 小笠原精治 辯護人 森田重次郎
外一名
【第一審】 青森區裁判所 【第二審】 青森地方裁判所

○判示事項

衆議院議員選舉法第九十五條ノ二ニ所謂選舉運動ノ意義

○判決要旨

衆議院議員選舉法第九十五條ノ二ニ所謂選舉運動ハ之ヲ届出後十ラムニハ合法ニ爲シ得ヘキ選舉運動ニ限ルモノニアラス

【参照】 衆議院議員選舉法第九十五條ノ二 選舉運動ハ第六十七條第一項乃至第三項 衆議院議員選舉法第九十五條ノ二ニ所謂選舉運動ノ意義

ノ届出アリタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
 同法第九十八條 何人ト雖投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサルノ目的ヲ以テ戸別訪問ヲ爲スコトヲ得ス
 何人ト雖前項ノ目的ヲ以テ連續シテ個個ノ選舉人ニ對シ面接シ又ハ電話ニ依リ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス
 同法百二十九條 第九十五條ノ二、第九十六條第一項、第九十八條若ハ第九十八條ノ二ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 刑法第五十四條第一項 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人小笠原精治ヲ罰金二百圓ニ同菊池勇吉ヲ罰金八十圓ニ處ス各被告人ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人精治ヲ百日同勇吉ヲ八十日間各勞役場ニ留置ス被告人勇吉ヨリ金十圓ヲ追徴ス訴訟費用ハ全部被告人兩名ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人精治ハ昭和十二年四月三十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ青森縣第一區ヨリ立候補シ同月七日其ノ旨ノ届出ヲ爲シタル議員候補者森田重次郎ノ選舉委員ニ選任セラレタルモノ被告人勇吉ハ同選舉區ノ選舉人ナルトコロ

第一 被告人精治ハ

(イ) 右候補者ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ同年四月三日青森市大字浦町字橋本地内小笠原精一ノ住宅建築場ニ於テ同住宅ノ建築ニ從事シ居リタル同選舉區ノ選舉人和田常吉、阿部順三及小倉勝正ノ三名ニ對シ前記森田重次郎カ立候補シタル曉ニハ同人ニ投票セラレ度キ旨依頼シ以テ連續シテ個個ノ選舉人ニ對シ面接シ一面立候補届出前ノ選舉運動ヲ爲シ

(ロ) 同月十一日同縣東津輕郡野内村大字淺虫村淺虫驛附近ニ於テ被告人勇吉ノ要求ニ應シ同人ニ對シ同候補者ノ爲投票並投票取纏運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金十圓ヲ供與シ

第二 被告人勇吉ハ前記(ロ)記載ノ日時場所ニ於テ被告人精治ニ對シ同候補者ニ對スル投票並投票取纏ノ報酬トシテ金錢ヲ供與セラレ度キ旨要求シ同人ヨリ右趣旨ノ下ニ金十圓ノ供與ヲ受ケタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人精治ノ判示所爲中個面接ノ點ハ衆議院議員選舉法(以下單ニ選舉法ト略稱ス)第九十八條第二項百二十九條ニ立候補届出前ノ選舉運動ノ點ハ同法第九十五條ノ二、百二十九條ニ各該當スルトコロ右ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ犯情重シト認ムル個個ノ面接ノ罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇スヘク金錢供與ノ點ハ選舉法第十二條第一項第一號ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇スヘク右個面接ノ罪ト金錢供與ノ罪トハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十八條ニ則リ各罪ニ付定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ同被告人ヲ罰金二百圓ニ處スヘク被告人勇吉ノ判示金錢收受ノ所爲ハ選舉法第十二條第一項第四號ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ所定罰金額範圍内ニ於テ同被告人ヲ罰金八十圓ニ處スヘク各被告人ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ主文第二項

衆議院議員選舉法第九十五條ノ二ニ所謂選舉運動ノ意義

掲記ノ如ク各被告人ヲ夫々勞役場ニ留置スヘク被告人勇吉ノ收受シタル現金十圓ハ之ヲ沒收スルコト能ハサルニヨリ
選舉法第百十四條後段ニ則リ同被告人ヨリ其ノ價額ヲ追徴スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第二百三十八
條ニ從ヒ全部被告人兩名ノ連帶負擔タルヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人森田重次郎上告趣意書第四點原判決ハ擬律錯誤ノ違法アリ破毀ヲ免レサルモノナリ
信ス原審ハ「立候補届出前ノ選舉運動ノ點ハ同法第九十五條ノ二」ト判示シ其ノ適用條文ヲ明示シタ
リ然レトモ第九十五條ノ二ニ所謂「選舉運動」ナルモノハコレヲ狹義ニ解シ届出後ナラハ合法的ナル
運動モ届出前ニコレヲ爲セハ違法トナル旨ヲ規定セルモノニシテ届出後ニ爲スモ非合法ナル選舉運動
ヲハ含ムモノニ非スト解スルヲ妥當ナリト信ス原審カコノ點ヲ區別セス漫然本件ニ本條ヲ適用セルハ
失當ナリト謂フニアレトモ

【要旨】

現行衆議院議員選舉法ハ舊法ト異リ選舉公正保持ノ爲立候補ノ届出前ニ在リテハ其ノ届出後ニ至レハ
合法ニ爲シ得ヘキ選舉運動ニ付テスラ之ヲ禁止シ蒞ムニ刑罰制裁ヲ以テセルニ鑑レハ所論ノ如ク衆議
院議員選舉法第九十五條ノ二ニ所謂選舉運動ヲ届出後ナラムニハ合法ニ爲シ得ヘキ選舉運動ニ限ルノ
謂ハレアルコトナシ然ラハ原判決ニハ毫モ法律ノ解釋適用ヲ誤リタル違法ナク論旨ハ理由ナシ(其ノ
他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事有安堅三關與

○町會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和十二年(九)第一五六九號 破毀自判)

【上告人】 被告人 村井勘十郎

【第一審】 福江區裁判所 【第二審】 長崎地方裁判所

○判 示 事 項

戸別訪問又ハ個個面接ノ罪ト詐偽投票罪ノ教唆犯トノ關係

○判 決 要 旨

戸別訪問又ハ個個面接ノ罪ト詐偽投票罪ノ教唆犯トノ關係

戸別訪問又ハ個個面接ヲ爲シテ詐僞投票ヲ教唆シ其ノ實行ニ出テシメタルトキハ戸別訪問又ハ面接ノ罪ト詐僞投票罪ノ教唆犯トハ併合罪ノ關係ニ在リテ想像上ノ競合罪ノ關係ニ在ルモノニ非ス

【參照】町村制第三十六條ノ二 町村會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法第九十一條、第九十二條、第九十八條、第九十九條第二項、第一百條、第一百條ノ二、第四百十二條及第四百十七條ノ規定ヲ準用ス

同第三十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

衆議院議員選舉法第九十八條 何人ト雖投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサルノ目的ヲ以テ戸別訪問ヲ爲スコトヲ得ス

何人ト雖前項ノ目的ヲ以テ連續シテ個個ノ選舉人ニ對シ面接シ又ハ電話ニ依リ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス

同法第二百二十七條 選舉人ニ非サル者投票ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

氏名ヲ詐稱シ其ノ他詐僞ノ方法ヲ以テ投票ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

投票ヲ僞造シ又ハ其ノ數ヲ増減シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

選舉事務ニ關係アル官吏、吏員、立會人又ハ監視者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ五年以

下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

同法第二百二十九條 第九十五條ノ二、第九十六條第一項、第九十八條若ハ第九十八條ノ

二ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ一年以

下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

刑法第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス

教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

同法第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリ

タルトキハ止タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

同法第四十八條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金六十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ六十日間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十二年四月一日施行ノ長崎縣南松浦郡福江町町會議員選舉ニ際シ立候補シタル者ナル處第一 自己ニ投票ヲ得ル目的ヲ以テ

(一) 前記選舉當日同町福江郷居住ノ選舉人梁瀬猪之吉、二木四郎、中崎龜太郎、井川四郎、荒尾勘六、小島徳三郎、竹野利三郎、藤田長八、仁木彦十郎方ヲ戸別ニ歴訪シ

戸別訪問又ハ個個面接ノ罪ト詐僞投票罪ノ教唆犯トノ關係

(一) 前同日同郷海濱ニ於テ連續シテ選舉人岩永權四郎、井川利三郎ニ個個ニ面接シ

第二 前項記載ノ如ク其ノ頃記載ノ日時場所ニ於テ選舉人梁瀬猪之吉、二木四郎、中崎龜太郎、荒尾勘六、井川四郎、竹野利三郎方ニ戸別訪問ヲ選舉人井川利三郎ニ個個面接ヲ爲シタル際之等無筆ノ選舉人ニ夫々自己ノ氏名ヲ切抜キタル型紙ヲ交付シ之ニ墨汁ヲ塗リテ自己ノ氏名ヲ投票用紙ニ顯出セシメ宛モ自書シタルモノノ如ク装ヒテ投票ヲ爲スヘキ旨ヲ教唆シテ之等選舉人ヲシテ孰レモ選舉當日福江町役場ニ開設セラレタル選舉會場ニ於テ右教唆通りノ詐僞投票ヲ爲サシメタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中第一ノ點ハ町村制第三十六條ノ二第三十七條衆議院議員選舉法第九十八條第二百二十九條ニ第二ノ點ハ町村制第三十七條前記選舉法第二百二十七條第二項刑法第六十一條第一項ニ該當スル處以上ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ヲ適用シ重キ第二ノ罪ニ付定メタル刑ニ從ヒ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金六十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ則リ六十日間勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

原判決ヲ破毀ス

被告人ヲ罰金六十圓ニ處ス

右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ六十日間勞役場ニ留置ス

○理 由

被告人上告趣意書一、上告人ハ第二審タル長崎地方裁判所ニ於テ開廷セラレタル昭和十二年七月十六日午前九時ノ公判期日ニ出廷スベキ筈ナリシモ、疾病ノ爲右公判期日前醫師ノ診斷書ヲ添ヘ、公判延期ノ申立ヲ爲シタリ。然ルニ原裁判所ハ之ヲ許サズシテ、同年七月十六日被告人闕席ノ第一審判決ノ通り罰金六十圓ニ處セラレタルハ、不當ナリト云フニ在レドモ

刑事訴訟法第三百六十七條ニ依レバ、罰金以下ノ刑ニ該ル事件又ハ罰金以下ノ刑ニ處スベキモノト認ムル事件ニ付被告人出頭セザルトキハ、其ノ後ノ取調ニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處スベキモノト認ムル場合ヲ除クノ外、被告人ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得ベク、右規定ガ控訴ノ審判ニモ準用セララルコトハ、同法第四百七條ノ明規スル所ナレバ、原審ガ被告人ノ所論公判延期ノ申請ヲ許サズ、被告人ノ陳述ヲ聽カズシテ判決ヲ爲シ、被告人ヲ罰金六十圓ニ處シタレバトテ、所論ノ如キ違法アルモノト謂フベカラズ。論旨ハ理由ナシ。

二、被告人ノ罪質ハ他ノ町會議員選舉違反事件ニ較ベ輕微ナルニモ拘ラズ、他ノ被告人ヨリ重刑ニ處セラレシハ不當ナリト云フニ在レドモ

記録ヲ精査シ、被告人ノ罪質犯情等諸般ノ事情ヲ考察スルニ、原判決ガ被告人ヲ罰金六十圓ニ處シタレバトテ、之ヲ目シテ量刑甚シク不當ナリト思料スベキ顯著ナル事由アルモノト爲スコトヲ得ズ。論旨ハ理由ナシ。

然レドモ、原判決カ判示第一ノ戸別訪問並個々面接ノ行爲ハ町村制第三十六條ノ二、第三十七條、衆議院議員選舉法第九十八條、第二百二十九條ニ、第二ノ詐僞投票教唆ノ行爲ハ町村制第三十七條、衆議

戸別訪問又ハ個個面接ノ罪ノ詐僞投票罪ト教唆犯トノ關係

院議員選舉法第二百二十七條第二項、刑法第六十一條第一項ニ該當シ、右ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルモノトシテ刑法第五十四條第一項前段第十條ヲ適用シ、重キ第二ノ罪ニ付定メタル刑ニ從ヒテ處斷スベキモノト判示セル點ニ擬律錯誤ノ違法アルモノト思料セラル。

今職權ヲ以テ此ノ點ヲ調査スルニ、抑々戸別訪問又ハ個々面接ノ罪ハ、投票ヲ得又ハ得シムルノ目的ヲ以テ連續シテ戸別ニ選舉人宅ヲ訪問シ又ハ個々ノ選舉人ニ對シ面接スルニ因リテ成立シ、敢テ其ノ趣旨ヲ通告スルノ要ナキコトハ既ニ本院判例ガ反覆スル所ナレバ、本件ニ於ケルガ如ク、詐偽投票教唆ノ目的ヲ以テ戸別訪問又ハ個々面接ヲ爲ストキハ、右教唆行爲ヲ俟ツマデモナク即時ニ戸別訪問又ハ個々面接ノ罪ハ成立完了スルモノト解セザルベカラズ。然リ而シテ教唆行爲自體ヲ以テ所謂犯罪ノ實行ト解スルコトハ、當ニ立法上一個ノ問題タルノミナラズ、刑法第六十一條第一項ガ教唆犯ヲ規定シテ「人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス」ト謂ヒ、以テ教唆ノ從屬性ヲ明言シ且教唆ノ教唆ニ止マルモノヲ處罰スルニ特別ノ明文ヲ存セル我カ現行法制ノ下ニ於テハ到底之ヲ認容スルニ由ナキ所トス。果シテ然ラハ判示第一及第二ノ事案カ刑法第四十五條前段ノ併合罪ノ關係ニ在ルモノナルコトハ、極メテ明白ニシテ、之ヲ目シテ刑法第五十四條第一項前段ノ所謂想像上ノ數罪ト爲シタル原判決ニハ大ナル誤謬アリテ此ノ點ニ於テ原判決ハ破毀ヲ免ルルヲ得ズ。仍テ原判決認定ノ事案ヲ法律ニ照スニ、判示第一ノ行爲ハ町村制第三十六條ノ二、第三十七條、衆議

【要旨】

院議員選舉法第九十八條、第二百二十九條ニ該ルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇スベク、判示第二ノ行爲ハ町村制第三十七條、衆議院議員選舉法第二百二十七條第二項、刑法第六十一條第一項ニ該ルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇スベク、而シテ右第一ノ行爲及第二ノ事案中ノ各行爲ハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十八條第二項ニ則リ被告人ヲ罰金六十圓ニ處スベク、右罰金ヲ完納スルコト能ハザルトキハ、同法第十八條ニ則リ六十日間勞役場ニ留置スベキモノトス。以上ノ理由ニ因リ刑事訴訟法第四百三十四條第二項、第四百四十七條、第四百四十八條ニ則リ主文ノ如ク判決ス。

檢事村上常太郎關與

○村會議員選舉罰則違反被告事件

(昭和十二年(九)第一七三五號
同年十二月四日第五刑事部判決)

棄却

【上告人】 被告人 本多清義 辯護人 望月三男也

【第一審】 吉原區裁判所 【第二審】 靜岡地方裁判所

連續シタル投票買收行爲ト共同正犯